

愛知県埋蔵文化財センター調査報告書 第224集

みなみ やま ちょう い せき  
南山町遺跡

しら き い せき  
白木遺跡

2024

公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団  
愛知県埋蔵文化財センター



## 序

愛知県の尾張北部は木曾川を県境として岐阜県と接し、ここには大山城のある付近を扇頂とする扇状地地形が広がっています。南西方向に半径約13キロメートルの範囲に広がる木曾川扇状地(大山扇状地)の扇尖部に江南市と丹羽郡大口町は立地しています。

調査が行われた江南市南山町遺跡と丹羽郡大口町白木遺跡は、扇状地を流れる五条川を挟んでそれぞれ右岸・左岸に位置します。これら遺跡周辺の江南市小折・曾本地区は、中期から後期を中心とする数多くの古墳が分布し「小折古墳群」として知られています。当時の村々の活発な活動が想像される場所でもあります。

公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団愛知県埋蔵文化財センターでは、令和元年度から令和3年度にかけて道路改良工事(一般国道155号)に伴う事前調査として発掘調査を実施しました。その結果、南山町遺跡では奈良・平安時代を中心とした時期の建物跡や鎌倉・室町時代の区画溝や柱穴など、対岸の白木遺跡では竪穴建物や大型の掘立柱建物などが検出され、古代、中世の居住城が確認されました。この地域ではこれまで不明瞭であった時期の人々の営みを伝える貴重な資料を得ることができました。

本書はこれらの成果をまとめたものであり、学術的な資料として今後広く活用されるとともに、埋蔵文化財の理解への一助となれば幸いと存じます。

最後になりましたが、調査に対しての御理解、御協力を賜りました関係諸機関ならびに地元の皆様、発掘調査や資料整理に参加協力していただきました多くの方々へ厚くお礼を申し上げます次第であります。

令和6年3月

公益財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団  
理事長 岡本 範重

## 例 言

1. 本書は、江南市南山町西、南山町中、南山町東に所在する南山町遺跡（県遺跡番号060063）、丹羽郡大口町豊田一丁目に所在する白木遺跡（県遺跡番号230074）の発掘調査報告である。
2. 南山町遺跡と白木遺跡の発掘調査は、道路改良工事（一般国道155号）にかかる事前調査として、愛知県建設局一宮建設事務所道路整備課より愛知県県民文化局を通じて委託を受けた公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団愛知県埋蔵文化財センターが実施した。
3. 調査期間（調査面積）は、南山町遺跡が令和2年7月から10月（1,040㎡）、令和4年1月から3月（700㎡）、白木遺跡が令和2年2月から3月（370㎡）である。
4. 発掘調査は南山町遺跡を池本正明（調査課長）・堀木真美子（主任専門員）・武部真木（調査研究専門員）、白木遺跡を池本・早野浩二（調査研究専門員）が担当した。
5. 発掘調査にあたっては、次の各関係機関のご指導とご協力を得た。  
愛知県県民文化局文化部文化芸術課文化財室・愛知県埋蔵文化財調査センター・愛知県建設局一宮建設事務所道路整備課・大口町生涯教育部歴史民俗資料館・江南市教育委員会教育部生涯学習課・江南市歴史民俗資料館
6. 南山町遺跡の令和2年度発掘調査については、橋本技術株式会社（現場代理人：橋本岩夫・調査補助員：高居芳美・測量技師：川崎雄二）より調査業務全般の支援を受けた。令和3年度発掘調査については、掘削業務及び測量業務を橋本技術株式会社（現場代理人：井上美和・測量技師：土田富司）に委託して実施した。  
白木遺跡の発掘調査については、株式会社イビソク（現場代理人：水谷 誠・調査補助員：壁谷奈央・測量技師：江田大樹）より調査業務全般の支援を受けた。
7. 報告書作成にかかる整理作業において、出土遺物の実測・トレース作業の一部を株式会社地域文化財研究所、出土遺物の写真撮影を有限会社写真工房遊、金属製品の保存処理を株式会社東都文化財保存研究所にそれぞれ委託した。
8. 発掘調査、報告書作成の過程で、次の各氏からご指導、ご協力を得た。  
赤塚次郎 浅田博造 小澤一弘 佐々有三 城ヶ谷和広 龍 はる香 西松賢一郎 望月友恵
9. 本編の執筆は、第1章1-(1)、2、第2章、第5章1と全体の編集を武部真木、第1章1-(2)、第3章、第5章2を早野浩二、第4章2を鬼頭 剛（主任専門員）が担当した。なお、第4章1は株式会社パレオ・ラボ分析結果を武部がまとめて編集を行った。
10. 遺構番号は原則として発掘調査時に用いたものを踏襲した。なお、使用する遺構記号は以下のとおりであるが、厳密な統一性はない。  
SK：土坑 SI：竪穴建物 SB：掘立柱建物 NR：自然流路 SX：その他不明遺構
11. 発掘調査および本書で使用した座標は、国土地院第Ⅷ系に準拠した。ただし、表記は新測地系（世界測地系）による。
12. 海拔表記は東京湾平均海面（T.P.）の数値である。
13. 本編で使用する土層の色調については、『新版標準土色帳』を参考に記述した。
14. 発掘調査の記録（実測図、写真等）は、公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団愛知県埋蔵文化財センターで保管している。なお、遺跡の略記号は南山町遺跡が「ILMY」、白木遺跡が「IXSK」である。
15. 出土遺物は、愛知県埋蔵文化財調査センターで保管している。  
〒498-0017 愛知県弥富市前ヶ須町野方802-24

# 目次

第1章 遺跡と調査の概要	
1 遺跡の概要	1
(1) 南山町遺跡・白木遺跡の位置と環境	
(2) 周辺の遺跡	
2 調査の経緯・経過	14
第2章 南山町遺跡	
1 調査の概要	16
2 20A区・20B区の検出遺構	16
(1) 20A区の遺構	
(2) 20B区の遺構	
3 21A区・21B区の検出遺構	24
(1) 21A区の遺構	
(2) 21B区の遺構	
4 20A区・20B区の出土遺物	32
5 21A区の出土遺物	37
遺構一覧表・遺物一覧表	44
基本平面図・写真図版	58
第3章 白木遺跡	
1 既往の調査	76
2 調査の概要	77
3 調査の経過	77
4 基本層序	78
5 検出遺構	79
6 竪穴建物群	81
(1) 003SI・005SI・014SI	
(2) 007SI・010SI	
(3) 008SI・009SI	
7 掘立柱建物群	85
8 その他の遺構・遺物	85
遺物一覧表・写真図版	89
第4章 自然科学分析	
1 放射性炭素年代測定 (AMS)	100
2 南山町遺跡・白木遺跡における層序と堆積年代	106
第5章 総括	
1 南山町遺跡の調査成果	112
2 白木遺跡の調査成果	114
(1) 遺構・遺物と遺跡の変遷	
(2) 古代の遺構と時期変遷	
(3) 古代の遺構と遺跡の評価	

## 挿図目次

第1図	南山町遺跡・白木遺跡調査地点位置図	1
第2図	南山町遺跡・白木遺跡周辺の遺跡	3
第3図	南山町遺跡・白木遺跡周辺地籍図・空中写真	4
第4図	南山町遺跡・白木遺跡周辺遺跡出土遺物1 (江南市歴史民俗資料館所蔵)	5
第5図	南山町遺跡・白木遺跡周辺遺跡出土遺物2 (江南市歴史民俗資料館・一宮市博物館所蔵)	6
第6図	南山町遺跡・白木遺跡周辺遺跡出土遺物3 (江南市歴史民俗資料館所蔵)	7
第7図	南山町遺跡・白木遺跡周辺遺跡出土遺物4 (江南市歴史民俗資料館所蔵)	8
第8図	南山町遺跡・白木遺跡周辺遺跡出土遺物5 (大口町歴史民俗資料館所蔵)	9
第9図	南山町遺跡・白木遺跡周辺遺跡出土遺物6 (大口町歴史民俗資料館所蔵)	10
第10図	南山町遺跡・白木遺跡調査区配置図 (S=1/5,000)・標高断面模式図	14
第11図	20A・B区南壁断面図-1 (S=1/100)	17
第12図	20A・B区南壁断面図-2 (土層注記)	18
第13図	20A・B区南壁断面図-3 (土層注記)	19
第14図	20A区054SD平面・北壁断面図 (S=1/50)	20
第15図	20A区054SD南壁断面図 (S=1/50)	21
第16図	20B区 その他の遺構平面・断面図 (S=1/50)	21
第17図	20B区148SD付近 (S=1/50)	22
第18図	20B区集石遺構089～092SU (S=1/50)	23
第19図	20B区115SX付近 (S=1/50)	24
第20図	21A区南壁断面図-1 (S=1/100)	25
第21図	21A区南壁断面図-2 (土層注記)	26
第22図	21A区147SI (竪穴建物) (S=1/50)	27
第23図	21A区036SK,080SK付近平面・断面図 (S=1/50)	28
第24図	21A区020,026,029SD・130SD付近平面・断面図 (平面図S=1/200, 断面図S=1/50)	28
第25図	21A区掘立柱建物190SB平面・断面図 (平面S=1/80, 断面S=1/50)	29
第26図	21A区 その他の遺構平面・断面図 (S=1/50)	30
第27図	21B区平面・断面図 (S=1/80)	31
第28図	20A区出土遺物実測図-1 (S=1/4)	33
第29図	20A区出土遺物実測図-2 (S=1/4)	34
第30図	20B区出土遺物実測図-1 (S=1/4)	35
第31図	20B区出土遺物実測図-2 (S=1/4)	36
第32図	20B区出土遺物実測図-3 (S=1/4)	37
第33図	20B区出土遺物実測図-4 (S=1/4)	38
第34図	21A区出土遺物実測図-1 (S=1/4)	39
第35図	21A区出土遺物実測図-2 (S=1/4)	40
第36図	出土石器・石製品実測図 (S=1/4)	42
第37図	白木遺跡?出土遺物 (大口町歴史民俗資料館所蔵)	76
第38図	基本土層断面図	78
第39図	基本遺構平面図・概略図	80
第40図	003SI・005SI・014SI遺構図 (S=1/40)	81
第41図	003SI・005SI出土遺物実測図	82
第42図	007SI・010SI遺構図 (S=1/80)	83
第43図	007SI出土遺物実測図	83

第44図	008SI・009SI 遺構図	84
第45図	008SI 出土遺物実測図	85
第46図	掘立柱建物遺構図・出土遺物実測図	86
第47図	中世遺構 061SK 実測図・出土遺物実測図	87
第48図	自然流路 001NR・下位の堆積層 101NR 出土遺物実測図	87
第49図	その他出土遺物実測図	88
第50図	南山町遺跡・白木遺跡における分析試料採取地点	106
第51図	地点1（南山町遺跡21A区）における深掘の地層断面	110
第52図	地点3（南山町遺跡20A区）南壁中央部の地層断面	110
第53図	地点5（南山町遺跡21B区）西壁における深掘の地層断面	110
第54図	地点2（南山町遺跡20B区）における深掘の地層断面	111
第55図	地点4（南山町遺跡20A区）南壁北端における深掘の地層断面	111
第56図	地点6（白木遺跡19区）西端における深掘の地層断面	111
第57図	地点7（白木遺跡19区）調査区中央部における深掘断面	111
第58図	南山町遺跡 主要遺構変遷図	113
第59図	白木遺跡の遺構分布	114
第60図	古代の遺構と時期変遷	116
第61図	白木遺跡と下田南遺跡の大型建物の比較	116
第62図	古代の白木遺跡とその周辺	117

## 挿表目次

表1	南山町遺跡・白木遺跡周辺遺跡出土遺物 （江南市歴史民俗資料館・一宮市博物館所蔵）一覧表	8
表2	南山町遺跡・白木遺跡周辺遺跡出土遺物（大口町歴史民俗資料館所蔵）一覧表	10
表3	調査担当者および調査支援スタッフ	15
表4～11	南山町遺跡 遺構一覧表（1）～（8）	44～51
表12～17	南山町遺跡 遺物一覧表（1）～（6）	52～57
表18	白木遺跡？出土遺物（大口町歴史民俗資料館所蔵）一覧表	77
表19	白木遺跡 検出遺構一覧表	79
表20	白木遺跡 遺物一覧表	89
表21	測定試料および処理（土器付着炭化物）	101
表22	測定試料および処理（炭化材）	101
表23	南山町遺跡 放射性炭素年代測定および暦年校正の結果	103
表24	南山町遺跡 放射性炭素年代測定および暦年校正の結果	103
表25	白木遺跡 測定試料および処理	105
表26	白木遺跡 放射性炭素年代測定および暦年校正の結果	105
表27	地点1（21A区）、地点4（20A区）、地点5（21B区）の火山灰分析結果	110
表28	地点2（20B区）の火山灰分析結果	110
表29	地点2（20B区）における放射性炭素年代測定結果	110
表30	地点3（20A区）、地点4（20A区）の放射性炭素年代測定結果	110
表31	地点6（19区）、地点7（19区）の火山灰分析結果	111
表32	地点6（19区）における放射性炭素年代測定結果	111

## 写真図版目次

写真図版 1	南山町遺跡・白木遺跡周辺遺跡出土遺物 長塚遺跡・上原寺遺跡出土遺物（江南市歴史民俗資料館蔵）
写真図版 2	南山町遺跡・白木遺跡周辺遺跡出土遺物 曾本二子山遺跡・長塚遺跡・「小折富士塚周辺」・「木賀、小折富士塚周辺」 （江南市歴史民俗資料館蔵）
写真図版 3	（南山町遺跡）遺跡遠景空撮写真
写真図版 4	（南山町遺跡）20A 区全景／20B 区全景
写真図版 5	（南山町遺跡）20A 区 054SD／055SP／046SK／20B 区集石遺構
写真図版 6	（南山町遺跡）20B 区 個別遺構
写真図版 7	（南山町遺跡）20B 区 個別遺構
写真図版 8	（南山町遺跡）21Aa 区全景空撮写真／21Ab 区全景空撮写真
写真図版 9	（南山町遺跡）21Ab 区竪穴建物 147SI／21A 区全景
写真図版 10	（南山町遺跡）21Aa 区 015SK／023SK／050SK／010, 011SK／ 045, 085SK／020SD／21Ab 区 152SK
写真図版 11	（南山町遺跡）21Aa 区・21Ab 区・21B 区 個別遺構
写真図版 12	（南山町遺跡）遺物写真
写真図版 13	（南山町遺跡）遺物写真
写真図版 14	（南山町遺跡）遺物写真
写真図版 15	白木遺跡遠景
写真図版 16	白木遺跡調査区全景・土層断面
写真図版 17	（白木遺跡）竪穴建物 003SI
写真図版 18	（白木遺跡）竪穴建物群
写真図版 19	（白木遺跡）大型竪穴建物 008SI
写真図版 20	（白木遺跡）竪穴建物 003SI・大型竪穴建物 008SI
写真図版 21	（白木遺跡）掘立柱建物群
写真図版 22	（白木遺跡）掘立柱建物群・自然流路 001NR・101NR
写真図版 23	（白木遺跡）遺物写真
写真図版 24	（白木遺跡）遺物写真



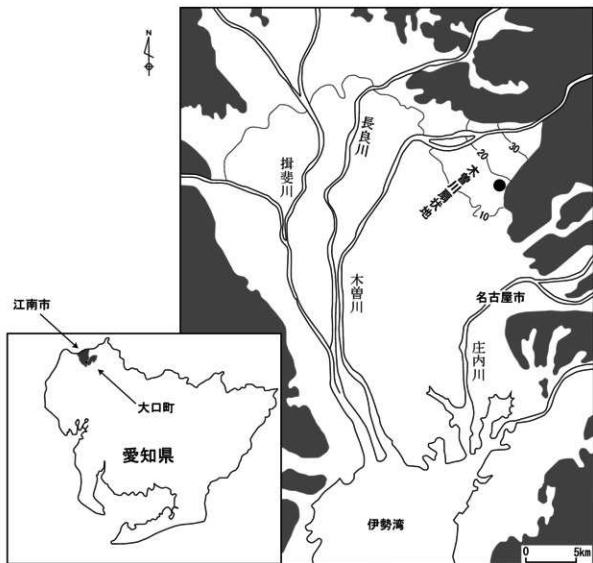
## 第1章 遺跡と調査の概要

### 1 遺跡の概要

#### (1) 南山町遺跡・白木遺跡の位置と環境

南山町遺跡は愛知県江南市南山町、隣接する白木遺跡は丹羽郡大口町豊田にあり、愛知県北西部に位置し、名古屋市からは北へ約18kmの距離にある。両遺跡は現在の市町村境となっている五条川を挟んでそれぞれ右岸・左岸に立地している。

調査地点は木曾川伊勢湾に注ぐ河口から約55kmの上流部に位置し、大山市から南西方向に広がる半径約12km、標高約10mまでの木曾川扇状地(あるいは大山扇状地とも呼ばれる)に立地している。扇状地の形は一般に谷の出口を扇状地の頂点とした同心円状のゆるい勾配の円錐形をなす。扇状地はその頂点から扇頂、中央部分を扇央、下流端の部分は扇端とよばれ、今回の調査地点は扇央部にあたる。調査地点周辺の標高は約16mである。



第1図 南山町遺跡・白木遺跡調査地点位置図

## (2) 周辺の遺跡

**縄文時代** 縄文時代の遺跡として、草創期の有舌先頭器が採集されている中原遺跡(大口町)、早期の土器と石器が出土している北替地遺跡(大口町)等がある。弥生時代の遺跡として、昭和30年頃に中期の磨製石織が採集された桐野遺跡(江南市)、終末期の堅穴遺構等が確認された大御堂遺跡(大口町)等がある。曾本二子遺跡(江南市)からは後期の赤彩広口壺(第4図1)等が昭和32年に採集されている。

**古墳時代** 古墳時代の遺跡として、平成17年に個人住宅建設中に発見された布袋下山北遺跡(江南市)がある。黒褐色の遺物包含層中からは古墳時代前期のS字甕(第4図3)等が出土している。上層遺跡においては、古墳時代前期から中期の円筒埴輪が採集されている。

**小折古墳群** 江南市小折・曾本地区には古墳時代中期から後期を中心とする多数の古墳が分布し、「小折古墳群」とも称されるが、消滅した古墳も多い。南山町遺跡の北側には富士塚古墳が近接する。古墳は径30mの円墳ともされるが、造出付円墳、前方後円墳の可能性も指摘されている。古墳南西の天王山遺跡では昭和32年に中期後半から後期前半の円筒埴輪(第4図4～14)と形象埴輪(同15)が採集され、前方後円墳が存在した可能性も指摘されている。

白木遺跡の西側には白木古墳、いわき(岩木)塚古墳(滅)、白亀塚古墳(滅)が近接する(いずれも大口町)。現存する白木古墳は径12mの円墳とされる。いわき塚古墳は昭和初期、盛土を除去した際に「横穴式石室が現れ」たことから「岩き塚」と呼ばれ、地籍図(第3図)に残る地割からは径21mの円墳に還元される。乳文鏡、大刀と三角徳式鉄銚、須恵器等の遺物が大口町歴史民俗資料館に収蔵されているが(第8図・第9図1～13)、鉄銚や大刀は白亀塚古墳から発見されたともされ、帰属は明らかではないとのことである。平成13年に大口町からの依頼で愛知県埋蔵文化財センターが大刀をX線撮影したところ、刃間に花文の象嵌があることが判明した。神福神社古墳(大口町)は全長54mの前方後円墳ともされるが、それを疑問視する意見もある。社殿付近からは平成16年に須恵器(第9図14)が採集されている。

曾本二子山古墳(江南市)は全長60mの前方後円墳で、明治20年の発掘調査で金銅装馬具等が発見されている。馬具等は東京国立博物館に収蔵されている。

**古代寺院** 7世紀第3四半期に造営された長福寺廃寺(一宮市)は昭和14年、尾張地域最初に発掘調査が行われた古代寺院としても著名である。伽藍配置は不明である。付近からは金銅誕生釈迦仏立像と金銅天部立像が出土している。

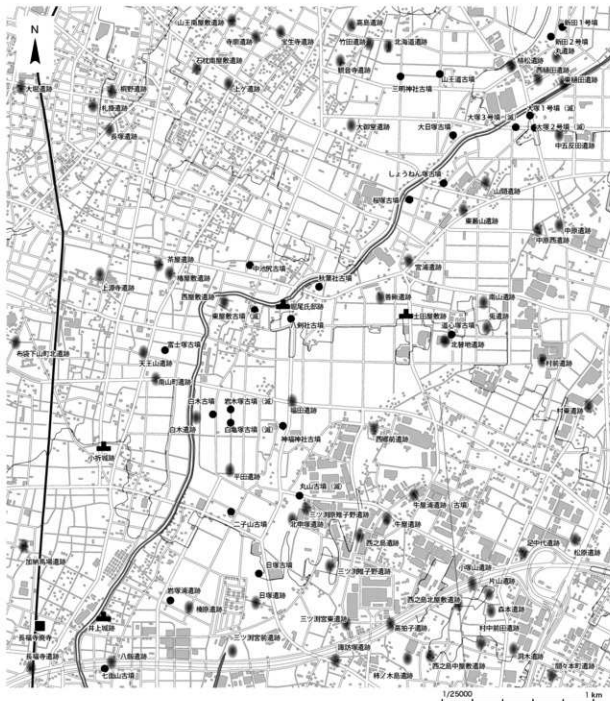
**古代の遺跡** 周辺の古代の遺跡については、いずれも内容、性格が不明である。江南市木賀一帯の遺物出土地は現在、長塚遺跡として登録されている。昭和32年から同45年にかけて採集された7世紀から8世紀の須恵器、土師器等(第5図1～15)が江南市歴史民俗資料館と一宮市博物館に収蔵されている。特筆される遺物として、「岡本」、「七十」の刻書須恵器(同7・8)、「美濃」施印須恵器(同10)がある。近接する桐野遺跡においても、昭和30年頃に「美濃」施印須恵器が採集されている。

天王山遺跡で昭和32年に採集された8世紀の須恵器(第5図16)、瓦塔は一宮市博物館に収蔵されている。同時に収蔵された遺物中には「美濃」施印須恵器(同18)も含まれるが、出土地や収蔵の経緯は不明である。

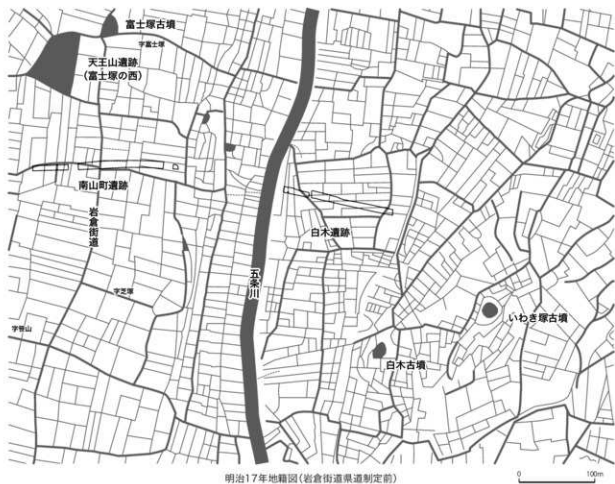
その他、江南市歴史民俗資料館には「小折富士塚周辺」、「木賀、小折富士塚周辺」として収蔵されている須恵器を中心とする遺物があるが、「木賀」出土として『市史』に掲載されている遺物と混在していることから、出土地には疑問も付される(第6図)。

**中世の遺跡** その他、古代から中世の遺跡として、上源寺遺跡（江南市）がある。平成7年の発掘調査においては、奈良時代の建物が検出され、須恵器、土師器、灰軸陶器等（第7図）が出土した。

**堀尾氏邸跡** 堀尾吉晴の故地との伝承もある堀尾氏邸跡（大口町）は、平成21年の発掘調査で堀尾氏が活躍した16世紀代に営まれた屋敷地の一角が明らかとなった。生駒屋敷跡（江南市）は小折村領主としての生駒氏の屋敷で、絵図、地籍図からは屋敷地が復元され、「小折城」の存在も推定されている。

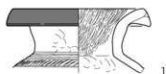


第2図 南山町遺跡・白木遺跡周辺の遺跡

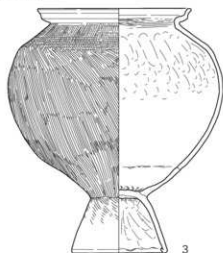


第3図 南山町遺跡・白木遺跡周辺地籍図・空中写真

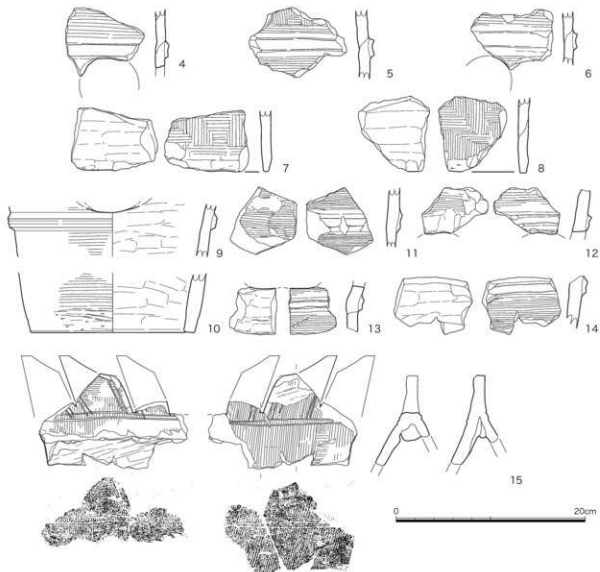
曾本二子遺跡「曾本二子」



布袋下山北遺跡

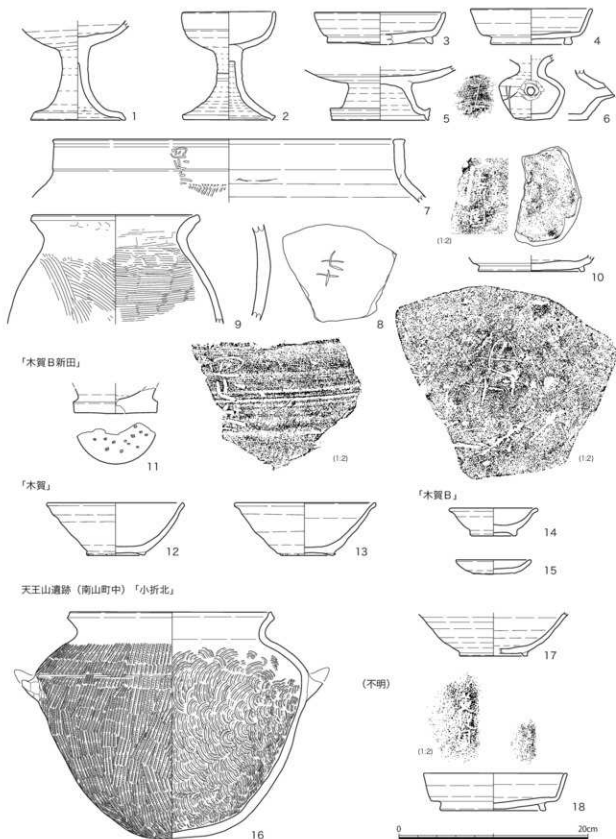


天王山遺跡



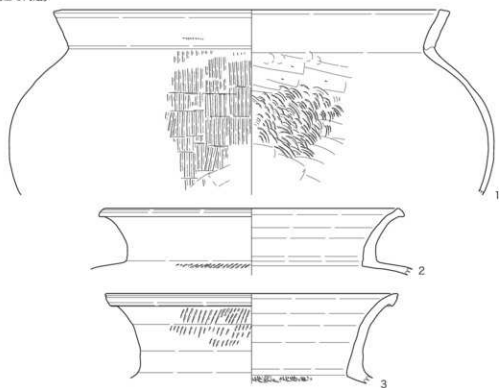
第4図 南山町遺跡・白木遺跡周辺遺跡出土遺物1(江南市歴史民俗資料館所蔵)

長塚遺跡（木質新町東塚）「木質字長塚（現新塚）」

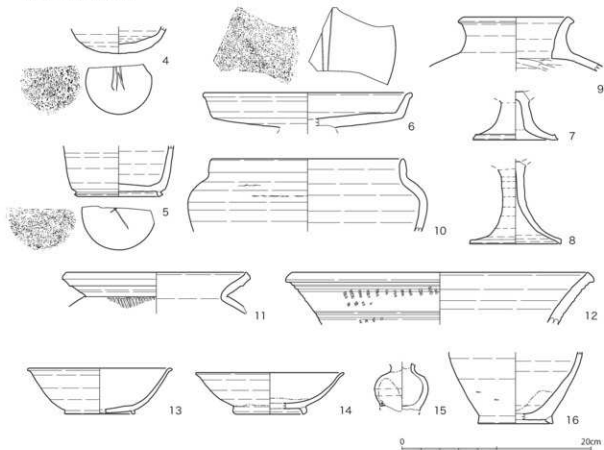


第5図 南山町遺跡・白木遺跡周辺遺跡出土遺物2（江南市歴史民俗資料館・一宮市博物館所蔵）

「小折富士塚周辺」

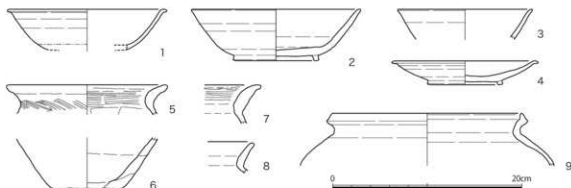


「木賀、小折富士塚周辺」



第6図 南山町遺跡・白木遺跡周辺遺跡出土遺物3（江南市歴史民俗資料館所蔵）

上源寺遺跡



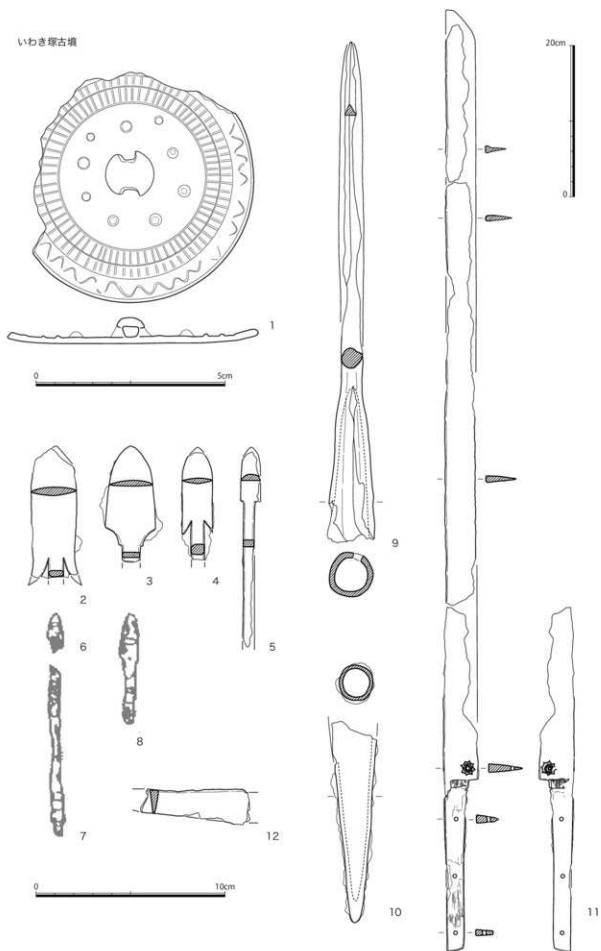
第7図 南山町遺跡・白木遺跡周辺遺跡出土遺物4（江南市歴史民俗資料館所蔵）

表1 南山町遺跡・白木遺跡周辺遺跡出土遺物（江南市歴史民俗資料館・宮市博物館所蔵）一覧表

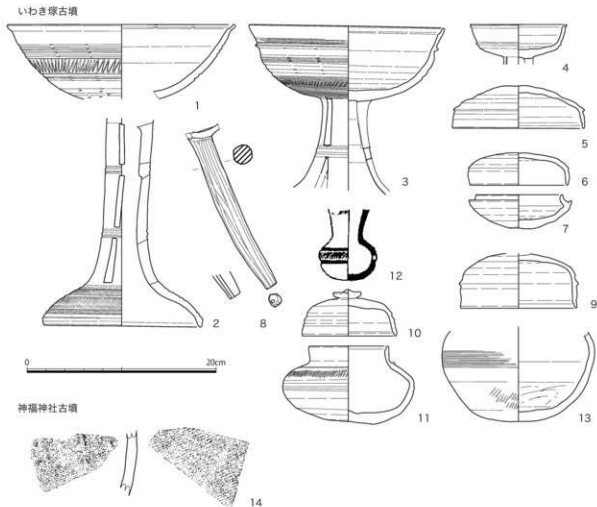
図番号	保存状態	出土地	遺跡名	遺物	器種	形式等	年代1983	年代2001	出土年月日	備考（複製表等）
第401		資本字小鉢（第二子）の五葉形区	資本字二子遺跡	養生 土器 白土面					昭和33年	土陶直式
第402		資本字二子	資本字二子遺跡	養生 土器 小形土器					平成7年	中形横式
第403		白雲山山遺跡	白雲山山遺跡	土器類 文字器					昭和17年4月	蟹山白土器設計中心発見
第404		小軒字天土山（道土塚の西）	天土山遺跡	埴輪 円筒埴輪			4	4	昭和52年	土陶直式（道路改修時発見）
第405		小軒字天土山（道土塚の西）	天土山遺跡	埴輪 円筒埴輪			3	5	昭和52年	土陶直式（道路改修時発見）
第406		小軒字天土山（道土塚の西）	天土山遺跡	埴輪 円筒埴輪			5	3	昭和52年	土陶直式（道路改修時発見）
第407		小軒字天土山（道土塚の西）	天土山遺跡	埴輪 円筒埴輪			8	1	昭和52年	土陶直式（道路改修時発見）
第408		小軒字天土山（道土塚の西）	天土山遺跡	埴輪 円筒埴輪			7	2	昭和52年	土陶直式（道路改修時発見）
第409		小軒字天土山（道土塚の西）	天土山遺跡	埴輪 円筒埴輪					昭和52年	土陶直式（道路改修時発見）
第410		小軒字天土山（道土塚の西）	天土山遺跡	埴輪 円筒埴輪			6		昭和52年	土陶直式（道路改修時発見）
第411		小軒字天土山（道土塚の西）	天土山遺跡	埴輪 円筒埴輪					昭和52年	土陶直式（道路改修時発見）
第412		小軒字天土山（道土塚の西）	天土山遺跡	埴輪 円筒埴輪					昭和52年	土陶直式（道路改修時発見）
第413		小軒字天土山（道土塚の西）	天土山遺跡	埴輪 円筒埴輪			2		昭和52年	土陶直式（道路改修時発見）
第414		小軒字天土山（道土塚の西）	天土山遺跡	埴輪 円筒埴輪					昭和52年	土陶直式（道路改修時発見）
第415		小軒字天土山（道土塚の西）	天土山遺跡	埴輪 形多埴輪		型（土版削）	1		昭和52年	土陶直式（道路改修時発見）
第501	本蔵、小軒富士土塚周辺	本蔵字具屋（既跡地）	具知遺跡	埴輪 高杯					昭和52～53年	土陶直式
第502	2 小軒富士土塚周辺	本蔵字具屋（既跡地）	具知遺跡	埴輪 高杯					昭和52～53年	土陶直式
第503	3 小軒富士土塚周辺	本蔵字具屋（既跡地）	具知遺跡	埴輪 有台杯					昭和52～53年	土陶直式
第504	4 本蔵、小軒富士土塚周辺	本蔵字具屋（既跡地）	具知遺跡	埴輪 有台杯					昭和52～53年	土陶直式
第505	5 小軒富士土塚周辺	本蔵字具屋（既跡地）	具知遺跡	埴輪 高杯					昭和52～53年	土陶直式
第506	6 本蔵、小軒富士土塚周辺	本蔵字具屋（既跡地）	具知遺跡	埴輪 高杯					昭和52～53年	土陶直式
第507	7 本蔵、小軒富士土塚周辺	本蔵字具屋（既跡地）	具知遺跡	埴輪 高杯					昭和52～53年	土陶直式
第508	8 本蔵、小軒富士土塚周辺	本蔵字具屋（既跡地）	具知遺跡	埴輪 高杯					昭和52～53年	土陶直式
第509	9 本蔵、小軒富士土塚周辺	本蔵字具屋（既跡地）	具知遺跡	埴輪 高杯					昭和52～53年	土陶直式
第510	10 一宮寺跡地（「Y」）	本蔵字具屋（既跡地）	具知遺跡	埴輪 有台杯					昭和52～53年	土陶直式
第511	11 本蔵、小軒富士土塚周辺	「本蔵」跡地	具知遺跡	埴輪 高杯					昭和52～53年	土陶直式
第512	12 山形跡2 54号	「本蔵」	具知遺跡	山形跡 高杯					昭和52～53年	土陶直式
第513	13 山形跡2 54号	「本蔵」	具知遺跡	山形跡 高杯					昭和52～53年	土陶直式
第514	14	「本蔵」跡地	具知遺跡	山形跡 小形					昭和52～53年	土陶直式
第515	15	「本蔵」跡地	具知遺跡	山形跡 小形					昭和52～53年	土陶直式
第516	16 一宮寺跡地（「Y」）	「33」2小軒北	天土山遺跡	埴輪 高杯					昭和52年	土陶直式
第517	17 小軒富士土塚周辺	「小軒北」	天土山遺跡？	具知遺跡 高杯		K-14			昭和53年2月	土陶直式
第518	18 一宮寺跡地（「Y」）		不明	埴輪 有台杯					昭和53年	土陶直式
第601	1 小軒富士土塚周辺	小軒富士土塚？	埴輪 高杯						昭和50～50年代	土陶直式
第602	2 小軒富士土塚周辺	小軒富士土塚？	埴輪 高杯						昭和50～50年代	土陶直式
第603	3 小軒富士土塚周辺	小軒富士土塚？	埴輪 高杯						昭和50～50年代	土陶直式
第604	4 本蔵、小軒富士土塚周辺	本蔵、小軒富士土塚？	埴輪 有台杯							
第605	5 本蔵、小軒富士土塚周辺	本蔵、小軒富士土塚？	埴輪 有台杯							
第606	6 本蔵、小軒富士土塚周辺	本蔵、小軒富士土塚？	埴輪 高杯							
第607	7 本蔵、小軒富士土塚周辺	本蔵、小軒富士土塚？	埴輪 有蓋高杯							
第608	8 本蔵、小軒富士土塚周辺	本蔵、小軒富士土塚？	埴輪 高杯							
第609	9 本蔵、小軒富士土塚周辺	本蔵、小軒富士土塚？	埴輪 高杯							
第610	10 本蔵、小軒富士土塚周辺	本蔵、小軒富士土塚？	埴輪 高杯							
第611	11 本蔵、小軒富士土塚周辺	本蔵、小軒富士土塚？	埴輪 高杯							
第612	12 本蔵、小軒富士土塚周辺	本蔵、小軒富士土塚？	埴輪 高杯							
第613	13 本蔵、小軒富士土塚周辺	本蔵、小軒富士土塚？	具知遺跡 高杯			K-14				
第614	14 本蔵、小軒富士土塚周辺	本蔵、小軒富士土塚？	具知遺跡 高杯			K-90				
第615	15 本蔵、小軒富士土塚周辺	本蔵、小軒富士土塚？	具知遺跡 具知小形							
第616	16 本蔵、小軒富士土塚周辺	本蔵、小軒富士土塚？	具知遺跡 高杯							
第701	1 上源寺遺跡	上源寺遺跡	具知遺跡 高杯			K-14				
第702	2 上源寺遺跡	上源寺遺跡	具知遺跡 高杯			K-14				
第703	3 上源寺遺跡	上源寺遺跡	具知遺跡 高杯						970411	
第704	4 上源寺遺跡	上源寺遺跡	具知遺跡 高杯			K-14			970410	
第705	5 上源寺遺跡	上源寺遺跡	土器類 高杯							
第706	6 上源寺遺跡	上源寺遺跡	土器類 高杯							
第707	7 上源寺遺跡	上源寺遺跡	土器類 高杯							
第708	8 上源寺遺跡	上源寺遺跡	土器類 高杯							
第709	9 上源寺遺跡	上源寺遺跡	埴輪 高杯							



いわき塚古墳



第8図 南山町遺跡・白木遺跡周辺遺跡出土遺物5（大口町歴史民俗資料館所蔵）



第9図 南山町遺跡・白木遺跡周辺遺跡出土遺物6(大口町歴史民俗資料館所蔵)

表2 南山町遺跡・白木遺跡周辺遺跡出土遺物(大口町歴史民俗資料館所蔵)一覽表

種	番号	品名	種類	素材	型式等	備考	高木・宮川1968	野村1982	県史2005(編年)
銅	第001	(いわき塚古墳)	青銅製品	鏡	乳文鏡		白鳥塚古墳 銅鏡第2 19	いわき塚古墳 鏡 5	(号直)
銅	第002	(いわき塚古墳)	鉄製品	鉄鏡	平形式	所在不明	白鳥塚古墳 銅鏡第2 37	いわき塚古墳 鏡 2	6 (11/2)
銅	第003	(いわき塚古墳)	鉄製品	鉄鏡	平形式		白鳥塚古墳 銅鏡第2 32	いわき塚古墳 鏡 2	8 (11/3)
銅	第004	(いわき塚古墳)	鉄製品	鉄鏡	平形式	所在不明	白鳥塚古墳 銅鏡第2 33	いわき塚古墳 鏡 2	7 (11/2)
銅	第005	(いわき塚古墳)	鉄製品	鉄鏡	矢形式		白鳥塚古墳 銅鏡第2 34	いわき塚古墳 鏡 2	9 (11/3)
銅	第006	(いわき塚古墳)	鉄製品	鉄鏡	矢形式	所在不明	銅鏡第3 3	いわき塚古墳	
銅	第007	(いわき塚古墳)	鉄製品	鉄鏡	矢形式	所在不明	銅鏡第3 4	いわき塚古墳	
銅	第008	(いわき塚古墳)	鉄製品	鉄鏡	矢形式	所在不明	銅鏡第3 2	いわき塚古墳	
銅	第009	(いわき塚古墳)	鉄製品	鉄鏡	三角鏡式		白鳥塚古墳 銅鏡第2 39	いわき塚古墳 鏡 2	1 (11/4)
銅	第010	(いわき塚古墳)	鉄製品	石鏡			白鳥塚古墳 銅鏡第2 36	いわき塚古墳 鏡 2	2 (11/4)
銅	第011	(いわき塚古墳)	鉄製品	大刀			白鳥塚古墳 銅鏡第2 43	いわき塚古墳 鏡 2	3 (11/4)
銅	第012	(いわき塚古墳)	鉄製品	大刀		所在不明	白鳥塚古墳 銅鏡第2 35	いわき塚古墳 鏡 2	4 (11/2)
銅	第013	(いわき塚古墳)	鉄製品	大刀			白鳥塚古墳 銅鏡第2 42	いわき塚古墳 鏡 2	5 (11/2)
銅	第014	(いわき塚古墳)	鉄製品	刀子	鍔兼刺		白鳥塚古墳 銅鏡第2 38	いわき塚古墳 鏡 2	10 (11/4)
銅	第015	(いわき塚古墳)	銅器	銅石		所在不明	白鳥塚古墳	銅鏡第2 16	銅石 1 (11/4)
銅	第016	(いわき塚古墳)	銅器	銅石			白鳥塚古墳 銅鏡第3 14	いわき塚古墳 銅石 2 (11/4)	
銅	第017	(いわき塚古墳)	銅器	無蓋高杯			白鳥塚古墳 銅鏡第3 13	いわき塚古墳 銅石 3 (11/4)	
銅	第018	(いわき塚古墳)	銅器	無蓋高杯			白鳥塚古墳 銅鏡第3 8	いわき塚古墳 銅石 4 (11/4)	
銅	第019	(いわき塚古墳)	銅器	蓋付高杯			白鳥塚古墳 銅鏡第3 12	いわき塚古墳 銅石 5 (11/4)	
銅	第020	(いわき塚古墳)	銅器	蓋付高杯			白鳥塚古墳 銅鏡第3 6	いわき塚古墳 銅石 6 (11/4)	
銅	第021	(いわき塚古墳)	銅器	蓋付高杯			白鳥塚古墳 銅鏡第3 7	いわき塚古墳 銅石 7 (11/4)	
銅	第022	(いわき塚古墳)	銅器	三足坐			白鳥塚古墳 銅鏡第3 1	いわき塚古墳 銅石 8 (11/4)	
銅	第023	(いわき塚古墳)	銅器	短形坐			白鳥塚古墳 銅鏡第3 11	いわき塚古墳 銅石 9 (11/4)	
銅	第024	(いわき塚古墳)	銅器	短形坐			若子塚 銅鏡第3 5	いわき塚古墳 銅石 10 (11/4)	
銅	第025	(いわき塚古墳)	銅器	短形坐			若子塚 銅鏡第3 10	いわき塚古墳 銅石 11 (11/4)	
銅	第026	(いわき塚古墳)	銅器	鏡		所在不明	銅鏡第3 9		鏡石 6 (11/4)
銅	第027	(いわき塚古墳)	銅器	鏡		所在不明			
銅	第028	神福神社古墳	銅器	鏡		平成16(1)年採集			

## 【参考文献】

- 愛知県 2002『愛知県史』資料篇1 考古1 旧石器・縄文  
 愛知県 2003『愛知県史』資料篇2 考古2 弥生  
 愛知県 2005『愛知県史』資料篇3 考古3 古墳  
 愛知県 2010『愛知県史』資料篇4 考古4 飛鳥～平安  
 愛知県 2017『愛知県史』資料篇5 考古5 鎌倉～江戸  
 愛知県教育委員会 2010『藤尾氏邸宅跡』  
 一宮市・毎日新聞社 1974『尾張平野の古陶器』  
 岩野見司 1998「『岡本』 造書き須恵器の新例」『楡崎彰一先生古稀記念論文集』真福社  
 大口町 1982『大口町史』  
 江南市 1983『江南市史』資料四 文化編  
 江南市 2001『江南市史』本文編  
 高木志朗・宮川芳照 1968『愛知県丹羽郡大口町の古墳』  
 早野浩二 2023「小折古墳群の研究—江南市天王山道路の家形埴輪—」『研究紀要』第24号 公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団愛知県埋蔵文化財センター  
 原久仁子 2003「伝・いゝわき塚古墳出土の銀象嵌文様」『大口町歴史民俗資料館 研究紀要1』大口町歴史民俗資料館  
 宮川芳照 1997「上原寺遺跡」『愛知県埋蔵文化財情報』12 平成7年度 愛知県教育委員会・財団法人愛知県埋蔵文化財センター

## 【挿図出典】

- 第4図 4・5・6・7・8：江南市2001  
 第8図 1：赤塚次郎氏原図 2・4：愛知県2005改 3・5：再実測〔愛知県2005は縮尺1/2（誤）→1/4（正）〕  
 6・7・8：高木・宮川1968 9・10 愛知県2005改 11：愛知県2005改〔図2・5は縮尺1/2（誤）→1/4（正）〕  
 第9図 1・2：愛知県2005改〔文様を加筆〕 3・4・5・13：愛知県2005 6・7・8・9・10・11：再実測  
 12：高木・宮川1968

写真図版 1



南山町遺跡・白木遺跡周辺遺跡出土遺物・長塚遺跡・上源寺遺跡出土遺物（江南市歴史民俗資料館所蔵）

上：長塚遺跡出土遺物

12 下：上源寺遺跡出土遺物

写真図版 1-2



第4図1



第6図7



第5図6



第5図1



第5図2



第6図8



第5図3



第5図4



第5図5



第5図7



第5図8



第5図9



第6図1

南山町遺跡・白木遺跡周辺遺跡出土遺物（江南市歴史民俗資料館所蔵）  
曾本二子遺跡・長塚遺跡・「小折富士塚周辺」・「木賀、小折富士塚周辺」

## 2 調査の経緯・経過

南山町遺跡と白木遺跡の発掘調査は、道路改良工事(一般国道155号)にかかわる事前調査として、愛知県建設局一宮建設事務所道路整備課より愛知県県民文化局を通じて委託を受けた公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団愛知県埋蔵文化財センターが実施した(第10図)。

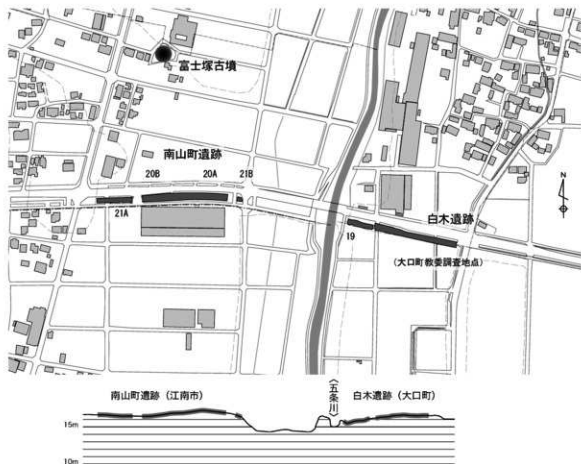
白木遺跡は令和2年2月から3月の期間で370㎡の面積について調査を行った。調査支援として株式会社イビソクの協力を得た。

南山町遺跡は令和2年7月から10月の期間で調査面積1,040㎡をA,B区に分割して実施した。また令和4年1月から3月の期間で調査面積700㎡をAa,Ab,B区に分割して実施した。前者では調査支援として、後者は業務委託という形でいずれも橋本技術株式会社の協力を得た。調査期間中の令和2年10月11日に地元説明会を開催したところ、多くの参加者があった。

整理作業は令和4年度に行い、遺物実測・トレース業務については株式会社地域文化財研究所、遺物写真の撮影を有限会社写真工房遊、金属製品の保存処理を東都文化財保存研究所にそれぞれ委託した。

なお白木遺跡のセンター調査地点東側に隣接する範囲では、大口町教育委員会の監督のもと株式会社バスコにより令和2年7月から令和3年2月の期間で1,024㎡の面積について調査が行われた。整理期間を経て、調査成果は令和4年3月に報告書として刊行されている\*。

註\* 愛知県一宮建設事務所・大口町教育委員会・(株)バスコ(編)、2022、『白木遺跡』



第10図 南山町遺跡・白木遺跡調査区配置図(S=1/5,000)・標高断面模式図

表3 調査担当者および調査支援スタッフ

	調査年度	調査区	調査面積 (㎡)	調査課担当者	調査期間	調査体制				
						現場代理人	調査補助員	測量技師		
南山町遺跡	20	A・B	1,040	池本正明・ 武部真木	令和2年7月 ～10月	(調査支援)	橋本岩夫	高岡芳美	川崎雄二	
						(橋本技術株式会社 (測量業務委託))				
						(池本業務委託)				
南山町遺跡	21	A・B	700	堀本真美子・ 武部真木	令和4年1月 ～3月	(橋本技術株式会社 (測量業務委託))	井上美和	-	-	
						(池本業務委託)				
						(橋本技術株式会社)		-	-	
白木遺跡	19	-	370	池本正明・ 早野浩二	令和2年2月 ～3月	(調査支援)	株式会社イビソク	水谷 誠	壁谷奈央	江田大樹

### 白木遺跡発掘通信

第1号 発掘調査がはじまりました

期1: 2020.2.7

### 白木遺跡発掘通信

第2号 上空から見た白木遺跡と近くの古墳

2月19日開催した発掘通信も好評でした。発掘現場の様子を詳しくご紹介いたします。白木遺跡の空中写真と発掘現場の様子、発掘現場の様子を詳しくご紹介いたします。発掘現場の様子を詳しくご紹介いたします。

### 白木遺跡発掘通信

第3号 発掘調査進む1京東時代。古代埋没部の変遷が分かる

7月16日開催した発掘通信も好評でした。発掘現場の様子を詳しくご紹介いたします。発掘現場の様子を詳しくご紹介いたします。発掘現場の様子を詳しくご紹介いたします。

### 南山町遺跡

発掘調査 地元説明会資料

発掘現場の様子を詳しくご紹介いたします。発掘現場の様子を詳しくご紹介いたします。発掘現場の様子を詳しくご紹介いたします。

発掘通信(白木遺跡)・説明会資料(南山町遺跡)

## 第2章 南山町遺跡

### 1 調査の概要

南山町遺跡は南流する五条川の右岸域に立地し、令和2年(20A,20B区)・令和3年(21A,21B区)の調査地点は、近世までに整備された旧街道(柳街道)付近と五条川との間にあたる。

調査区は五条川に沿って形成された自然堤防を東西に横断する方向に、距離にして約190mを測る細長い形状となった。五条川に近い東部は自然堤防の高まりが大きく削平されていたため表土直下で黄褐色砂質土の基盤層に達し、その西側の旧耕作地(畑)にかけては褐色を基調とする包含層、さらに西側では黒色を基調とする包含層が確認された。

調査では東端の21B区では五条川自然堤防の基盤層、20A区ではこの自然堤防上に掘削された溝の残存部、20B区では古墳時代前期の遺物を含む谷状地形、21A区では奈良時代の竪穴建物が検出されている。柳街道に近い西側の21A区にかけては中世の遺構・遺物が確認されている。なお、付近一帯の耕作土には古墳時代、奈良～平安時代、中世・近世の土器や陶磁器の細片が数多く含まれる。

### 2 20A区・20B区の検出遺構

扇状地形でしかも河川流路に近接した場所であったことから、起伏の大きい旧地形を狭い範囲内で確認することとなった(第11図)。

#### 基本層序と微地形

五条川に近い20A区では表土直下の標高16.4mのレベルで自然堤防の基盤層(細粒砂～中粒砂)が露出し、その下は浅いところで標高15.8mで礫層に達した。旧地形の高まりの幅を推定すると、現況五条川から削平範囲の西端までは距離にして約120mを測る。

そのすぐ西側(20B区東部)では旧流路が想定される谷状地形となっており、幅約20m、地表からは深さ2.6mとなる大きな落ち込みとして確認した。谷状地形の最下層には沈鉄と粘土層が認められ、その上には厚く砂層が堆積する(168SD)。流路を含む谷状地形の埋積土は古墳時代前期土器、灰釉陶器片を包含することから、完全な埋没は平安時代以降とみられる。なお、この範囲については、集石遺構等が検出された上面とともに2面調査となった。

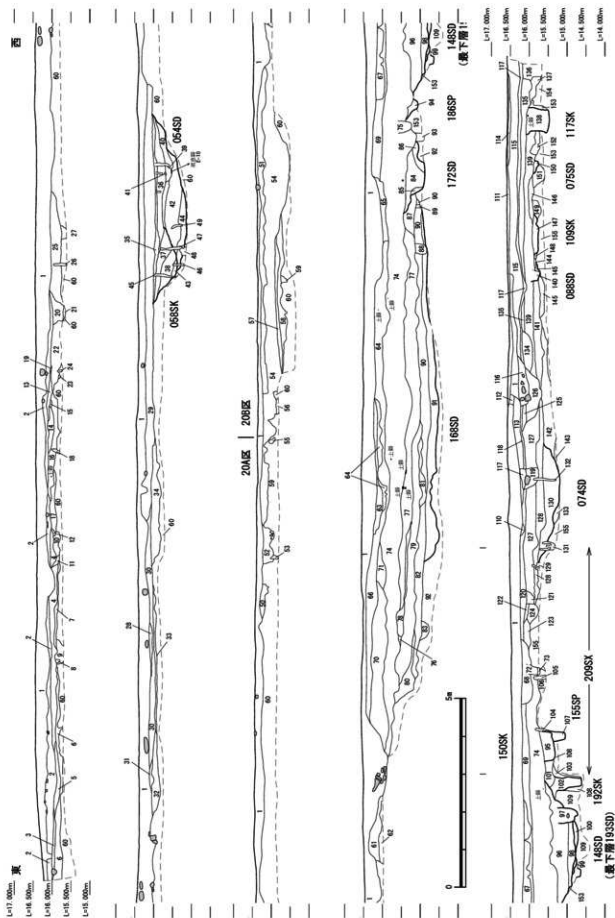
この流路西側の基盤層の高まり(209SX)は南北方向に延びる堤状を呈する。それより西側(20B区西部)は黒色を基調とする砂層が厚く堆積するものの攪拌されており、20B区内では中世陶器の細片をわずかに包含するのみである。粗粒砂の基盤層の標高は15.9mであり一部で礫層が露出する。

#### (1) 20A区の遺構

#### 20A区054SD

054SDは旧五条川流路右岸の自然堤防上に掘削された南北方向の溝で上端は削平されている。検出面での規模は、長さ7.9m、幅5.4m、深さ0.9mである。南壁断面付近で遺構の重複(058SK)と掘り直しが確認できた。埋土中層～上層は主に砂質シルト層で部分的に厚い粗粒砂層が認められ、下層はシルト混じりの砂層である。溝底面では人頭大の大型の円礫1個と古墳時代土師器が検出され、中層で須恵器坏身(14)、8世紀前半代の須恵器等が上層の東側にやや片寄って出土した。含鉄遺物、鉄滓、羽口・炉壁片を上層・下層でそれぞれ確認した。





第11図 20A・B区南壁断面図-1 (S=1/100)

1. 10YR6/4にぶい黄褐色 シルト質極細粒砂層 2~10cm程度の礫含む
2. 10YR3/4暗褐色 極細粒砂層 10YR5/4にぶい黄褐色 極細粒砂が粒状に混じる
3. 10YR4/6褐色 極細粒砂層 2~4cmの礫含む
4. 10YR1/2深黄褐色 シルト層 極細粒砂層
5. 10YR1/1黒褐色 極細粒砂質シルト層
6. 10YR3/4暗褐色 極細粒砂層 10YR5/4黄褐色 シルトが粒状に混じる
7. 10YR6/4にぶい黄褐色 シルト層 しまりあり
8. 10YR3/3暗褐色 シルト質極細粒砂層
9. 10YR4/6褐色 極細粒砂質細粒砂層
10. 10YR5/4黄褐色 細粒砂層 10YR4/6褐色 極細粒砂質ブロック混じる
11. 10YR6/6明黄褐色 細粒砂層 10YR3/4暗褐色 極細粒砂が粒状に混じる
12. 10YR5/4にぶい黄褐色 細粒砂層
13. 10YR5/2にぶい黄褐色 極細粒砂層
14. 10YR4/6褐色 細粒砂層
15. 10YR2/3黒褐色 極細粒砂層
16. 10YR3/3暗褐色 極細粒砂層
17. 10YR4/6褐色 極細粒砂層
18. 10YR3/4暗褐色 極細粒砂層
19. 10YR3/3黒褐色 極細粒砂層
20. 10YR2/3黒褐色 細粒砂層 10YR4/6褐色 極細粒砂がやや粒状に混じる
21. 10YR3/4暗褐色 細粒砂層
22. 10YR2/3黒褐色 シルト層 10YR4/3にぶい黄褐色 極細粒砂質ブロック混じる
23. 10YR2/3黒褐色 シルト質極細粒砂層
24. 10YR2/3黄褐色 シルト層 10YR4/3にぶい黄褐色 極細粒砂ブロック混じる 土器片含む
25. 10YR3/4褐色 極細粒砂層 10YR2/3黒褐色 シルト質細粒砂ブロック混じる
26. 10YR3/4暗褐色 極細粒砂層
27. 10YR4/4褐色 極細粒砂層(中粒砂混じる)
28. 10YR4/4褐色 極細粒砂層 10YR4/6褐色 細粒砂ブロック混じる
29. 10YR3/4暗褐色 極細粒砂層 10YR4/4褐色 極細粒砂ブロック混じる
30. 10YR3/4褐色 細粒砂層 中粒砂混じる
31. 10YR3/4暗褐色 極細粒砂層
32. 10YR3/4暗褐色 極細粒砂層
33. 10YR5/4にぶい黄褐色 極細粒砂層 10YR3/4暗褐色 極細粒砂ブロック混じる
34. 10YR4/4褐色 極細粒砂層 10YR5/6黄褐色 シルト質ブロック混じる
35. 10YR3/4暗褐色 極細粒砂層 しまりあり
36. 10YR3/3暗褐色 極細粒砂層 10YR4/4にぶい黄褐色 シルトが粒状に混じる(05SR処理)
37. 10YR3/3暗褐色 極細粒砂層 10YR2/3黒褐色 粘土ブロック混じる(05SR処理)
38. 10YR4/6褐色 極細粒砂層 10YR2/3黒褐色 極細粒砂が粒状に混じる(05SR処理)
39. 10YR2/3暗褐色 極細粒砂層 10YR4/4褐色 極細粒砂大ブロック混じる 細粒砂混じる
40. 10YR2/3暗褐色 極細粒砂層 10YR4/4褐色 極細粒砂ブロック混じる 細粒砂混じる(05SR処理)
41. 10YR5/6黄褐色 細粒砂層
42. 10YR4/6褐色 シルト質極細粒砂層(05AS処理)
43. 10YR4/6褐色 シルト層(05SR処理)
44. 10YR3/3暗褐色 シルト質極細粒砂層 10YR4/6褐色 シルト質ブロック混じる(05AS処理)
45. 10YR3/4暗褐色 シルト層に10YR4/6褐色シルトが粒状に混じる
46. 10YR5/6黄褐色 シルト質細粒砂層
47. 10YR2/3黒褐色 シルト層
48. 10YR5/4にぶい黄褐色 細粒砂ブロック混じる
49. 10YR4/6褐色 極細粒砂層 10YR3/4暗褐色 細粒砂ブロック混じる
50. 10YR5/4にぶい黄褐色 細粒砂層 10YR3/4暗褐色 極細粒砂が粒状に混じる
51. 10YR3/4暗褐色 細粒砂層
52. 10YR4/6褐色 細粒砂層 10YR2/3黒褐色 極細粒砂が粒状に混じる
53. 10YR4/6褐色 細粒砂層
54. 10YR4/6褐色 細粒砂層 10YR2/3黒褐色 極細粒砂が粒状に混じる
55. 10YR4/6褐色 極細粒砂層 10YR3/4暗褐色 細粒粒砂質細粒砂層
56. 10YR5/6黄褐色 極細粒砂層 細粒砂混じる
57. 10YR6/4にぶい黄褐色 細粒砂層 10YR4/4褐色 細粒砂層の互層 10YR2/3黒褐色 シルト質ブロック混じる
58. 10YR4/6褐色 シルト質細粒砂層 10YR2/3黒褐色 シルト質ブロック混じる
59. 10YR4/6褐色 細粒砂層 10YR2/3黒褐色 シルト質ブロック混じる
60. 10YR5/6黄褐色 シルト質細粒砂層(龍山①)
61. 10YR3/3暗褐色 極細粒砂層 炭化粒含む 10YR5/6黄褐色 極細粒砂ブロック混じる
62. 10YR4/6褐色 極細粒砂層 細粒砂混じる
63. 10YR3/3暗褐色 細粒砂層 5cm程度の角礫含む
64. 5Y2/1黒色 シルト層 しまりあり
65. 10YR3/4暗褐色 極細粒砂質シルト層 しまりあり 灰黄褐色や褐色の現状ブロックが右にかけられて混じる
66. 10YR3/3暗褐色 極細粒砂質シルト層 マンガン痕?
67. 5Y2/1黒色 シルト層 しまりあり
68. 10YR3/3暗褐色 細粒砂質極細粒砂層 黄色土が粒状に少し混じる
69. 10YR3/3暗褐色 極細粒砂質シルト層 マンガン痕? 炭化粒含む
70. 10YR3/4暗褐色 極細粒砂層
71. 10YR3/4暗褐色 極細粒砂質シルト層 土器片、炭化粒含む
72. 10YR5/6黄褐色 シルト層
73. 10YR3/3暗褐色 極細粒砂層 炭化粒含む
74. 10YR4/6褐色 細粒砂と10YR3/4暗褐色 細粒砂のブロック状土層
75. 10YR3/3暗褐色 極細粒砂層
76. 10YR3/3暗褐色 極細粒砂層
77. 10YR4/4褐色 極細粒砂層 10YR3/4暗褐色 極細粒砂質シルトブロック混じる
78. 10YR3/3暗褐色 極細粒砂層 10YR3/4暗褐色 極細粒砂質シルトブロック混じる
79. 10YR3/3暗褐色 極細粒砂質シルト層 土器片含む
80. 10YR4/4褐色 極細粒砂層
81. 10YR3/3暗褐色 極細粒砂層 10YR4/2深黄褐色 シルト
- 10YR4/3にぶい黄褐色 細粒砂のブロック状土層 土器片含む(盛土が) 上に広がって混入している
82. 10YR3/4暗褐色 極細粒砂層 10YR4/2深黄褐色 粘土ブロック状土層 中に広がって混入している
83. 10YR3/4暗褐色 極細粒砂質シルト層 10YR4/2深黄褐色シルト(マンガン痕?)、10YR2/3黒褐色 極細粒砂のブロック状土層
84. 10YR4/6褐色 極細粒砂質細粒砂層 赤茶色の結晶じる(172S埋土)
85. 10YR3/3暗褐色 極細粒砂層 黒色や褐色の混じった細の粘土質ブロック混じる(172S埋土)
86. 10YR4/6褐色 シルト層 黒色や褐色の混じった細の粘土質ブロック混じる(172S埋土)
87. 10YR3/4暗褐色 極細粒砂層
88. 10YR4/6褐色 極細粒砂質シルト層
89. 10YR4/6褐色 極細粒砂層 10YR4/2深黄褐色 極細粒砂ブロック混じる 褐色の結晶混じる
90. 10YR3/3暗褐色 極細粒砂層 2.5YR4/2深黄褐色 粘土ブロック 10YR4/3にぶい黄褐色 極細粒砂のブロック状土層 土器片含む(盛土が) 上に広がって混入している
91. 10YR4/6褐色 シルト質極細粒砂層 10YR4/2深黄褐色極細粒砂と10YR2/3黒褐色粘土と1.5YR4/6褐色粘土の積ブロック混じる(165SPを含む)
92. 10YR4/6褐色 極細粒砂層 暗褐色土が粒状に混じる
93. 10YR4/6褐色 極細粒砂層 暗褐色土が粒状に混じる
94. 10YR3/3暗褐色 極細粒砂層 暗褐色土が粒状に混じる
95. 10YR3/3暗褐色 極細粒砂層 暗褐色土が粒状に混じる
96. 10YR3/3暗褐色 極細粒砂層 10YR4/6褐色 極細粒砂小ブロックが下に混じる(遺構1503S埋土)
97. 10YR3/3暗褐色 極細粒砂質シルト層(148S埋土)
98. 10YR3/4暗褐色 シルト質極細粒砂層
99. 10YR3/3暗褐色 極細粒砂質シルト層(148S埋土)
100. 10YR3/4暗褐色 極細粒砂質シルト層 赤茶色の結晶混じる 黒色や褐色の粘土質ブロック混じる(193SS埋土)
101. 10YR4/6褐色 細粒砂層 10YR3/3暗褐色 中粒砂(赤茶色の結晶混じる)ブロック混じる 黒色や褐色の粘土質ブロック混じる(193SS埋土)
102. 10YR3/3暗褐色 粘土質シルト層 10YR4/6褐色 極細粒砂ブロック(193SS埋土)
103. 10YR5/6黄褐色 極細粒砂質粘土層 10YR3/3暗褐色 シルトブロック 107層と同じか
104. 10YR3/4暗褐色 極細粒砂層 10YR5/6黄褐色 細粒砂小ブロック
105. 10YR3/3暗褐色 細粒砂と10YR5/6黄褐色 細粒砂の現状土層
106. 10YR5/6黄褐色 細粒砂と10YR3/3暗褐色 粘土質シルトの現状土層
107. 10YR3/3暗褐色 シルト質極細粒砂層 10YR4/6褐色 極細粒砂ブロック混じる(155SP埋土)
108. 10YR4/6褐色 シルト質極細粒砂層 暗褐色土がやや粒状に混じる
109. 10YR3/1黒褐色 極細粒砂層 しまりあり 粘性あり
110. 10YR4/4褐色 シルト層 10YR7/4にぶい黄褐色 極細粒砂質シルトブロック、1.5YR4/2深黄褐色と10YR7/4にぶい黄褐色の細の互層が混じる(185Pを含む埋土)
111. 10YR2/3黒褐色 シルト層 1~3cm程度の礫含む
112. 10YR3/3暗褐色 極細粒砂層 しまりなし
113. 10YR3/3暗褐色 極細粒砂層 しまりなし
114. 10YR6/6明黄褐色 中粒砂層 1~3cm程度の礫含む
115. 10YR4/6褐色 極細粒砂層 10YR3/3暗褐色 シルト質ブロック混じる
116. 10YR3/3暗褐色 粘土質極細粒砂層 10~20cm程度の礫含む
117. 10YR3/3暗褐色 極細粒砂層 炭化粒含む
118. 10YR3/3暗褐色 極細粒砂層 炭化粒含む
119. 10YR3/4暗褐色 粘土質シルト層 炭化粒含む
120. 10YR4/6褐色 極細粒砂質シルト層 炭化粒含む
121. 10YR3/3暗褐色 細粒砂層
122. 10YR3/3暗褐色 極細粒砂層
123. 10YR4/4褐色 極細粒砂層
124. 10YR4/6褐色 細粒砂層 10YR3/4暗褐色 シルト質極細粒砂層
125. 10YR3/4暗褐色 シルト層
126. 7.5YR2/3暗褐色 粘土質シルト層
127. 10YR3/3暗褐色 粘土質シルト層
128. 10YR3/3暗褐色 極細粒砂層
129. 10YR5/6黄褐色 細粒砂層 10YR3/3暗褐色 中粒砂ブロックが上に少し混じる

第12図 20A・B区南壁断面図-2(土層注記)

130. 10YR3/3暗褐色 極細粒砂層 細粒砂混じる 10YR4/6褐色  
細粒砂少し混じる(074SD埋土)
131. 10YR5/6黄褐色 細粒砂層 10YR3/4暗褐色  
中粒砂ブロックが上位に少し混じる
132. 10YR3/3暗褐色 粘土質極細粒砂層
133. 10YR3/3暗褐色 極細粒砂(粘性あり)と10YR4/4褐色  
細粒砂の底状混土層
134. 10YR2/3黒褐色 粘土質シルト層
135. 10YR3/4暗褐色 シルト層
136. 10YR3/3暗褐色 極細粒砂層 10YR4/6褐色 細粒砂ブロック混じる
137. 10YR3/3暗褐色 シルト層 10YR5/6黄褐色  
細粒砂小ブロック上位に混じる
138. 10YR3/2黒褐色 極細粒砂層 10YR4/6極細粒砂層  
小ブロック少し混じる(115SK埋土)
139. 10YR3/2黒褐色 細粒質シルト層
140. 10YR3/3暗褐色 細粒砂と10YR4/6褐色 細粒砂の底状混土層  
(088SD埋土)
141. 10YR3/3暗褐色 極細粒砂層
142. 10YR4/6褐色 細粒砂と10YR3/3暗褐色 極細粒砂の底状混土層
143. 10YR5/4にぶい黄褐色 細粒砂層
144. 10YR3/4暗褐色 極細粒砂層
145. 10YR3/4暗褐色 極細粒砂層 10YR4/6褐色 細粒砂小ブロック混じる  
(088SD埋土含む)
146. 10YR3/2黒褐色 極細粒砂層
147. 10YR3/4暗褐色 粘土質極細粒砂層(109SK埋土)
148. 10YR3/4暗褐色 細粒砂層 10YR4/6褐色  
極細粒砂ブロック下位に混じる
149. 10YR4/6褐色 細粒砂層 10YR3/4暗褐色  
極細粒砂ブロック上位に混じる
150. 10YR3/4暗褐色 極細粒砂層(075SD埋土)
151. 10YR3/2黒褐色 極細粒砂と10YR4/6褐色 細粒砂の底状混土層  
10YR4/6褐色 細粒砂ブロック混じる
152. 10YR3/3暗褐色 細粒質極細粒砂層 10YR4/4褐色  
細粒砂小ブロック少し混じる
153. 10YR3/4暗褐色 極細粒砂と10YR4/6細粒砂ブロックの混土層
154. 10YR4/6褐色 細粒砂層 10YR3/3暗褐色 シルト質ブロック混じる
155. 10YR3/6黄褐色 シルト質極細粒砂層(地山D)

第13図 20A・B区南壁断面図-3(土層注記)

## (2) 20B区の遺構

20B区  
集石遺構

表土層を除去した高いレベルで円礫と陶磁器片の集積範囲を検出した。当初は部分的な集石遺構(089,090,091,092SU)と認識して調査を開始したが、その後、長さ約5.0m、最大幅1.5m規模の不整形の範囲となり、堆積状況では明確な掘り込みが確認できないまま、集石は北側へ傾斜して続くことが判明した。円礫や割石が不規則に重なり、これに混在する遺物破片は比較的大きく、須恵器、灰釉陶器、山茶碗などである。また、下層の048SD出土須恵器片と接合する資料(62)も確認されている。円礫は小さなものから人頭大までがあり、割石の一部では被熱により赤く変色したものが認められた。集石の分布範囲は、整地あるいは耕作の際に周辺から除去され、さらに集められた土地区画の境界付近であったと考えられる。

堤状の  
高まり

209SXは盛土ではない基盤層が残された堤状の高まりで、検出長は6.5m、幅が8.4m、最も高い位置は表土直下の標高16.0mである。南北方向に延び、北側へ延長した約180mほど先には富士塚古墳が存在する。遺構上端部では耕作によると思われる土坑状、あるいは溝状の攪乱が認められる。

## 115SX

115SXも上面で検出された集石遺構の北縁の延長線に近い位置で東側に並ぶ。幅約1.0m、長さ4.0m前後の帯状に南東側に伸びる小円礫と遺物の分布範囲を遺構と認識した。溝状の落ち込みは断面では確認できない。090SU等と異なり円礫は小型で少なく、出土遺物は中世山茶碗中心となっている。こちらも耕作地境界付近であったと考えられる。

209SX上面  
の遺構

209SXの上で検出された遺構は多数あり、多くが耕作に関連する攪乱とみられるが、埋土中に多数の小円礫と共に陶磁器を含む。このうち136SKは長さ1.2m、幅0.2m、深さ0.16m、137SKは長さ1.0m、幅0.5m、深さ0.3mである。151SKは長さ1.1m、幅0.6m、深さ0.32mである。須恵器・山茶碗片、加工円盤が出土している。

## 074SD

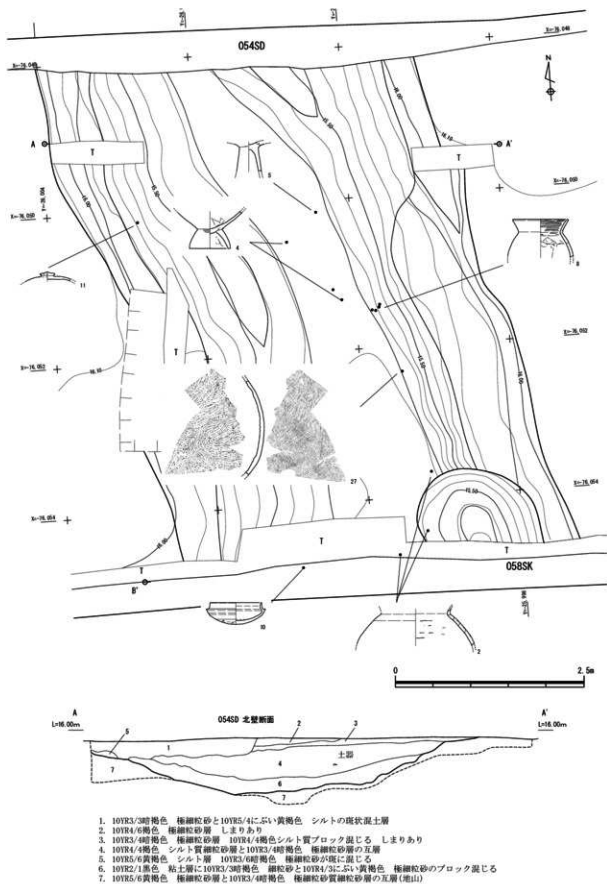
074SDは209SXの西側に沿って広がる。黒色砂質土が堆積し、検出長は7.6m、幅7.0m、深さ0.6mの断面皿状となる凹みであり、底面の標高は15.2mである。この周辺西側と比較して明らかに底面の凹凸が少ない。

148SD  
(193SD)

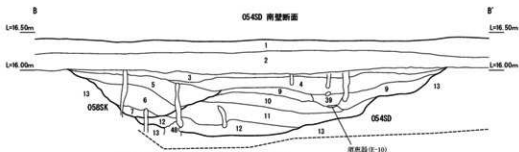
148SDは、五条川に沿う自然堤防の西端から続く旧河道とみられる谷状地形の西側に沿って南北方向に延びる溝である。この西岸は堤状の高まり(209SX)に画される。検出長7.2m、幅2.8m、深さ0.8mであり、最下層(193SD)には中粒～粗粒砂の堆積と沈鉄層が認められる。下層に古墳時代土師器を含み、ほかに須恵器、土師器甕が出土している。上層の集石遺構出土遺物と接合関係(62)が認められる。

## 203SK

203SKは長径1.76m、短径1.03m、深さ0.3mの楕円形土坑であり、底面の標高は14.6m。旧流

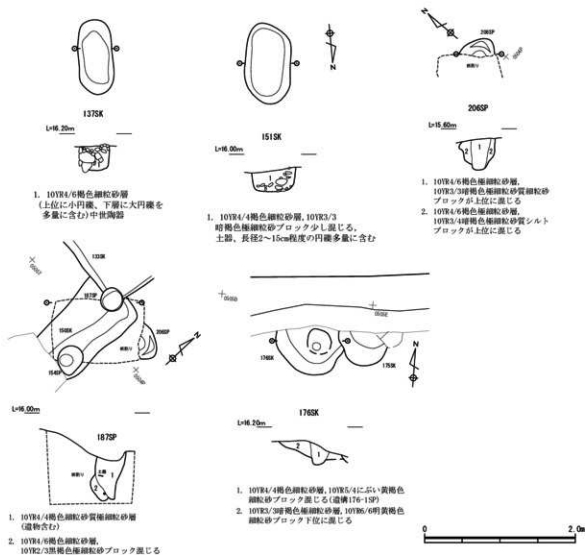


第14図 20A区 054SD 平面・北壁断面図(S=1/50)



1. 10YR4/6褐色 極細粒砂層 1~3cm程度の混含む
2. 10YR3/4暗褐色 極細粒砂層 10YR4/6褐色 細粒砂ブロック混じる
3. 10YR3/4暗褐色 極細粒砂層 しまりあり
4. 10YR3/3暗褐色 極細粒砂と10YR5/4にぶい黄褐色 シルトの塊状混土層(054SD埋土)
5. 10YR3/3暗褐色 極細粒砂層 10YR2/3黒褐色 粘土ブロック混じる(058SK埋土)
6. 10YR4/6褐色 極細粒砂層 10YR2/3黒褐色 極細粒砂が度混じる(058SK埋土)
7. 10YR4/6褐色 シルト層(058SK埋土)
8. 10YR2/3暗褐色 極細粒砂層 10YR4/4褐色 極細粒砂大ブロック混じる 細粒砂混じる
9. 10YR2/3暗褐色 極細粒砂層 10YR4/4褐色 極細粒砂ブロック混じる 細粒砂混じる(054SD埋土)
10. 10YR5/6黄褐色 細粒砂層
11. 10YR4/6褐色 シルト質極細粒砂層(054SD埋土)
12. 10YR3/3暗褐色 シルト質極細粒砂層 10YR4/6褐色 シルト質ブロック混じる(054SD埋土)
13. 10YR5/6黄褐色 シルト質極細粒砂層(地山)

第15図 20A区 054SD 南壁断面図 (S=1/50)



1. 10YR4/6褐色細粒砂層  
上位に小円環、下層に大円環を  
多量に含む)中世陶器

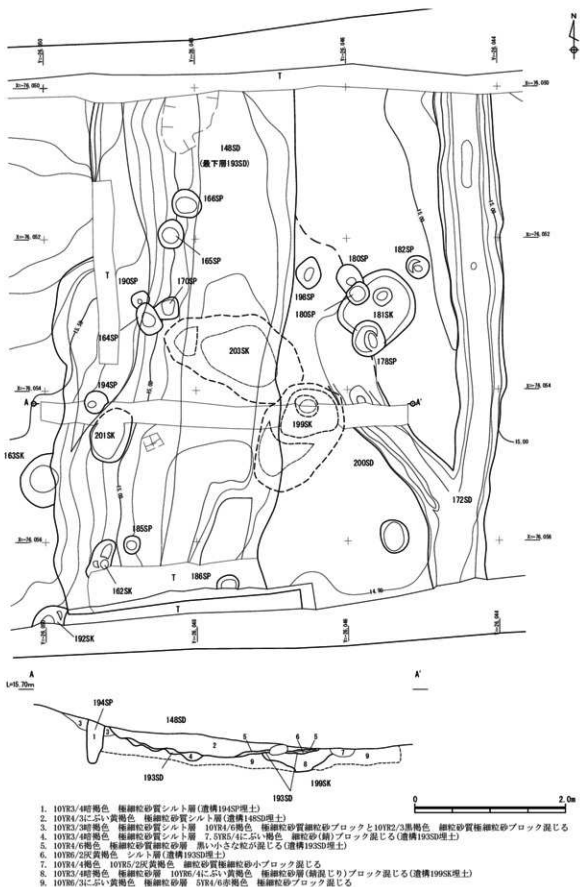
1. 10YR4/4褐色細粒砂層, 10YR3/3  
暗褐色極細粒砂ブロック少し混じる。  
土器、長径2~15cm程度の円環多量に含む

1. 10YR4/6褐色極細粒砂層,  
10YR3/3暗褐色極細粒砂質細粒砂  
ブロックが上位に混じる
2. 10YR4/6褐色極細粒砂層,  
10YR3/4暗褐色極細粒砂質シルト  
ブロックが上位に混じる

1. 10YR4/4褐色細粒砂層, 10YR5/4にぶい黄褐色  
細粒砂ブロック混じる(遺構176-1SP)
2. 10YR3/3暗褐色極細粒砂層, 10YR6/6明黄褐色  
細粒砂ブロック下位に混じる

1. 10YR4/4褐色細粒砂質極細粒砂層  
(遺物含む)
2. 10YR4/6褐色細粒砂層,  
10YR2/3黒褐色極細粒砂ブロック混じる

第16図 20B区 その他の遺構平面・断面図 (S=1/50)



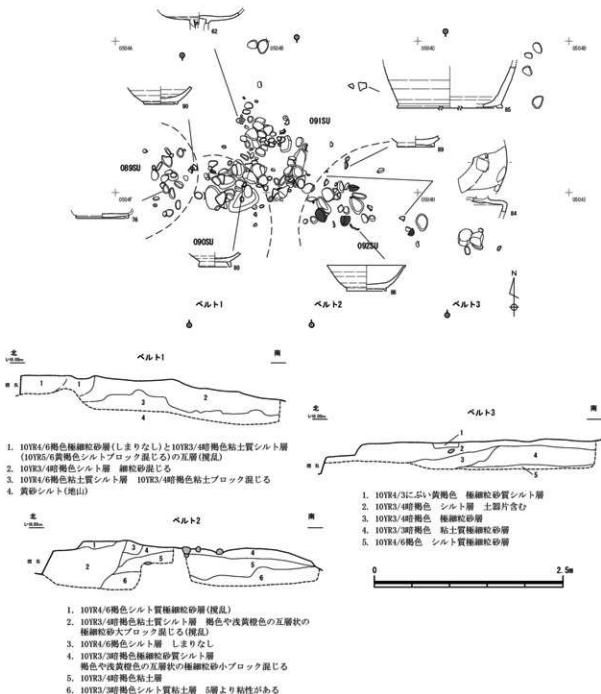
1. 10Y3/4暗褐色 極細粒砂質シルト層 (遺構194SP埋土)
2. 10YR/3にふい黄褐色 極細粒砂質シルト層 (遺構148SD埋土)
3. 10Y3/3暗褐色 極細粒砂質シルト層 10YR/6褐色 極細粒砂質細粒砂ブロックと10YR/3黒褐色 細粒砂質極細粒砂ブロック混じる
4. 10Y3/4暗褐色 極細粒砂質シルト層 7.5YR5/4にふい褐色 細粒砂(粘)ブロック混じる (遺構193SD埋土)
5. 10YR/6褐色 極細粒砂質細粒砂層 黒い小さな粒が混じる (遺構193SD埋土)
6. 10YR6/2灰黄褐色 シルト層 (遺構193SD埋土)
7. 10YR/4褐色 10YR5/2灰黄褐色 細粒砂質極細粒砂小ブロック混じる
8. 10Y3/4暗褐色 極細粒砂層 10YR6/4にふい黄褐色 極細粒砂層(線混じり)ブロック混じる (遺構199SK埋土)
9. 10YR6/3にふい黄褐色 極細粒砂層 5YR4/6赤褐色 極細粒砂ブロック混じる

第17図 20B区 148SD付近 (S=1/50)

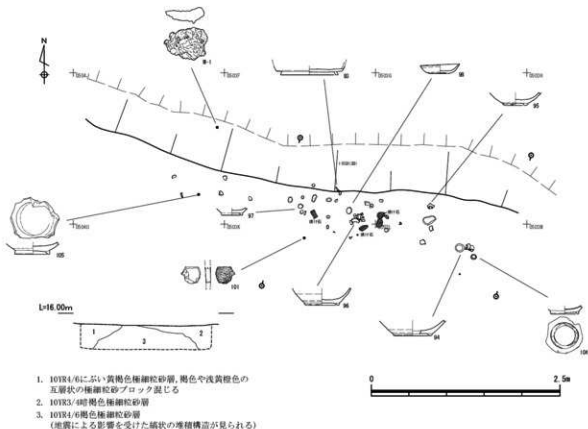
路底面の不整形の凹みである。古墳時代土師器高杯片が出土している。

172SD-200SD 172SDは谷状地形の底面で検出された溝であり、148SDの東側で南北方向に並行して延びる。南側では北西から200SDが重複するが前後関係は不明。172SDは検出長6.7m、幅0.6m、深さ0.11mであり、溝底面の標高は14.8m前後である。

187SK-192SK 187SKは径約0.3m、深さ0.56m、192SKは径約0.4m、深さ0.36m規模の土坑であり、両者から灰釉陶器が出土している。周辺には他にも同規模の小土坑が確認でき、掘立柱建物を構成する柱穴の可能性が考えられる。ただし、209SXの方位と関連する軸線は抽出できていない。



第18図 20B区集石遺構 089～092SU (S=1/50)



第19図 20B区 115SX 付近 (S=1/50)

### 3 21A区・21B区の検出遺構

#### 基本層序と 微地形

21B区は、自然堤防が確認された20A区よりも東側にあたり、本遺跡では東端の五条川に最も近い調査地点となる。調査区が狭小であるため、実際の調査としては基盤層トレンチの断面観察を行った。遺物は検出されなかった。

21A区は今回の調査範囲では西端にあたり、この付近を近世には清須と大山方面を結ぶ街道として整備された岩倉街道が北東-南西方向に通った。現在でも通称柳街道として交通量の多い主要な道路となっている。一帯は五条川に近い東側よりも基盤層の標高が高くなっているため広く削平されており、以西の試掘調査結果では遺構は捉えられていない。ここでは削平を免れた包含層の堆積が一部で認められた。東側では20B区から確認されていた同様の黒色砂質土層が攪拌された状況で確認され、それより西側の一部では黒色土とその上に褐色土の堆積が認められた。黒色土層の東側では古墳時代土器を検出した。また褐色土層は古代の遺構が集中する範囲と概ね重複する。

#### (1) 21A区の遺構

#### 竪穴建物 147SI カマド 煙道部

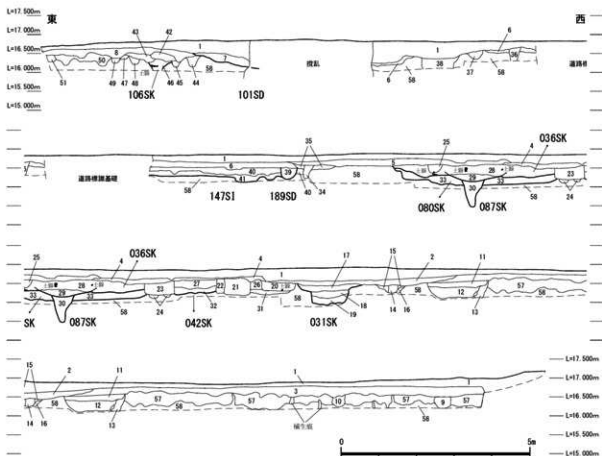
147SI 竪穴建物は調査区の中央付近で南壁寄りの範囲で確認された。検出範囲は $4.1 \times 3.5\text{m}$ の規模であるが、一辺約4m規模の隅丸方形のプランになると推定される。カマドは西壁の中央付近で幅約1.4m、そこからのびる煙道部を含める長さが約1.6mとなる。カマドおよび煙道部の範囲は焼土・炭化物の分布として認識できたが、構造は把握できていない。カマドの赤化部分の判別は明瞭でなく、ただし砂質土が硬化しておりこの特徴的な範囲を図化表現している。基



盤層が砂質土であるため植生痕などにより攪拌され、竪穴建物床面(貼床)や掘り方の境界は実際には正確に捉えられていない。カマド正面の土坑(188SK)は長軸1.24m、単軸0.9m、深さ0.2mの不整形形で、高い位置から検出されることから、カマドはさらに高い位置にあったものと考えられる。カマド正面に対し右側となる壁際、北西隅には径0.5m、深さ0.12mの土坑(157SK)があり、炭化材のAMS年代測定では7世紀中頃～8世紀後半の暦年代が得られている。この土坑中央にはさらに径0.3m前後、深さ0.36mの柱穴(185SK)を検出した。調査区外となる南東部分を除いて主柱穴は3基(177SK, 181SK, 184SK)を確認した。カマド正面に対して左側、西壁に沿い南側にかけて幅0.3m、深さ0.1mの溝(189SD)を検出した。遺物は小片が多いが、8世紀前半頃と比定される濃尾型甕が出土している。

そのほか単独ではあるが、付近では竪穴建物内で検出された189SDと形状の類似する溝(078SK)を確認している。

**竪穴建物?** 147SIのすぐ東側で検出された遺構のうち、036SKとその下に重複して確認された080SK、近接する西側の042SKなどは竪穴建物の一部である可能性が考えられる。平面形状は不整形形で全体像も判然としないものの、褐色砂質シルトを基本とする埋土には炭化物や刻書をもつ須器などが含まれ、南壁断面では遺構底面が水平に近い状態の堆積層が認められる。これらより北側では褐色土(包含層)は薄く、ここから基盤層は南側へ傾斜しているとみられる。036SKは検出長3.68m、幅0.77m、深さ0.28m。その下080SKは検出長2.58m、幅0.3m、深さ0.12m。042SK



第20図 21A区南壁断面図-1 (S=1/100)

1. 表土 (現代整地)
2. 10YR3/4暗褐色シルトを含む砂に黄褐色の細かいブロックがわずかに混じる。しまりあり
3. 10YR3/3暗褐色シルトを含む細粒砂、しまりあり
4. 10YR3/3暗褐色シルトを含む砂、しまりあり
5. 10YR3/3暗褐色シルトを含む細粒砂の互層、ラミナ構造みられる、しまりあり
6. 10YR3/4暗褐色シルトを含む細粒砂、炭化物 (粒) を含む
7. 10YR4/4褐色シルトに10YR3/3暗褐色シルトのブロック (大) が混じる (105SD埋土)
8. 10YR3/3暗褐色砂質シルト、10YR4/4褐色砂のブロックをわずかに含む
9. 10YR3/4暗褐色シルトに10YR3/3暗褐色シルトのブロック (大) が混じる埋土
10. 10YR3/4暗褐色砂に10YR3/3暗褐色シルトを含む細粒砂と10YR4/3にぶい黄褐色細粒砂のブロックが混じる埋土
11. 10YR3/3暗褐色シルトを含む細粒砂に10YR4/4褐色砂ブロック (小) がわずかに混じる
12. 10YR4/4褐色砂ブロック (大) と10YR3/3暗褐色砂の埋土、しまりなし
13. 10YR4/4褐色砂の埋土、植生影の影響あり
14. 10YR4/3にぶい黄褐色細粒砂、しまりなし
15. 10YR3/4暗褐色シルトを含む砂と10YR4/3にぶい黄褐色細粒砂の埋土
16. 10YR4/3にぶい黄褐色細粒砂の埋土
17. 10YR3/4暗褐色砂に10YR4/3にぶい黄褐色細粒砂が少量混じる埋土 (031SK埋土)
18. 10YR3/4暗褐色砂に黄褐色砂のブロックがわずかに混じる埋土、黒色の粒が混じる (炭化物ではなく沈渣またはマンガン) (031SK埋土)
19. 10YR3/4暗褐色砂の埋土、黒色の粒が混じる (炭化物ではなく沈渣またはマンガン) (031SK埋土)
20. 10YR3/4暗褐色シルトを含む砂、土器小片混じる
21. 10YR3/4暗褐色シルトに10YR4/3にぶい黄褐色細粒砂と10YR3/3暗褐色砂のブロック (小) が混じる埋土、炭化物 (粒) と土器小片を含む
22. 10YR3/3暗褐色シルトに10YR4/3にぶい黄褐色細粒砂のブロック (大) がまれに混じる。埋土
23. 10YR3/4暗褐色シルトに10YR4/3にぶい黄褐色細粒砂と10YR3/3暗褐色砂のブロック (小) が混じる埋土、炭化物 (粒) と土器小片を含む
24. 10YR3/4暗褐色シルト質砂に10YR4/4褐色砂と10YR3/3暗褐色砂ブロックが混じる埋土
25. 10YR3/3暗褐色シルト質砂、炭化物を含む
26. 10YR2/3黒褐色シルト質砂
27. 10YR2/3黒褐色シルト質砂
28. 10YR3/3暗褐色砂、しまりあり (036SK埋土)
29. 10YR3/4暗褐色砂、しまりなし
30. 10YR4/4褐色砂、黄褐色砂のブロック (小) をわずかに含む、しまりなし (087SK埋土)
31. 10YR2/3黒褐色シルト質砂に10YR3/4暗褐色砂のブロックが混じる
32. 10YR3/3暗褐色シルトに10YR4/3にぶい黄褐色細粒砂のブロック (大) が混じる (042SK埋土)
33. 10YR3/4暗褐色シルト質砂に10YR4/4褐色砂のブロック (大) が混じる埋土 (080SK埋土)
34. 10YR3/4暗褐色砂と10YR4/4褐色砂の埋土
35. 10YR4/3にぶい黄褐色細粒砂に10YR4/4褐色砂がブロック状に混じる
36. 10YR4/4褐色砂に10YR3/4暗褐色砂が混じる埋土
37. 10YR4/4褐色砂に10YR4/3にぶい黄褐色細粒砂が混じる埋土
38. 10YR4/3にぶい黄褐色細粒砂の塊を含む埋土 (方石土坑)
39. 10YR3/3暗褐色砂の細かい埋土、炭化物を含む (109SD埋土)
40. 10YR3/4暗褐色砂に10YR3/3暗褐色砂と10YR4/4褐色砂にぶい黄褐色細粒砂が混じる。埋土、炭化物 (粒) を含む (147SI埋土)
41. 10YR4/4褐色砂に10YR3/4暗褐色砂が混じる。炭化物 (粒) を含む (147SI埋土)
42. 10YR3/3暗褐色砂質シルト、10YR4/4褐色砂のブロックをわずかに含む。埋土
43. 10YR3/3暗褐色砂質シルト、10YR4/4褐色砂のブロックをわずかに含む。埋土
44. 10YR4/3にぶい黄褐色細粒砂に10YR3/3暗褐色シルトを含む砂のブロック (小) が混じる埋土
45. 10YR4/3にぶい黄褐色細粒砂に10YR3/3暗褐色シルトを含む砂のブロック (小) が混じる埋土
46. 10YR4/3にぶい黄褐色細粒砂に10YR3/3暗褐色シルトを含む砂が混じる埋土 (106SK埋土)
47. 10YR3/3暗褐色シルトを含む砂
48. 10YR3/3暗褐色シルトを含む砂に10YR4/4褐色砂のブロックをわずかに含む
49. 10YR3/3暗褐色シルトを含む砂に10YR4/4褐色砂のブロック (大～小) が混じる埋土
50. 10YR3/3暗褐色シルトを含む砂に10YR4/4褐色砂のブロック (大～小) が混じる埋土 (098SK)
51. 10YR3/3暗褐色シルトを含む砂、少量の10YR4/3にぶい黄褐色細粒砂がブロック状に混じる
52. 10YR3/3暗褐色シルトを含む砂に10YR4/4褐色砂のブロックをわずかに含む
53. 10YR4/3にぶい黄褐色細粒砂に10YR3/3暗褐色シルト質砂が混じる埋土
54. 礫石 (複乱)
55. 10YR3/3暗褐色シルトを含む砂に10YR4/4褐色砂のブロックをわずかに含む
56. 10YR3/3暗褐色砂質シルトと10YR4/4褐色砂ブロック (大) の埋土
57. 10YR3/4暗褐色砂、下位にかけて10YR4/4褐色砂が多く混じる
58. 10YR4/4褐色砂 (基盤層)

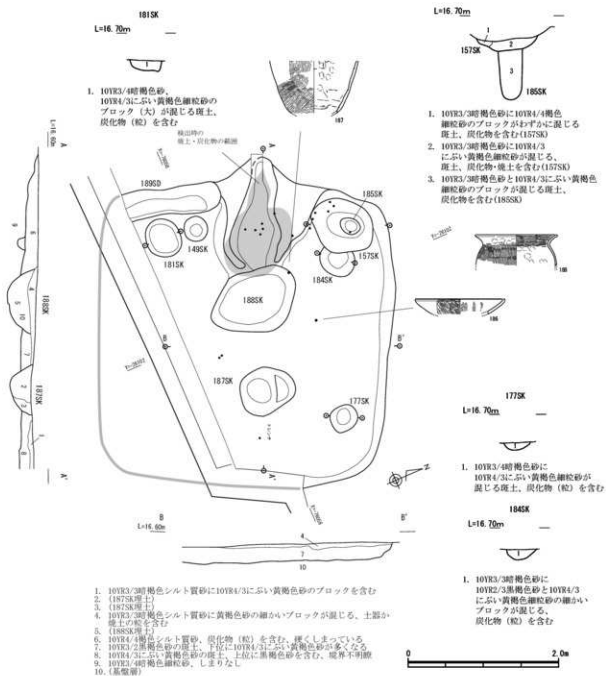
第21図 21A区南壁断面図-2 (土層注記)

は検出長 1.19m、幅 0.92m、深さ 0.33mである。この周辺では古代の遺構・遺物の密度がともに高く、集落居住域の広がりが推測される。少なくとも調査区外の南側にかけては遺構が遺存している可能性は高いと考えられる。

**掘立柱建物** 柱穴、小土坑は多数を確認したが、掘立柱建物が復元できるものは少ない。調査区では西側に位置する190SBは大型の土坑・柱穴4基 (011SK, 015SK, 023SK, 044SK) から推定した。桁行1間以上で柱間は1.7～1.8m、梁行1間は柱間2.5～2.8m、方位N-12°-Wの掘立柱建物である。4基の柱穴の形状や埋土は不揃いでみな異なるが、ほぼ同じ箇所が重複する点が共通している。軸線方向が近似する中世の溝 (020SD) に先行し、柱穴の一つ015SKからは8世紀後半の須恵器が出土している。

**区画溝** 北東から南西方向に調査範囲内では直線状に延びる020SD・026SD・029SDは、連続する同じ溝と考えられる。方位はN-78°-Eで検出長約18m、幅0.9m、深さ0.3m、埋土堆積物からは湛水状況は認められない。山茶碗、小皿、片口鉢などの出土遺物は破片が大きく、投棄された状況で遺存しているとみられる。

北西から南東方向に直線状に延びる130SDは方位はN-66°-W、検出長8.8m、幅1.1m、深さ



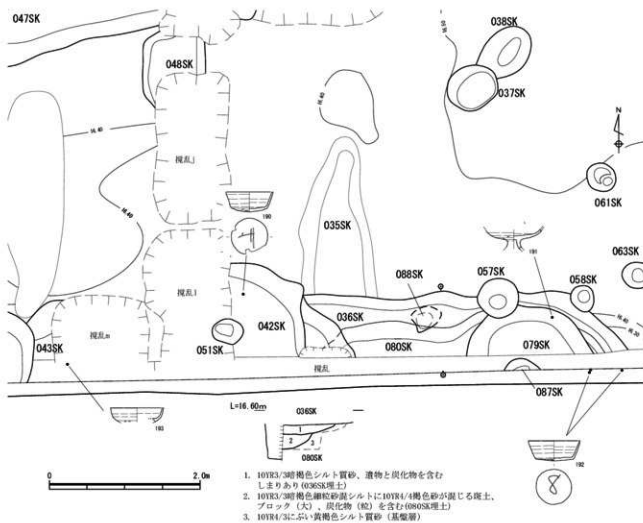
第22図 21A区 147SI (竪穴建物) (S=1/50)

0.26mであり、調査区内では東端が伸長する痕跡が見られない。途切れるか屈曲する可能性がある。こちらの溝も埋土堆積物からは湛水状況は認められない。山茶碗が出土している。

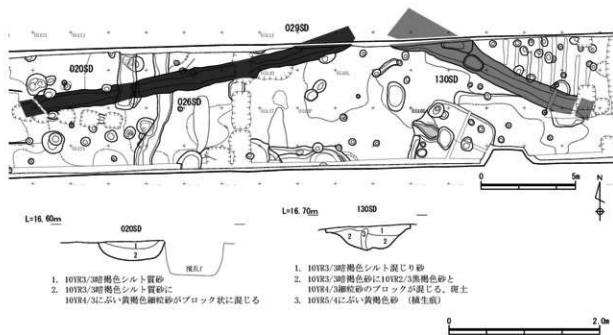
029SDと130SDの直接的な接続関係は調査区外で不明であり、出土遺物の時期差も判然としない。区画をなすには方位が不自然でもあり、ひとまずそれぞれ別個の溝と想定しておきたい。

(2) 21B区の遺構

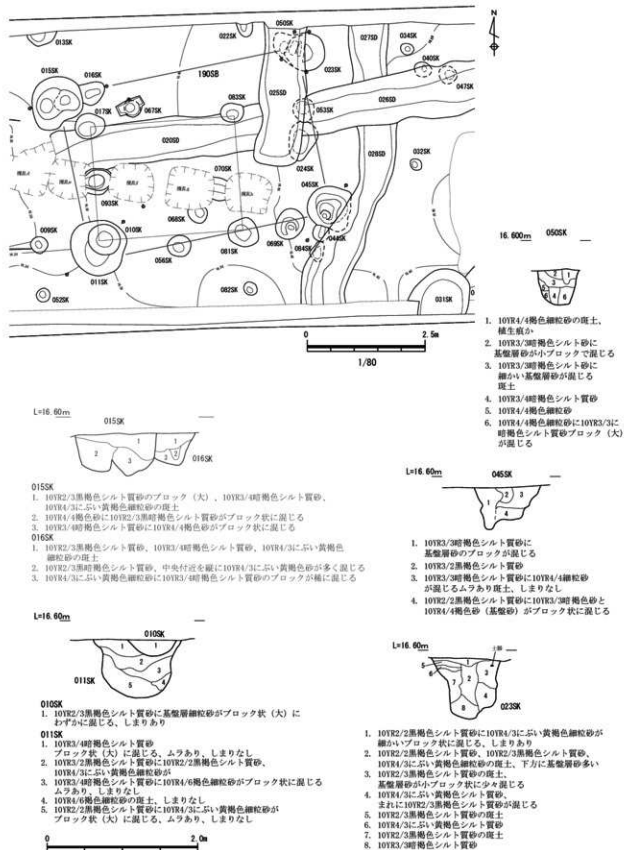
すぐ東側は現在の五条川が流れる。表土から標高15.0mの深さまで掘削が及んでいる。その下No.6層は基盤層と思われたが土器細片を含む堆積土であった。ここでは標高14.0mで円礫(大)層に達する。



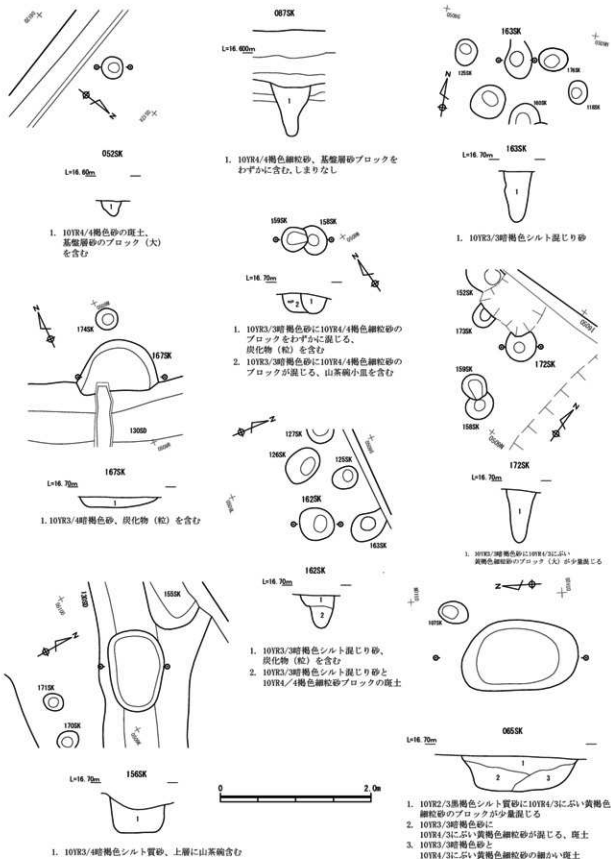
第23図 21A区 036SK, 080SK 付近平面・断面図 (S=1/50)



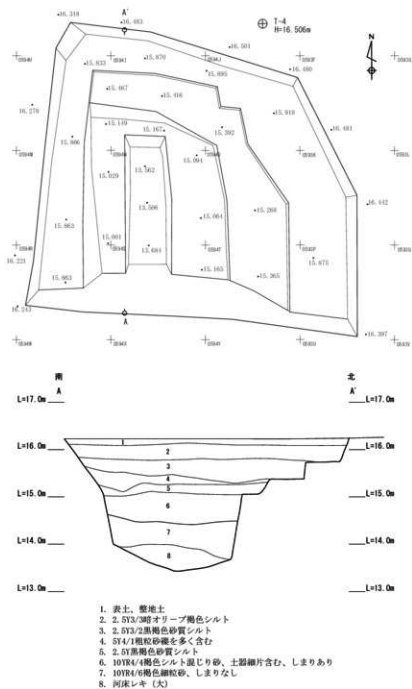
第24図 21A区 020, 026, 029SD・130SD 付近平面・断面図 (平面図 S=1/200, 断面図 S=1/50)



第25図 21A区掘立柱建物190SB平面・断面図(平面S=1/80, 断面S=1/50)



第26図 21A区 その他の遺構平面・断面図 (S=1/50)



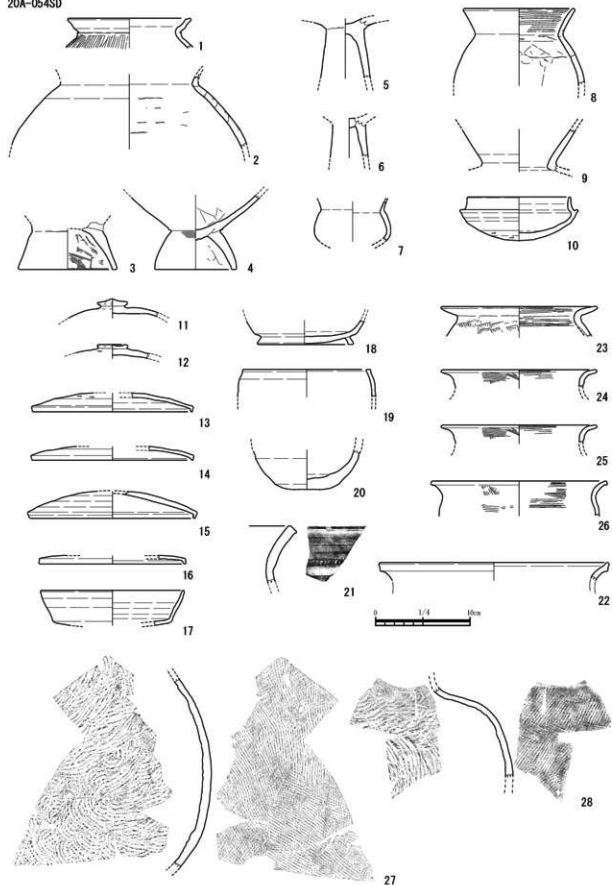
第27図 21B区平面・断面図(S=1/80)

## 4 20A区・20B区の出土遺物

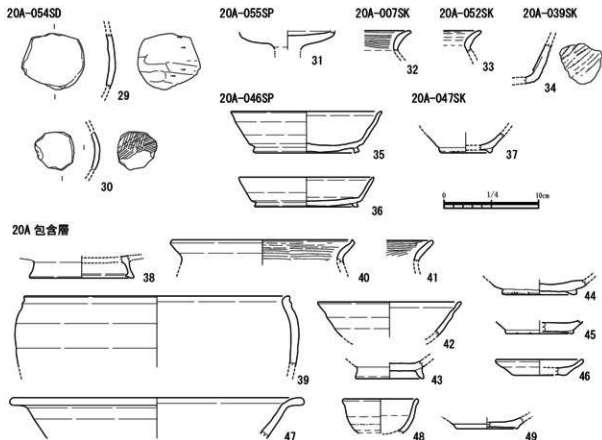
- 20A区054SD** 土師器では、(1)のS字状口縁台付甕D類古段階を含む台付甕(1,3,4)をはじめ直口壺(9)、広口壺(2)、壺(8)、小型丸底壺(7)、屈折脚高杯(5,6)があり、廻間式D類古段階～松河戸I式段階の資料がある。須恵器では、溝の中層で出土したH-44号窯式段階と比定される杯身(10)を除き、ほかには溝の上層に含まれる資料である。蓋(11～16)、無台杯(17)、有台杯(18)、鉢(19)、短頸壺底部(20)、大型の壺・甕類(21,22)などは猿投窯産で8世紀前半を中心とした資料である。また、胎土と内面調整に特徴が認められる美濃須衛窯産の壺・甕類(27,28)も含まれる。土師質煮炊具は、調整に粗いハケメを特徴とする濃尾型甕(24～26)がある。加工円盤(29,30)としたものは円形に整形された土器片である。
- 20A区その他の遺構** 055SP出土の土師器高杯(31)は杯部が碗形となるもので、宇田式に比定される。東側の攪乱を含む落ち込み周辺で出土した濃尾型甕(32～34)、046SP出土の須恵器有台杯(35,36)は8世紀前半、山茶碗(37)は第5型式に位置づけられる。
- 包含層出土遺物** 猿投窯産須恵器の盤(38)は8世紀後半、鉢(39)は8世紀前半に位置づけられる。土師器甕では7世紀代の伊勢型甕(40)と9世紀代の濃尾型甕(41)があり、灰釉陶器碗(42,43)が10世紀代の百代寺窯式期に位置づけられる。山茶碗(44,45)は第4型式、小皿(46)は尾張型第5型式後半に比定される。瀬戸・美濃窯産陶器では志野丸皿(49)、近世の灰釉小碗(48)、灰釉鉢(47)などがある。
- 20B区148SD** 148SDでは最下層を中心に土師器が出土しており、S字状口縁台付甕A類(50)、B類古段階(51～53)、台部片(54)、高杯(55,56)、壺(57～59)など、廻間式古段階～松河戸I式段階の資料がある。また、57は周囲を打ち欠き再利用された加工円盤である。須恵器では猿投窯産の有台杯(60)、甕(63,64)、美濃須衛窯産の無台杯(61)、高脚盤(62)などは8世紀前半～後半の時期に位置づけられる。土師質煮炊具では濃尾型甕(66)や頸部が屈折して開くタイプ(65)があり、9世紀代に比定される。
- 203SK 074SD** 203SK出土遺物は1点、土師器高杯(67)がある。074SDではS字状口縁台付甕B類(68)、土師器高杯(69)、須恵器高杯(70)と、ほかに須恵器や中・近世の陶器片を打ち欠いた加工円盤(72～74)、周縁が研磨された播鉢片(71)がある。
- 集石遺構 089SU～092SU** 集石遺構(089～092SU)に伴う遺物には時期幅があり、比較的大きな破片が含まれる。須恵器は有台杯は8世紀前半の猿投窯産(75,76)と美濃須衛窯産(77)があり、大型の平版(83,84)、長頸瓶(82)がある。灰釉陶器碗は猿投窯産K-90号窯式(78)、0-53号窯式(79,80)と猿投窯以外の製品(81)のほか、灰釉長頸瓶(85)がある。山茶碗では初期の第3型式(86～90)が一定量あり、ほか東濃型第5型式新段階(91)、15世紀前半の第10型式(92)も含まれる。
- 115SX** 115SX出土遺物では、須恵器有台杯(93)は猿投窯産で8世紀後半の資料。山茶碗(94～96,104,105)、山茶碗小皿(97)、小皿(98,99)があり、94,97は第4型式、95,99は第5型式古段階、104は第5型式新段階、96,98,105は東濃型第5型式前半の資料。加工円盤は須恵器甕(101)、山茶碗(102,104,105)、片口鉢(103)片などを用いている。そのほか小片となった古瀬戸灰釉中皿(100)と鉄滓(M-1)も出土している。



20A-054SD

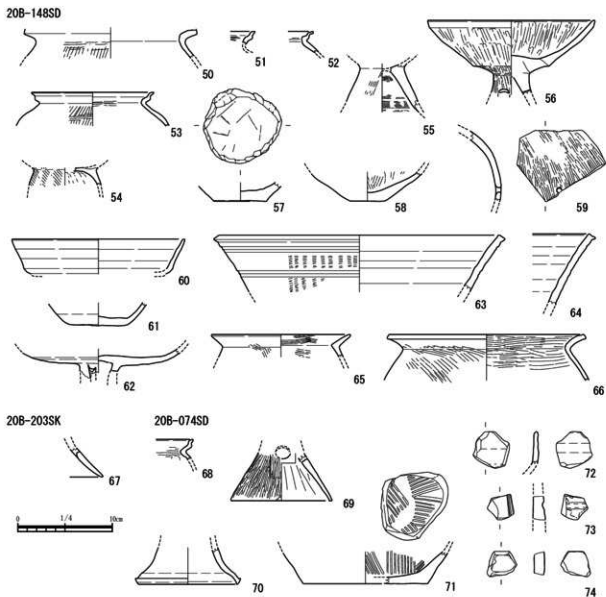


第28图 20A区出土遺物実測図-1 (S=1/4)



第29図 20A区出土遺物実測図-2 (S=1/4)

- 187SX 187SX出土遺物は猿投窯0-53号窯式並行期の東濃産灰釉陶器碗(107)と皿(108)、ほか土師器片がある。
- 192SK 192SKでは東濃産灰釉陶器碗(109)が出土している。
- 151SK 151SK出土の須恵器有台杯(110)は猿投窯産で8世紀前半、山茶碗は第4型式(111,112)、東濃型第5型式(113)がある。須恵器瓶(114)、甕(115)、片口鉢(116)、近世の瀬戸・美濃窯産陶器鉢底部(117)は再利用加工片である。
- 136SK 136SKからは須恵器壺(118)、山茶碗は第4、5型式の尾張型(119~121)と東濃型(122)のほか、山茶碗(124)と播鉢(123)を用いた加工円盤が出土している。
- 137SK 137SK出土の須恵器は猿投窯以外の有台杯(126)と美濃須衛窯産の壺(125)、山茶碗は東濃型第5型式(127~129)、近世鉄釉皿(130)があり、ほか須恵器(134)、須恵器壺・甕類(132)、中世瓦(131)、播鉢(133)を用いた方形に近い形状の加工片などがある。
- 20B区その他の遺構 その他、青磁蓮弁文碗(135)小片のほか灰釉陶器(138)や山茶碗(136,137,139)の加工片も133SK、143SK、205SPなど堤状の高まり(209SX)の周辺で出土している。
- 包含層出土遺物 遺構外からの出土遺物では、土師器は赤彩壺(140)、高杯(141~143)、甕(144~147)があり、このうち142は内面加飾をもつ西濃型高杯と呼称されるもので遼間II式段階。S字状口縁台付甕はA類(146)、B類(144)、C類(145)があり、147は北陸系の有段口縁甕で口縁外面にハケ状工具による直線文が認められる。
- 瓦塔 須恵器では猿投窯以外の高杯(148)、猿投窯産の甕(150)、壺(149,151,152,154~156)や瓦塔(157)があり、これらの年代観は(150)は7世紀後半、(149)は8世紀前半、(154,155)も8世



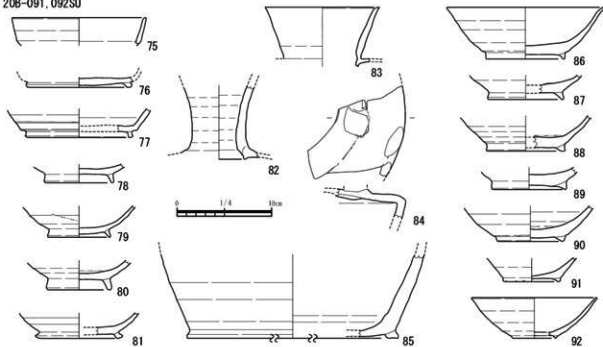
第30図 20B区出土遺物実測図-1 (S=1/4)

紀代に位置づけられる。(157)は瓦塔の屋蓋部の一部で、側壁から接続する瓦屋根部分の表現が認められる。

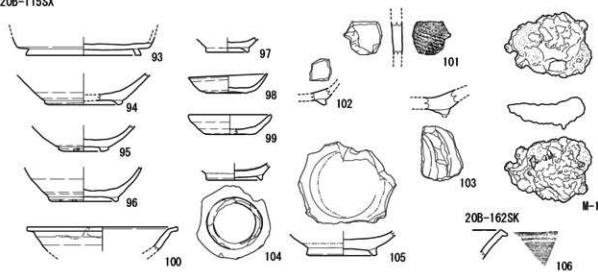
灰釉陶器では猿投窯産碗・皿と東濃産皿があり、それぞれK-90号窯式期(162)、0-53号窯式期(158,159)、並行期の大原2号窯式期(164)、H-72号窯式期(160,163)、百代寺窯式期(161)に比定される。土師器煮炊具では赤褐色の特徴的な胎土色調を呈する清郷型鍋(165～168)がある。

山茶碗・小皿では第4型式(169～172)、尾張型第5型式(173)、東濃型第5型式後半(174)、東濃型第6型式(177)、東濃型第7型式(178)、東濃型第10型式(179)がある。180,181は山茶碗を利用した加工円盤である。

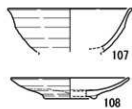
20B-091, 092SU



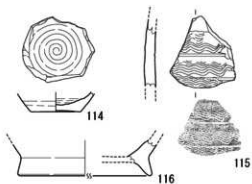
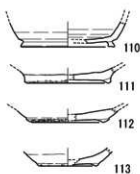
20B-115SX



20B-187SK



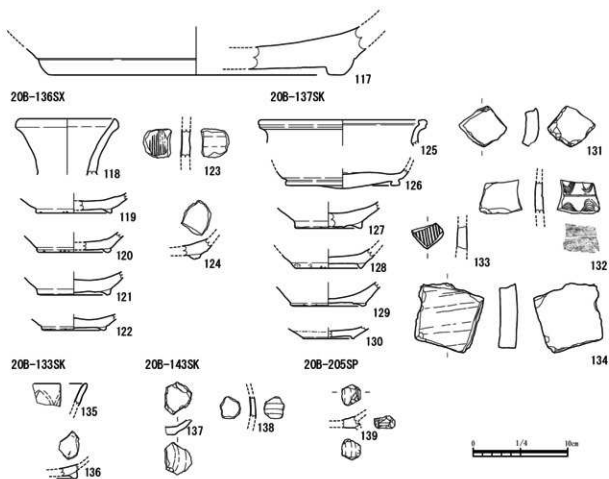
20B-151SK



20B-192SK



第31图 20B区出土遺物実測図-2 (S=1/4)

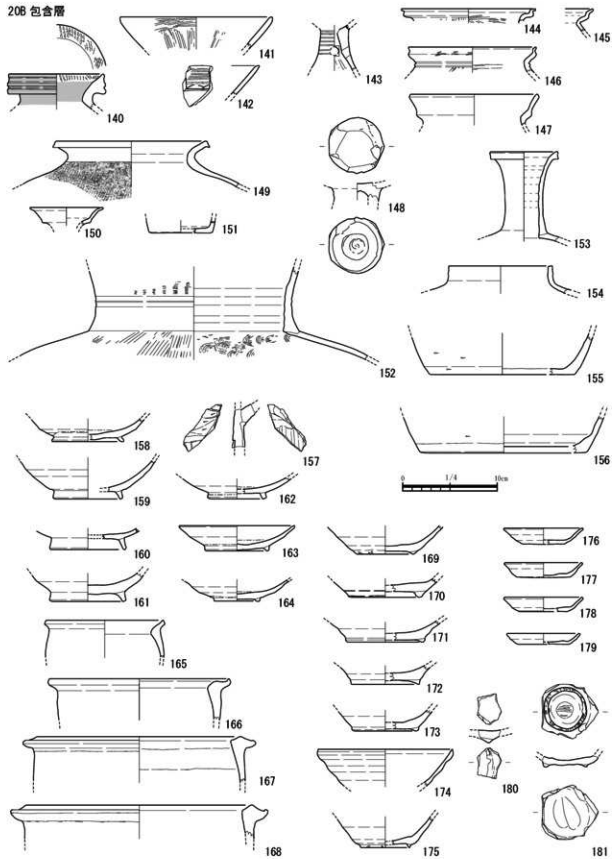


第32図 20B区出土遺物実測図-3 (S=1/4)

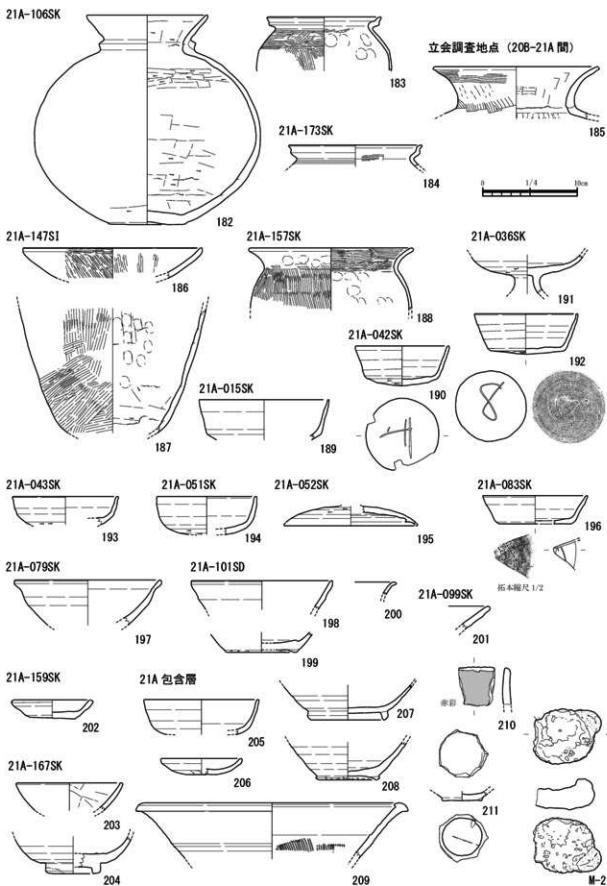
## 5 21A区出土遺物

- 21A区106SK** 106SKの遺構の形状は不明瞭であるが、調査区東部の南壁断面で認められた黒色土層の落ち込み部分から土坑と判断した。S字状口縁台付甕B類古段階(183)片と土師器広口壺(182)をややまとまった状態で検出した。広口壺は口径12.6cm、底径8.1cm、高さ22.2cm。
- 173SK** 台付甕(184)は106SKより北西へ10m前後の距離で土坑173SKより出土した。S字状口縁A類。
- 22立会調査地点** また、106SKの東側の立会調査地点からは土師器広口壺(185)口縁部のやや大きな破片が出土している。
- 147SI** 竪穴建物147SIの出土遺物。(199)は濃尾型甕の胴部下半で8世紀代に比定される。なお、床面直上で検出の土師器甕胴部片の外面積着炭化物のAMS年代測定では7世紀後半～8世紀後半の暦年代が得られている(667-709calAD(40.88%)/712-774calAD(54.57%)第4章1)。また、竈付近の埋土中の炭化材(試料3点)ではいずれも7世紀中頃～8世紀後半の暦年代が得られている。土師器高杯(186)は混入品と思われる。
- 157SK** 竪穴建物内のカマド脇、北西隅付近の土坑157SK出土遺物。(188)土師器甕は口縁部下からタテ方向の粗いハケメ調整の濃尾型甕。出土炭化材のAMS年代測定では7世紀中頃～8世紀後半の暦年代が得られている(660-704calAD(48.16%)/740-773calAD(47.29%)第4章1)。
- 015SK** 掘立柱建物を構成する柱穴015SKの出土遺物。須恵器無台杯(189)は猿投窯産で8世紀後半の資料。

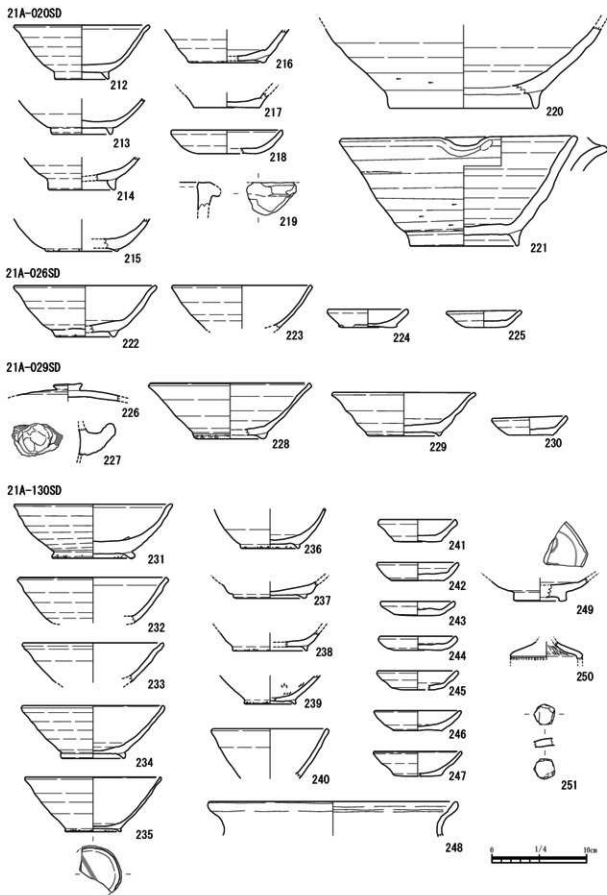
208 包含層



第 33 图 208 区出土遺物実測図-4 (S=1/4)



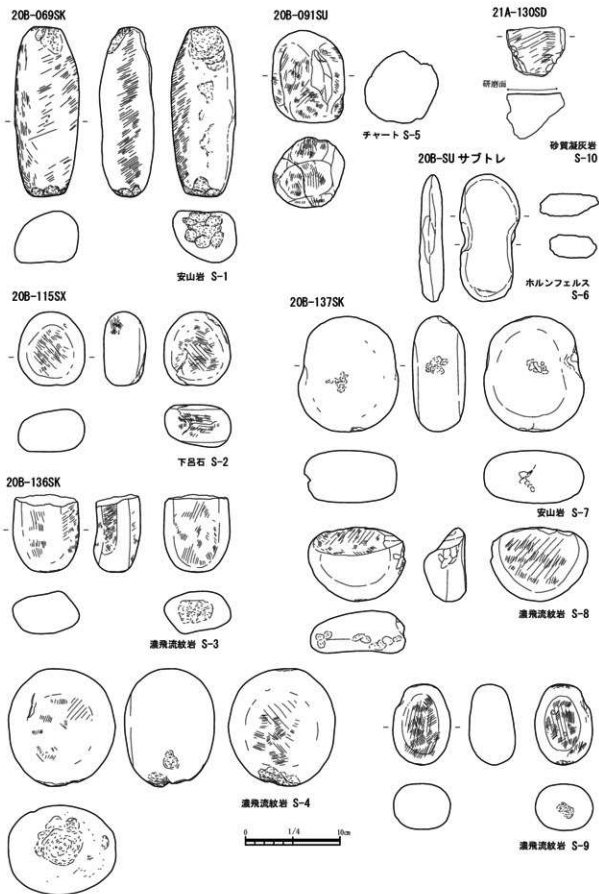
第34图 21A区出土遺物実測図-1 (S=1/4)



第35图 21A区出土遺物実測図-2 (S=1/4)



- 042SK 竪穴建物(147SI)の西側、約8m離れた地点の土坑042SK出土遺物。猿投窯産須恵器無台杯(190)は底面に記号状の刻書が認められる。8世紀前半の資料。
- 036SK 竪穴建物(147SI)から西側に約3m離れた位置の土坑036SK出土資料。須恵器高杯(191)、猿投窯産無台杯(192)があり、後者は底面に記号状の刻書が認められる。高蔵寺2号窯式。
- 043SK 042SKから西側に2.5m離れた位置の土坑043SK出土資料。美濃須衛窯窯産須恵器高杯(193)は7世紀の資料。
- 051SK 042SKが重複する柱穴051SKの出土資料。猿投窯産須恵器無台杯(194)は7世紀後半の資料。
- 052SK 調査区南西部で検出の柱穴052SK出土遺物。猿投窯産須恵器蓋(195)は鈕部分を欠く。井ヶ谷17号窯式。
- 083SK 083SK出土遺物、猿投窯産須恵器無台杯(196)は底面に刻書が認められる。高蔵寺2号窯式。
- 079SK 036SKに重複する落ち込み079SKの資料。山茶碗第5型式(197)。
- 101SD 101SD出土遺物では尾張型山茶碗6型式(199)、第7型式(198)があり、中世以降の遺構に灰釉陶器碗(200)が混入する。
- 099SK 099SKは耕作痕の可能性がある。調査区東端の攪拌された黒色土層包含遺物。瀬戸・美濃窯産陶器の灰釉盤類(201)。
- 159SK 掘立柱建物柱穴と思われる小土坑159SK出土遺物。周囲には炭化物粒が目立ち、鉄滓も出土している。山茶碗小皿(202)は尾張型第5型式。
- 167SK 167SK出土遺物では土師器高杯(203)、青磁碗(204)がある。
- 020SD 北東から南西方向に長く延びる溝020SD部分の出土資料。山茶碗は東濃型第5型式(212～214)、尾張型第5型式(215)、第6型式(216)と第7型式(217)がある。(220,221)は片口鉢。(218)も中世の資料で、口径11.6cm、器高2.6cm、非ロクロ整形の土師器皿。(219)の清瀬型鍋は混入品。
- 026SD 020SDに続く一連の溝026SD部分出土資料。尾張型第5型式(222,224)、東濃型第5型式(223,225)の山茶碗・小皿がある。
- 029SD 020,026SDに続く一連の溝029SD部分の資料。(228)は東濃型山茶碗第5型式前半、(229)は山茶碗第5型式、(230)小皿は尾張型第6型式。混入品では猿投窯産須恵器蓋(226)は高蔵寺2号窯式以前、(227)把手付土師器鍋がある。
- 130SD 130SDと029SDの交点は調査区外となるため接続関係は不明である。山茶碗・小皿は第4型式(231～233)、東濃型第5型式後半(234,236,246)、東濃型第7型式(235)と第6型式(238～240,247)、山茶碗尾張型第5型式(241)、第6型式(237,242～244)と第7型式(245)がある。土師器煮炊具もあり、伊勢型鍋(248)の口縁部外面付着物のAMS年代測定では、13世紀前半の暦年代が得られている(1216-1269calAD(95.45%)第4章1)。(249)は青磁碗。混入品では須恵器壺(250)がある。(251)は山茶碗片を利用した加工円盤。
- 包含層出土遺物 (210)はバレススタイル壺胴部の赤彩部分を利用した方形の加工片。(205)は須恵器無台杯、7世紀代の資料。(207)は灰釉陶器碗で0-53号窯式期の資料。中世の資料では(206)は口径8.4cm、器高1.7cm、非ロクロ整形の土師器皿。(208)山茶碗は東濃型第5型式。小皿(226)は周囲打ち欠きの加工円盤。(209)は江戸後期の鉄釉播鉢。遺構外で鉄滓(M-2)も採取している。
- 石器類 磨石・叩石とした使用痕が認められる石器があり、石材には基盤層に含まれる濃飛流紋岩(S-3,4,8,9)が多用されている。ほか石材には下呂石(S-2)、安山岩(S-7)があり、(S-1)安山岩は短



第36図 出土石器・石製品実測図 (S=1/4)

辺両端に敲打痕、側面に擦痕があり、薄く赤色の付着物が認められる。(S-6)はホルンフェルスを用い、扁平な長楕円形の石材の長辺中央端部に人為的な凹みが認められる。いずれも時期は不明である。石製品では21A区130SDから出土した砂質凝灰岩の砥石(S-10)1点がある。

金属製品・鍛冶関連遺物の分布

図化できなかった金属製品・鍛冶関連遺物の分布状況について記す。20A区では釘(004SX)、椀型滓と寛永通宝1点(007SX)が出土している。054SDでは上層から釘と推定される含鉄遺物、流動滓、椀型滓、下層から炉壁・羽口片が出土している。このほか炉壁片(050SK)、流動滓(包含層)がある。20B区では釘と推定される含鉄遺物(065SP,084SK,113SK,132SK,142SK,包含層)、刀子状の鉄片、鋸(包含層)があり、集石遺構で釘、流動滓を検出している。132SKでは釘のほか鋸、炉壁片、143SPでは羽口片、流動滓、椀型滓が出土している。21A区では釘(099SK,包含層)、炉壁片(035SK)、流動滓(079SK)、椀型滓(包含層)がある。

【注・参考文献】

パレオ・ラボAMS年代測定グループ, 2022, 「(愛知県江南市南山町遺跡) 放射性炭素年代測定」

パレオ・ラボAMS年代測定グループ, 2023, 「(愛知県江南市南山町遺跡) 放射性炭素年代測定」

表4 遺構一覧表(1)

調査区	遺構番号	グランド	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	埋土	出土遺物(土器、須恵瓦、瓦葺、陶器、山系瓦、陶器類入庫)	備考
20A	0015K	0596J0	-	-	-		(土、瓦、山)	鉄製土層
20A	0025K	0596J30	-1.24	-0.94	0.11	10YR4/6褐色極細粒砂層(中粒砂をわずかに混じる)／10YR5/4にぶい黄褐色 極細粒砂が混じる		0525K土層
20A	0035D	0596J0T	-2.21	0.4	0.08	10YR3/3暗褐色シルト層、黄色っぽい周辺土少量ブロック状に混じる		土、瓦 鉄製土層
20A	0045X	049X・0596CHINO	-	-	-	10YR4/4褐色極細粒砂層、10cm程度の硬多く含む	(土、瓦、山)	鉄製土層
20A	0055D	0596J3N	-2.62	0.57	0.1	10YR3/4シルト質極細粒砂層、10YR3/7黒褐色粘土(しまりあり)ブロック混じる		(土、瓦、山) 土層
20A	0065X	049X3Y・0495D・0596DEJ・0595AF	-	-	-	10YR3/4暗褐色シルト質極細粒砂層 10cm程度の硬多く含む	陶、瓦	鉄製土層
20A	0075K	049X3Y・0495D・0596DE・0595A	-4.65	-0.83	0.56	-		土、陶 複瓦
20A	0095K	0596J05T	-1.88	-0.43	0.12	10YR5/6黄褐色極細粒砂層		(土)
20A	0125K	0596G8	0.57	0.32	0.1	10YR4/4褐色土層に10YR5/8黄褐色ブロック混じる		(土、山)
20A	0145X	0596G8M	-2.51	-1.23	0.33	10YR5/6黄褐色極細粒砂層、10YR4/6褐色極細粒砂質ブロック混じる		(陶)
20A	0155P	0596G6	0.27	0.22	0.06	10YR6/4にぶい黄褐色極細粒砂質シルトと10YR4/4褐色極細粒砂のブロック混土層		
20A	0165K	0596B	0.91	0.56	0.09	10YR5/4にぶい黄褐色極細粒砂層(細粒砂混じる)、10YR3/3暗褐色 極細粒砂ブロック混じる		
20A	0175P	0596G	0.42	0.35	0.08	10YR3/4暗褐色 極細粒砂層(中粒砂混じる)、10YR4/6褐色極細粒砂質極細粒砂ブロック含む		
20A	0185K	0596BGH	0.99	0.96	0.1	10YR4/6褐色極細粒砂と10YR5/4にぶい黄褐色極細粒砂のブロック混土層		(土、瓦)
20A	0195P	0596C	0.17	0.11	0.08	10YR3/4暗褐色極細粒砂層、炭化粒多く含む		
20A	0205K	0596BC	0.99	0.82	0.22	10YR3/2暗褐色 細粒砂質極細粒砂層 炭化粒含む		須
20A	0215P	0496V	0.23	0.21	0.09	10YR5/6黄褐色極細粒砂質極細粒砂層、10YR3/4暗褐色極細粒砂ブロック混じる		
20A	0225K	0596AB	0.99	0.51	0.13	10YR3/4暗褐色極細粒砂質極細粒砂に10YR5/6黄褐色極細粒砂が混に混じる、炭化粒含む		(土)
20A	0235K	0596A	0.7	0.63	0.11	10YR4/6褐色極細粒砂層(中粒砂混じる)、10YR5/4にぶい黄褐色極細粒砂少し混に混じる		
20A	0265K	0597E・0596A	1.02	0.5	0.18	10YR3/4暗褐色極細粒砂と10YR4/6褐色極細粒砂(中粒砂混じる)の塊状の埋土層		(土)
20A	0335K	0596G・0596H	0.46	-0.29	0.11	10YR3/3暗褐色シルト層細粒砂混じる、10YR5/4にぶい黄褐色シルト質ブロック少し混じる、炭化粒、土層片含む		0015K下層
20A	0345K	0596G・0596K	-0.33	-0.29	0.11	10YR4/3にぶい黄褐色粘土質極細粒砂層、10YR5/4にぶい黄褐色シルト質ブロック多く混じる		(土、須)
20A	0365K	0596G・0596K	-0.68	-0.5	0.12	10YR4/6褐色極細粒砂層、細粒砂含む		0015K下層
20A	0375K	0596J0・0596K	0.64	-0.28	0.1	10YR4/4褐色 細粒砂層		(土) 0015K下層
20A	0385K	0596H	-0.67	0.49	0.18	10YR3/2暗褐色シルト質極細粒砂層、炭化粒含む		(土)
20A	0395K	0596H	1.39	0.94	0.27	10YR3/2暗褐色極細粒砂質シルト層、炭化粒含む		(土)
20A	0445K	0596G	-0.44	-0.24	0.17	10YR4/3にぶい黄褐色極細粒砂層、10YR5/4にぶい黄褐色シルト質ブロック混じる		0015K下層
20A	0455P	0596K	0.43	0.32	0.11	10YR5/6黄褐色極細粒砂質シルト層に10YR3暗褐色粘土質シルトブロック混じる		0055D下層
20A	0465P	0597AF	0.92	0.59	0.07	10YR4/4褐色極細粒砂層		土、須
20A	0475K	0596H	-1.14	0.9	0.37	10YR6/4にぶい黄褐色極細粒砂質極細粒砂層と10YR4/6褐色極細粒砂層の互層		山
20A	0485K	0596J1	1.21	1.11	0.1	10YR5/4にぶい黄褐色極細粒砂層		土、瓦、山 0045X下層
20A	0495K	0596J30	2.27	-1.16	0.13	10YR3/4暗褐色極細粒砂層、10YR4/6褐色極細粒砂層		(土、瓦、山) 0045X下層
20A	0505K	0596CHHJ	3.1	2.66	0.31	10YR3/4暗褐色極細粒砂層、細粒砂混じる		土、瓦、山、陶 0045X下層
20A	0515K	0596C	-0.66	0.64	0.07	10YR3/4暗褐色極細粒砂層		(土) 0045X下層
20A	0525K	0596J0	-1.4	0.95	0.53	10YR3/4暗褐色シルト質極細粒砂層、中粒砂をわずかに混じる		土、須 0025K下層
20A	0535K	0596DEJ	0.93	0.92	0.27	10YR3/4暗褐色極細粒砂質極細粒砂層、10YR4/6褐色極細粒砂ブロック混じる		土、瓦、山 0065X下層
20A	0545D	0400X3Y・0499D・0500DEJ30・0599AFCKL	-7.79	5.4	0.88	断面図に記載		土、須
20A	0555P	0498V	0.34	0.32	0.11	10YR3/4暗褐色極細粒砂と10YR4/6褐色極細粒砂のブロック混土層		土
20A	0565P	0498V	0.33	0.27	0.08	10YR4/6褐色極細粒砂層		
20A	0575P	0498V	0.3	0.29	0.13	10YR5/4にぶい黄褐色極細粒砂層と10YR3/4暗褐色極細粒砂層の互層、炭化粒混じる		
20A	0585K	0599FKL	1.5	-1.3	0.55	断面図に記載		土 0545D下層

表5 遺構一覧表(2)

調査区	遺構番号	グリッド	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	埋土	出土遺物(土師器、須恵器、瓦、土師器、土師器、土師器、土師器、土師器、土師器)	備考
20A	0595K	0500LM	-0.6	0.56	0.17	10YR3/4暗褐色極細粒砂(細粒砂混じり)と10YR5/6黄褐色シルト質極細粒砂のブロック混土層		須
20B	0605P	0506P	0.48	0.36	0.13	10YR2/3暗褐色シルト質極細粒砂層 10YR4/6褐色シルト質極細粒砂ブロック混じり 土砂片混じり	(土)	
20B	0615P	0506EP	0.41	0.29	0.17	10YR4/6褐色極細粒砂層極細粒砂混じり、10YR3/4暗褐色極細粒砂ブロック混じり		
20B	0625P	0506E	0.36	0.32	0.18	10YR3/4暗褐色極細粒砂層、10YR4/6褐色シルト質極細粒砂ブロック混じり		
20B	062-15P	0506E	0.33	-0.24	0.17	10YR3/4暗褐色極細粒砂層、10YR4/6褐色シルト質極細粒砂ブロック混じり		
20B	0635K	0506EL	-0.73	0.61	0.13	10YR3/4暗褐色極細粒砂層、10YR4/4褐色極細粒砂が塊に混じり	土、山	
20B	063-15P	0506E	0.26	0.22	0.21	10YR3/4暗褐色極細粒砂と10YR4/6褐色極細粒砂の混土層		
20B	0645P	0506Q	0.3	0.23	0.17	10YR2/3暗褐色シルト質極細粒砂層、10YR4/4褐色極細粒砂ブロック		
20B	0655P	0506L	0.33	0.32	0.15	10YR3/3暗褐色シルト質極細粒砂層		
20B	0665P	0506Q	0.28	0.26	0.06	10YR3/3暗褐色 細粒砂層		
20B	0675P	0506L	0.43	0.4	0.1	10YR3/4暗褐色極細粒砂層、10YR4/4褐色小ブロック混じり	(土)	
20B	0685P	0506L	0.4	0.37	0.11	10YR3/4暗褐色シルト質極細粒砂層、10YR2/1黒色極細粒砂ブロック混じり	土	
20B	0695K	0506L	0.66	0.63	0.17	10YR3/3暗褐色極細粒砂層、10YR5/4に多い黄褐色中粒砂ブロック混じり		
20B	0705K	0506Q	0.58	0.45	0.16	10YR2/3暗褐色極細粒砂層、10YR4/6褐色極細粒砂ブロック混じり		
20B	0715K	0506GL	0.72	-0.66	0.14	10YR3/3暗褐色シルト層、10YR2/3暗褐色極細粒砂小ブロック少し混じり、10YR4/4褐色極細粒砂ブロック混じり	山	
20B	071-15K	0506GL	0.63	-0.42	0.14	10YR3/3暗褐色極細粒砂層、10YR4/4褐色極細粒砂ブロック混じり		
20B	0725K	0506K	0.5	0.47	0.11	10YR3/4暗褐色極細粒砂層、10YR4/6褐色中粒砂混土状に混じり		
20B	0735P	0506E	0.35	0.3	0.09	10YR3/3暗褐色極細粒砂層		
20B	073-15P	0506E	0.43	-0.42	0.08	10YR4/4褐色極細粒砂と10YR3/3暗褐色極細粒砂の混土層		
20B	0745D	0506EJ1NOST-0505ABCFGHKLMQ	-7.6	7	0.59	南瀬新断面に記載	土、乳、山、陶	
20B	0755D	0506CGHLMQ	-6.08	0.28	0.07	10YR3/3暗褐色 極細粒砂層	山、陶	
20B	0765P	0506E	0.43	0.37	0.12	10YR2/3暗褐色極細粒砂と10YR4/4褐色極細粒砂の復状混土層		
20B	0775P	0506LQ	0.45	-0.27	0.1	10YR3/3暗褐色極細粒砂と10YR4/4褐色極細粒砂の復土状混土層		
20B	0785P	0506E	0.41	0.25	0.12	10YR3/3暗褐色極細粒砂層、10YR4/6褐色シルト質極細粒砂ブロック少し混じり		
20B	0795K	0506BG	-0.8	0.31	0.05	10YR3/4暗褐色極細粒砂層		
20B	0805P	0506G	0.31	-0.28	0.06	10YR3/4暗褐色極細粒砂と10YR4/4褐色極細粒砂(中粒砂含む)の混土層		
20B	0815K	0506E	-0.76	0.57	0.1	10YR3/3暗褐色シルト層、10YR4/4褐色極細粒砂ブロック混じり		
20B	0825K	0506CB	0.48	-0.23	0.19	10YR3/3暗褐色シルト層、10YR4/6褐色シルト小ブロック少し混じり	山	
20B	0835P	0506P	0.51	-0.33	0.21	10YR3/4暗褐色極細粒砂層、10YR4/6褐色ブロック塊に混じり	須	
20B	0845K	0506Q	0.66	-0.5	0.19	10YR4/6褐色極細粒砂層に10YR3/3暗褐色シルト大ブロック混じり		
20B	0855K	0506LQ	-0.86	0.29	0.12	10YR3/3暗褐色極細粒砂層、10YR4/4褐色シルトブロック混じり		
20B	0865K	0506E	0.93	-0.6	0.2	10YR2/3暗褐色シルト質極細粒砂と10YR4/6褐色極細粒砂の復状混土層	(土)	
20B	0875P	0506Q	0.42	0.33	0.13	10YR3/3暗褐色極細粒砂と10YR4/6褐色極細粒砂、復状混土層	陶	
20B	0885D	0506KS	-3.1	0.28	0.07	10YR2/3黒褐色シルト層	土、須	
20B	0895U	0504AF	-	-	-	新断面記載	土、陶	
20B	0905U	0504AF	-	-	-	新断面記載	土、乳、山	
20B	0915U	0504AFB	-	-	-	新断面記載	土、乳、山	
20B	0925U	0504BG	-	-	-	新断面記載	乳、山	

表6 遺構一覧表(3)

調査区	遺構番号	グリッド	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	埋土	出土遺物(土師器, 埴土器, 灰釉陶器, 山系鉄, 陶器類入片)	備考
20B	0935P	0506G	-0.43	0.38	0.11	10YR3/3暗褐色シルト質極細粒砂層, 10YR4/4褐色極細粒砂が状況に小さく混じる		(山)
20B	0945P	0506G	0.41	-0.39	0.05	10YR3/4暗褐色細粒砂層, 10YR4/4褐色極細粒砂が状況に混じる		
20B	0955X	0506H1	0.7	0.48	0.08	10YR3/4暗褐色細粒砂層, 10YR4/4褐色中粒砂小ブロックが混じる		
20B	0965X	0506BG	0.47	-0.12	0.07	10YR4/6褐色細粒砂層, 10YR3/4暗褐色シルト質ブロックが混じる		
20B	0975P	0506E	0.3	0.28	0.08	10YR3/3暗褐色極細粒砂と10YR4/6褐色細粒砂の埋土層		(土)
20B	0985P	0506AE	0.64	0.32	0.22	10YR3/4暗褐色極細粒砂層, 10YR2/3黒褐色シルト質極細粒砂が状況に小さく混じる		土
20B	0995X	0506A	-0.57	-0.25	0.15	10YR2/3黒褐色極細粒砂層, 10YR4/6褐色極細粒砂小ブロックが下に付いて少しく混じる		土
20B	1005X	0506AN	0.68	0.61	0.08	10YR4/6褐色細粒砂層, 10YR3/3暗褐色極細粒砂小ブロックが混じる		土
20B	1015P	0506AN	0.46	0.37	0.11	10YR3/3暗褐色シルト質極細粒砂層, 10YR4/6褐色細粒砂小ブロックが混じる		土
20B	1025P	0506AE	0.27	0.23	0.15	10YR3/3暗褐色細粒砂層, 10YR5/6黄褐色細粒砂小ブロックが少しく混じる		土
20B	1035X	0506IX	0.76	0.66	0.1	10YR4/6褐色細粒砂層, 10YR3/4暗褐色極細粒砂小ブロックが混じる		土
20B	1045X	0506CH1	0.95	-0.72	0.2	10YR3/4暗褐色極細粒砂層, 10YR5/4にぶい黄褐色細粒砂が状況に少しく混じる		土
20B	1055X	0506E	-0.68	-0.65	0.13	10YR3/3暗褐色細粒砂層, 10YR4/6褐色シルト質細粒砂と10YR2/3黒褐色シルト質極細粒砂の小ブロックが状況に混じる		(土, 山)
20B	1065X	0506H1	0.94	-0.64	0.14	10YR3/4暗褐色細粒砂層, 10YR5/6黄褐色極細粒砂大ブロックが混じる		灰
20B	1075P	0506A	0.5	0.38	0.16	10YR2/3黒褐色シルト質極細粒砂層, 黄砂ブロックが混じる		0885D下層
20B	1085X	0506AE	0.58	-0.43	0.14	10YR3/3暗褐色極細粒砂質シルト層, 黄砂ブロックが混じる		
20B	1095X	0506E	0.98	0.5	0.21	10YR3/3暗褐色極細粒砂と10YR4/4褐色, シルト質極細粒砂の埋土層		陶
20B	1105X	0506H	-0.59	0.43	0.06	10YR4/6褐色細粒砂と10YR3/4暗褐色極細粒砂の塊状混土層		土
20B	1115X	0506GL	1.2	0.67	0.08	10YR2/3黒褐色細粒砂層, 10YR5/6黄褐色極細粒砂質シルトブロックが少しく混じる		
20B	1125X	0506LQ	0.6	0.4	0.16	10YR3/3暗褐色極細粒砂層, 10YR5/6黄褐色シルトブロックが混じる		土
20B	1135X	0506GH	0.72	-0.5	0.08	10YR4/6褐色細粒砂層, 10YR3/3暗褐色シルト質細粒砂ブロックが混じる		山
20B	1145X	0506I	-0.48	0.37	0.1	10YR3/4暗褐色極細粒砂層, 10YR4/6褐色細粒砂小ブロックが少しく混じる		
20B	1155X	0504BCDH1 J-0503FGMNRS	-	-	-			灰, 陶 遺物分布範囲
20B	1165P	0506Q	-0.29	0.27	0.16	10YR4/4褐色細粒砂と10YR3/4暗褐色細粒砂の塊状混土層, 10YR3/4暗褐色細粒砂ブロックが上部に混ざる		
20B	1175X	0506Q	-0.6	-0.37	0.14	10YR3/3暗褐色極細粒砂と10YR4/6褐色シルト質極細粒砂のブロック状混土層		
20B	1185D	0506E	-0.74	0.32	0.14	10YR4/6褐色細粒砂と10YR2/3黒褐色シルト質極細粒砂の塊状混土層		
20B	1195D	0506D1	-0.76	0.39	0.06	10YR3/3暗褐色極細粒砂層, 10YR4/6褐色シルト質小ブロックが少しく混じる		
20B	1205P	0506L	0.45	-0.2	0.07	10YR4/4褐色細粒砂層, 10YR3/3暗褐色極細粒砂ブロックが混じる		
20B	1215X	0505GH	0.56	0.49	0.29	10YR4/4褐色細粒砂層		陶
20B	121-1SP	0505GH	0.33	0.31	0.22	10YR3/4暗褐色シルト層		1215X下層
20B	1225P	0505W	0.32	0.25	0.13	10YR4/6褐色細粒砂層		
20B	1235P	0505R	0.34	0.31	0.19	10YR3/4暗褐色シルト質極細粒砂と10YR4/6褐色細粒砂の塊状混土層		
20B	1245P	0506M	0.27	0.24	0.07	10YR3/4暗褐色極細粒砂と10YR4/6褐色細粒砂層の小ブロック状混土層		1055X下層
20B	1255X	0506NS	0.81	0.63	0.14	10YR3/4暗褐色極細粒砂と10YR4/6褐色細粒砂の塊状混土層		
20B	1265P	0505HM	0.43	0.37	0.15	10YR3/4暗褐色極細粒砂と10YR5/4にぶい黄褐色シルト質極細粒砂の塊状混土層		山

表7 遺構一覧表(4)

調査区	遺構番号	グリッド	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	埋土	出土遺物(土師器、須恵器、瓦、陶器、海貝、山床鏡、海部瓦入群片)	備考
20B	127SP	0505E	0.3	0.27	0.22	10YR3/4暗褐色極細粒砂層、10YR4/6褐色極細粒砂ブロック下位にかけて盛じる		
20B	128SP	0505E	0.36	0.34	0.15	10YR4/6褐色極細粒砂質極細粒砂層、10YR3/4暗褐色極細粒砂ブロック盛じる		
20B	129SD	0506DI	-0.8	-0.31	0.12	10YR暗褐色極細粒砂層、10YR4/6褐色極細粒砂ブロック盛じる		氏山
20B	130SP	0505I	0.36	0.33	0.15	10YR3/3暗褐色極細粒砂層極細粒砂盛じる、10YR4/6褐色極細粒砂少し盛にする		
20B	131SP	0505J	0.37	0.36	0.09	10YR3/4暗褐色シルト層(亀石含む硬土層に収る)		
20B	132SK	0505OGT	-1.6	1.05	0.35	10YR3/4暗褐色シルト質極細粒砂層、10YR5/6黄褐色極細粒砂小ブロック少し盛じる	(土、山、陶)	
20B	133SK	0505JO	2.1	1.23	0.29	10YR3/3暗褐色シルト質極細粒砂層、10YR5/4にぶい黄褐色極細粒砂ブロック少し盛じる	陶、青磁	
20B	134SP	0505K	0.29	0.28	0.05	10YR3/4暗褐色極細粒砂層		
20B	135SD	0505NH	2.4	0.31	0.1	10YR3/4暗褐色極細粒砂層、10YR5/6黄褐色極細粒砂ブロック盛じる	(土)	
20B	136SX	0505I	-	-	-	-	乳山、陶	略面上層
20B	136SK	0505I	1.31	0.21	0.16	10YR4/6褐色極細粒砂層(上位に小円礫、下層に大円礫を多量に含む)	乳山、陶	
20B	137SK	0505B	0.99	0.45	0.3	10YR4/6褐色極細粒砂層(上位に小円礫、下層に大円礫を多量に含む)中世陶器	乳山、陶	
20B	138SD	0505KS	3.02	0.27	0.24	10YR3/4暗褐色極細粒砂層、10YR4/6褐色極細粒砂質シルトブロック盛じる	(乳山)	
20B	139SK	0505H	-0.78	0.56	0.19	10YR5/6黄褐色極細粒砂と10YR3/4暗褐色極細粒砂の境状	須恵土層	
20B	140SD	0505WR	4.6	0.21	0.24	10YR3/4暗褐色極細粒砂層、10YR4/6褐色極細粒砂質シルトブロック盛じる	土、乳山	
20B	141SP	0505I	-0.44	0.36	0.15	10YR3/4暗褐色シルト質極細粒砂と10YR4/6褐色極細粒砂の境状	(土) 須恵土層	
20B	142SK	0505J	1.03	0.51	0.2	10YR3/4暗褐色極細粒砂質シルト層、10YR4/6褐色極細粒砂ブロック盛じる	(土、山、陶)	
20B	143SK	0505H	0.41	0.25	0.15	10YR4/6褐色極細粒砂層、長径1~4cm程度の円礫、土器片を多量に含む	土、山、陶	
20B	144SK	0505JN	0.59	0.44	0.09	10YR4/6褐色極細粒砂層、10YR3/4暗褐色極細粒砂ブロック盛じる(覆載の土壌産物)	(土)	
20B	145SP	0505JO	0.43	-0.24	0.36	10YR2/3黄褐色粘土質シルト層、10YR4/6褐色極細粒砂小ブロック盛じる		
20B	146SK	0505KO	-0.9	-0.26	0.09	10YR4/6褐色シルト層、10YR3/4暗褐色シルト質ブロック盛じる		
20B	147SD	0505N	-1.94	0.44	0.26	10YR3/3暗褐色シルト質極細粒砂層、10YR4/6褐色極細粒砂小ブロック	(土、山、陶)	
20B	148SD	0504BP0K1PQ	-7.17	2.8	0.77	10YR3/4暗褐色粘土質シルト層	土、須、灰	
20B	149SK	0505T	-0.46	-0.29	0.05	10YR3/4暗褐色極細粒砂層、10YR4/6褐色極細粒砂ブロック盛じる	土、山	
20B	150SK	0505OT	-1.26	-0.73	0.13	10YR3/3暗褐色極細粒砂層、10YR4/6褐色極細粒砂小ブロックが下部に盛じる	乳山、陶	
20B	151SK	0505CH	1.07	0.6	0.32	10YR4/6褐色極細粒砂層、10YR3/3暗褐色極細粒砂ブロック少し盛じる。土器、長径2~15cm程度の円礫を多量に含む	乳山	
20B	152SP	0505K	0.28	-0.11	0.14	10YR3/4暗褐色極細粒砂層		
20B	153SK	0505NS	-0.43	-0.32	0.26	10YR3/4暗褐色極細粒砂層、10YR4/6褐色極細粒砂ブロック盛じる		
20B	154SP	0505T	0.39	0.33	0.71	10YR3/4暗褐色極細粒砂質極細粒砂層、10YR5/6黄褐色シルトブロック(細粒砂盛じる)盛じる	(土、山)	150SK下層
20B	155SP	0505T	-0.33	-0.3	0.54	10YR3/3暗褐色シルト質極細粒砂層、10YR4/6褐色極細粒砂ブロック盛じる		南院サブトレンチ内
20B	156SK	0505J	0.44	-0.33	0.16	10YR3/3暗褐色極細粒砂層、10YR4/6褐色極細粒砂層	(陶)	
20B	157SP	0505EJ	0.28	0.27	0.11	10YR3/4暗褐色極細粒砂層	(土、山)	
20B	158SK	0505DI	0.48	0.43	0.13	10YR4/6褐色極細粒砂層、10YR3/3暗褐色極細粒砂ブロック盛じる		
20B	159SK	0505BC	-1.09	-0.18	0.18	10YR5/6黄褐色極細粒砂と10YR3/4暗褐色極細粒砂の境状	須恵土層	074SD下層
20B	160SD	0505GLM	2.41	0.28	0.18	10YR3/4暗褐色極細粒砂と10YR5/6黄褐色極細粒砂質極細粒砂のブロック状土層、長径20cm程度の円礫を含む	須	074SD下層
20B	161SD	0505GLM	-1.2	-0.19	0.23	10YR3/4暗褐色極細粒砂層、10YR4/6褐色極細粒砂ブロック盛じる。長径15cm程度の円礫を含む	須	074SD下層
20B	162SK	0504KP	-0.42	0.27	0.56	10YR3/4暗褐色極細粒砂層	土、須	148SD下層

表8 遺構一覧表(5)

調査区	遺構番号	グランド	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	埋土	出土遺物(土師器、埴器、瓦、陶器、山系瓦、海貝類入層片)	備考
20B	1635K	05050-0504E	0.71	-0.46	0.17	10YR3/3暗褐色極細粒砂層, 10YR4/6褐色シト質ブロック状になる		
20B	1645P	0504F	0.43	0.28	0.45	10YR3/4暗褐色極細粒砂層, 10YR4/6褐色細粒砂ブロック状になる		1485D下層
20B	1655P	0504AF	0.39	0.34	0.26	10YR4/6褐色シト質極細粒砂層, 赤茶色の結晶になる		1485D下層
20B	1665P	0504AB	0.39	0.37	0.18	10YR3/4暗褐色シト質極細粒砂層, 赤茶色の結晶になる		1485D下層
20B	1675D	0504EJ・ 0503ABFGH	5.59	1.72	0.13	10YR4/6褐色極細粒砂シト層, 赤茶色の結晶, 10YR4/1褐色極細粒砂質極細粒砂(赤茶色の結晶になる)ブロック状になる		土, 灰 1885D同じ
20B	1685D	0503BFGALP	-5.19	1.84	0.18	10YR4/6褐色極細粒砂層, 赤茶色の結晶になる, 10YR4/3土に ぶい黄褐色細粒砂ブロック, 7.5YR2/3暗褐色極細粒砂(赤茶色の結晶になる)ブロック状になる	土	
20B	1705P	0504F	-0.3	0.27	0.26	10YR4/6褐色極細粒砂層		1485D下層
20B	1725D	0504CBHVMR	-6.72	0.59	0.22	10YR3/4暗褐色極細粒砂層, 灰黄褐色, 褐色, 黒褐色の 混じった結晶の粘土質ブロック状になる		2005D切り合い不明
20B	1755K	05050_E	-0.54	-0.45	0.23	10YR3/3暗褐色極細粒砂層, 10YR4/6褐色細粒砂ブロック, 10YR2/3黒褐色極細粒砂小ブロック状になる	土	
20B	1765K	05050	-0.78	-0.65	0.13	10YR4/4褐色極細粒砂層, 10YR5/4にぶい黄褐色細粒砂ブロック状になる		1765K下層
20B	176-15P	05050	-0.35	0.31	0.24	10YR4/4褐色極細粒砂層, 10YR5/4にぶい黄褐色細粒砂ブロック状になる		
20B	1775P	0504M_R	0.44	0.37	0.19	10YR3/3暗褐色極細粒砂層, 10YR4/6褐色極細粒砂ブロック状になる		
20B	1785P	0504H	0.47	0.44	0.19	10YR4/6褐色極細粒砂層, 10YR2/3黒褐色粘土質シト質ブロック状になる		
20B	1795P	0504C_B	0.3	0.26	0.11	10YR3/3暗褐色粘土質極細粒砂層, 土器片含む		
20B	1805P	0504C_B	0.31	-0.29	0.24	10YR3/4暗褐色極細粒砂層		(灰)
20B	1815K	0504C_B	0.99	0.88	0.12	10YR4/6にぶい黄褐色極細粒砂質シト層	土	
20B	1825P	0504H	0.31	0.29	0.25	10YR4/6褐色極細粒砂層, 灰化層含む		
20B	1835P	0504I	0.3	0.29	0.3	10YR4/6褐色極細粒砂層		(土)
20B	1845K	0505C	0.5	0.35	0.21	10YR3/4暗褐色シト質極細粒砂層, 10YR6/6明黄褐色極細粒砂層		(陶)
20B	1855P	0504EP	0.24	0.21	0.18	10YR3/3暗褐色粘土質シト層, 赤茶色の結晶になる		1485D
20B	1865P	0504Q	0.29	0.17	0.11	10YR4/4褐色シト層, 10YR7/4にぶい黄褐色極細粒砂質シト層小ブロック, 土, 5YR2/3暗褐色と10YR7/4にぶい黄褐色の結晶の互層が混じる		南栗サブレング内
20B	1875K	05050	0.31	0.29	0.56	10YR4/4褐色極細粒砂質極細粒砂層(遺物含む)	土, 灰	1335K, 1505K下層
20B	1885D	0503H1W0	3.61	0.94	0.26	10YR4/6褐色極細粒砂質シト層, 赤茶色の結晶, 10YR4/1褐色極細粒砂質極細粒砂(赤茶色の結晶になる)ブロック状になる		1675D同じ
20B	1895P	0505T	0.33	0.25	0.12	10YR3/4暗褐色極細粒砂質粘土層		南栗サブレング内
20B	1905P	0504F	0.24	-0.16	0.16	10YR3/4暗褐色極細粒砂層		1485D下層
20B	1925K	0505T-0504P	-0.4	-0.23	0.36	10YR3/3暗褐色粘土質シト層, 10YR4/6褐色極細粒砂ブロックを含む	山	南栗サブレング内
20B	1935D	-	-	-	-	10YR6/4にぶい黄褐色極細粒砂質極細粒砂層, 灰黄褐色や褐色の混じった結晶の粘土質ブロックが混じる	土, 灰	1485D下層(断面図のみ)
20B	1945P	0504K	0.31	-0.3	0.58	10YR3/4暗褐色極細粒砂質シト層		1485D下層
20B	1955P	0505J0-0504FX	0.34	0.29	0.22	10YR3/3暗褐色粘土質シト層, 細粒砂混じる		(灰)
20B	1965P	0504A	0.23	-0.16	0.2	10YR3/3暗褐色粘土質シト層		
20B	1985P	0504G	0.35	0.33	0.15	10YR3/4暗褐色極細粒砂層		
20B	1995K	0504GL	1.48	0.96	0.27	10YR3/4暗褐色極細粒砂層, 10YR6/4にぶい黄褐色極細粒砂(結晶混じり)ブロック状になる	(土, 灰)	1485D下層
20B	2005D	0504GRMR	-1.94	0.52	0.11	10YR4/6褐色極細粒砂層		1725D切り合い不明
20B	2015K	0504K	-0.52	0.5	0.18	10YR3/3暗褐色シト質極細粒砂層, 黒褐色・黄褐色土ブロック状になる		1485D下層
20B	2025K	0505L	0.81	0.64	0.08	10YR3/3暗褐色極細粒砂層, 10YR5/6黄褐色極細粒砂ブロックと10YR2/2黒褐色極細粒砂層ブロック状になる		0745D下層
20B	2035K	0504FGL	-1.76	1.03	0.3	沈砂, 粗砂	土	1485D下層
20B	2045P	05050	0.35	0.33	0.18	10YR3/3暗褐色極細粒砂層		遺
20B	2055P	05050	0.37	-0.24	0.11	10YR4/6褐色極細粒砂と10YR3/4暗褐色シト質極細粒砂の堆積土層	山	
20B	2065P	05050-0504K	0.48	0.25	0.43	10YR4/6褐色極細粒砂層, 10YR3/3暗褐色極細粒砂質細粒砂ブロックが上位に混じる		
20B	2075P	05050	0.38	0.35	0.14	10YR4/6褐色極細粒砂層		



表9 遺構一覧表(6)

調査区	遺構番号	グリッド	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	埋土	出土遺物(土師器, 須恵器, 瓦, 土師土, 山岳土, 山岳土, 山岳土, 山岳土)	備考
20B	2095X	0504A-0505BCDEGH1JMN0 EST	-6.5	8.4	-	-	-	塚状の高まり
21Aa	0015K	0510L	0.47	0.43	0.18	10YR/3に灰黄褐色シルト質細砂に10YR4/4褐色細砂がブロック状に混じる。埋土あり	-	-
21Aa	0035D	0512W	0.31	0.26	0.33	10YR3/4褐色細砂に10YR4/4褐色細砂がブロック状(大)に混じる埋土あり	-	-
21Aa	0055K	0512E	0.37	0.3	0.11	10YR2/3黒褐色シルト質砂と基盤層細砂の埋土。ブロック状あり	-	-
21Aa	0085K	0512V	0.39	0.38	0.22	10YR3/4褐色細砂に10YR4/3に灰黄褐色シルト質細砂に基盤層細砂がブロック状に混じる。埋土あり	-	-
21Aa	0095K	0512E	0.35	0.34	0.37	10YR3/4褐色細砂に10YR4/4褐色細砂がブロック状(大)に混じる。炭化物(炭)を含む	(土)	-
21Aa	0105K	05123S	0.69	0.65	0.2	断面図記載	(土)	-
21Aa	0115K	05123S	1.22	1.17	0.79	断面図記載	(土)	-
21Aa	0135K	0512H	-0.62	0.24	0.22	10YR3/2黒褐色細砂に10YR5/4に灰黄褐色砂が混じるブロック(大) / 10YR3/3褐色細砂と10YR4/4褐色細砂の埋土。ブロック(小)	-	-
21Aa	0155K	05123W	1.08	0.96	0.49	断面図記載	(土)	-
21Aa	0165K	0512N	-0.54	0.46	0.4	断面図記載	(土)	-
21Aa	0175K	0512N	0.64	0.53	0.16	10YR4/4褐色。埋土あり	-	-
21Aa	0205D	05120, 0511K, 0512N	-4.46	0.89	0.32	断面図記載	土, 須, 山	-
21Aa	0215K	0512S	-0.36	-0.28	0.2	10YR3/3褐色細砂質シルトに基盤層の大ブロックが少量混じる	-	-
21Aa	0225K	0511F	-0.33	-0.27	0.37	10YR4/4褐色細砂の埋土。上層の褐色土。黄褐色砂が混じる	-	-
21Aa	0235K	0511F	0.91	0.8	0.81	断面図記載	須, 山	-
21Aa	0245K	0511K	0.85	0.52	0.27	10YR3/4褐色細砂質シルトに黒褐色細砂と基盤層砂が混じる。埋土あり	-	-
21Aa	0255D	0511KF	-2.91	1	0.33	10YR3/3褐色細砂質シルトに10YR4/3に灰黄褐色細砂がブロック状に混じる	土, 須, 山	-
21Aa	0265D	0511FGH	-5.14	0.97	0.18	10YR3/3褐色細砂質シルト	土, 須, 山	-
21Aa	0275D	0511G	-1.28	0.78	0.11	10YR4/4褐色細砂(大)と10YR3/3褐色細砂の埋土。しまりなし	-	-
21Aa	0285D	0511QV	-4.12	0.54	0.04	10YR3/3褐色細砂を含む細砂に10YR4/4褐色細砂ブロック(小)がわずかに混じる	-	-
21Aa	0295D	0511J, 0510F	-3.74	0.85	0.22	10YR3/3褐色細砂質シルト	(土, 須, 山)	-
21Aa	0315K	0511V	-1.19	-0.99	0.58	南壁断面図に記載	須, 須, 山	-
21Aa	0325K	0511Q	0.27	0.23	0.2	10YR4/3に灰黄褐色シルト質砂に基盤層砂のブロックが混じる。こまごま埋土あり	-	-
21Aa	0335K	0511W	3	0.81	0.09	-	(山)	耕作痕
21Aa	0345K	0511G	0.29	0.24	0.23	10YR4/3に灰黄褐色シルト混じり細砂。しまりあり / 10YR3/4黒褐色細砂質シルト質砂の埋土。基盤層砂のブロックが少量混じる	土, 須, 山	耕作痕
21Aa	0355K	0511TT	-2.1	0.8	0.13	-	土, 須, 山	耕作痕
21Aa	0365K	0510U, 0511T	-3.68	-0.77	0.28	10YR3/3褐色細砂質シルト。遺物と炭化物を含む。しまり(土, 須, 山)	重複多数あり	-
21Aa	0375K	0510K	0.74	-0.57	0.26	10YR4/3に灰黄褐色細砂に10YR3/3褐色細砂のブロックが混じる	-	-
21Aa	0385K	0510K	-0.6	0.58	0.19	10YR3/3褐色細砂に10YR5/4に灰黄褐色砂が混じる	(土)	-
21Aa	0395K	0510F	0.9	0.45	0.2	10YR4/4褐色細砂に10YR3/3褐色細砂質シルトのブロックが混じる	(土)	-
21Aa	0405K	0511G	0.37	0.3	0.23	10YR4/4褐色。しまりあり	(土)	-
21Aa	0425K	0511X	-1.19	-0.92	0.33	10YR2/3黒褐色シルト質砂に基盤層細砂がわずかに混じる。しまりあり	須	-
21Aa	0435K	0511W	-0.7	0.25	0.24	南壁断面図に記載	(土, 須, 山)	-
21Aa	0445K	0511P	0.35	-0.33	0.23	10YR3/4褐色細砂質シルト	(土)	-
21Aa	0455K	0511PQ	0.91	-0.87	0.4	断面図記載	(土)	-
21Aa	0475K	0511H	0.38	0.36	0.28	10YR3/2黒褐色シルト質砂のブロック状埋土	(土)	-
21Aa	0485K	0511X	-0.91	-0.82	0.16	10YR3/4褐色細砂質シルト。基盤層砂が混じる	(土)	-
21Aa	0505K	0511P	-0.48	-0.34	0.57	断面図記載	-	-
21Aa	0515K	0511X	0.41	0.4	0.27	10YR3/3褐色細砂質シルトに10YR4/3に灰黄褐色細砂のブロック(小)が混じる。細砂層が入る	須	-
21Aa	0525K	0512W	0.29	0.28	0.23	10YR4/4褐色細砂の埋土。基盤層砂のブロック(大)が混じる	須	-
21Aa	0535K	0511K	0.48	0.45	0.11	10YR3/3褐色細砂質シルトの埋土	-	-

表 10 遺構一覧表 (7)

調査区	遺構番号	グリッド	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	埋土	出土遺物(土器、瓦器類、瓦類、陶器、山系瓦、陶器類入層片)	備考
21aa	0545k	05111J	-0.62	-0.12	0.12	10YR3/3暗褐色シルト質砂に基盤層砂の小ブロックが混じる。炭化物(殻)と土器片を含む		
21aa	0656k	0512T	0.5	0.46	0.37	10YR4/4褐色砂の埋土。暗褐色砂質土のブロック(大)が混じる。植生層が縁部に入る		
21aa	0575k	0510P	0.54	0.53	0.35	10YR3/4暗褐色シルト質砂/10YR3/3暗褐色シルト質砂に10YR4/4褐色砂の小ブロックが混じる。埋土、炭化物(殻)が混じる		
21aa	0658k	0510V	0.34	0.32	0.08	10YR3/3暗褐色シルト質砂の埋土		
21aa	0615k	0510Q	0.41	0.37	0.38	10YR3/3暗褐色シルト質砂の埋土	(土)	
21aa	0635k	0510Q	0.38	0.34	0.33	10YR3/3暗褐色シルト質砂の埋土		(土)
21aa	0645k	0510R	0.32	0.31	0.17	10YR3/3暗褐色シルト質砂 / 10YR3/4暗褐色シルト質砂の埋土		
21aa	0655k	0510R	1.63	0.93	0.51	10YR2/3黒褐色シルト質砂に10YR4/3にぶい黄褐色細粒砂のブロックが少量混じる	(土、山)	
21aa	0665k	0512W	0.27	0.24	0.31	10YR3/3暗褐色細粒砂シルトの埋土		
21aa	0675k	0512X	0.37	0.19	0.34	10YR4/4褐色細粒砂に基盤層細粒砂が混じる	山	
21aa	0685k	0512T	0.35	0.3	0.25	10YR3/4暗褐色シルト質砂と10YR4/4褐色砂の埋土		
21aa	0695k	0511P	0.67	0.56	0.32	10YR3/3暗褐色シルト質砂に10YR4/4細粒砂が混じる。埋土	(土)	
21aa	0705k	0512T	0.45	0.24	0.13	10YR3/3暗褐色シルト質砂と10YR3/4にぶい黄褐色シルト質砂の埋土		
21aa	0725k	0512V	0.35	0.3	0.16	10YR3/2黒褐色細粒砂の埋土。基盤層砂がブロック状に混じる		
21aa	0735k	0510Q	0.36	0.33	0.23	10YR3/3暗褐色細粒砂シルト、下方に基盤層砂の小ブロックが混じる	(山、瓦)	
21aa	0755k	0510L	0.21	0.19	0.12	10YR3/3暗褐色シルト質砂の埋土。基盤層砂が少し混じる		
21aa	0765k	0510H	0.39	0.37	0.31	10YR3/3暗褐色細粒砂シルトに基盤層砂ブロックが少し混じる。しまりなし	(土)	
21aa	0775k	0510H	0.3	0.24	0.07	10YR3/3暗褐色細粒砂シルト埋土。細か4ツブロック。しまりあり		
21aa	0785k	0510H	-1.1	0.31	0.08	10YR3/3暗褐色細粒砂シルト埋土		
21aa	0795k	0510J	-1.59	0.63	0.02	10YR3/4暗褐色砂。しまりなし	(土、山)	
21aa	0805k	0511T, 0510P	2.58	0.29	0.12	断面図記載		
21aa	0815k	0511P	0.65	0.61	0.16	10YR3/3暗褐色細粒砂シルトに10YR4/4褐色細粒砂が混じる。埋土、ブロック(大)、炭化物(殻)を含む		
21aa	0825k	0511U	0.3	0.27	0.24	10YR3/3暗褐色シルト質砂に10YR2/2黒褐色シルト質砂が少し混じる。埋土		
21aa	0835k	05120, 0511K	0.49	0.43	0.35	0YR4/3にぶい黄褐色シルト質砂	須	
21aa	0845k	0511UW	0.44	0.24	0.29	10YR3/4暗褐色砂質シルト		
21aa	0855k	0511P	-0.54	0.53	0.31	10YR2/2黒褐色シルト質砂に10YR3/3暗褐色砂と10YR4/4褐色砂(基盤層)がブロック状に混じる		
21aa	0875k	0510U	0.5	0.17	0.93	10YR4/4褐色細粒砂。基盤層砂ブロックをわずかに含む。しまりなし		
21aa	0885k	0510U	0.38	0.28	0.19	10YR3/4暗褐色シルト質砂	(土、山)	
21aa	0935k	0512S	-0.52	-0.44	0.9	10YR4/6褐色細粒砂に10YR3/4暗褐色シルト質砂が混じる		
21ab	0945k	0508Q	0.38	0.3	0.19	10YR4/4褐色細粒砂の埋土		
21ab	0955k	0508Q	0.34	0.2	0.08	10YR3/3暗褐色砂に10YR4/4褐色細粒砂と10YR2/2黒褐色シルト質砂が混じる埋土		
21ab	0965k	0508PQ	-0.27	0.24	0.24	10YR3/3暗褐色砂に10YR4/4褐色細粒砂ブロックが混じる		
21ab	0975k	0508Q	0.5	0.29	0.09	10YR3/3暗褐色砂と10YR4/4褐色細粒砂のブロック状埋土。平段には10YR2/2黒褐色砂のブロック(小)も混じる		
21ab	0985k	0509H	-3.29	-0.16	0.05	断面図に記載		
21ab	0995k	0509HE	-3.83	-0.81	0.05	10YR3/3暗褐色シルトを含む砂に10YR4/4褐色砂のブロック(大・小)が混じる埋土	(土、山、陶)	
21ab	1015D	0508FKP	-6.56	0.62	0.08	断面図に記載	土、瓦、山、陶	
21ab	1065k	0508W	0.65	-	0.25	10YR4/3にぶい黄褐色細粒砂に10YR3/3暗褐色シルトを含む砂が混じる埋土		
21ab	1075k	0510H	0.39	0.3	0.47	10YR3/4暗褐色砂に10YR4/3にぶい黄褐色細粒砂のブロック(小)が少量混じる	(土)	
21ab	1185k	0509G	0.31	0.25	0.47	10YR3/4暗褐色シルト質砂。炭または土器(殻)を含む少量混じる埋土。炭化物(殻)を含む	(土)	
21ab	1255k	0509G	0.35	0.29	0.44	10YR3/3暗褐色砂に10YR4/3にぶい黄褐色砂ブロック(小)が少量混じる埋土	(土)	
21ab	1265k	0509G	0.51	0.38	0.52	10YR3/3暗褐色シルト混じりの砂。土器・炭化物を含む	土、瓦	
21ab	1275k	0509F	0.41	0.36	0.32	10YR3/3暗褐色砂に基盤層砂をわずかに含む	(土、山)	

表11 遺構一覧表(8)

調査区	遺構番号	グリッド	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	埋土	出土遺物(土師器, 須恵器, 灰土, 陶器, 山形織, 陶器, 山形織, 陶器)	備考
21Ab	1305D	0509FGH	-8.74	1.06	0.26	断面図記載		土, 須, 山, 陶
21Ab	1315K	0509F	0.37	0.36	0.31	10YR3/3暗褐色シルト混じり砂/10YR3/4暗褐色砂に10YR4/3にぶい黄褐色細粒砂のブロックが少量混じる		土
21Ab	1355K	05100	0.4	0.34	0.25	10YR3/3暗褐色砂と10YR4/4暗褐色細粒砂の互層/10YR3/3暗褐色砂に10YR4/4暗褐色細粒砂ブロックが混じる		土
21Ab	1385K	0509F	0.34	0.31	0.2	10YR3/4暗褐色細粒砂に10YR4/4褐色砂ブロックが少量混じる。炭化物(粒)を含む		土
21Ab	1395K	0509F	0.3	0.29	0.19	10YR3/4暗褐色砂の中央付近と周囲は基盤層砂との埋土		土
21Ab	1405K	0509G	0.27	0.26	0.22	10YR4/3にぶい黄褐色細粒砂の埋土		土
21Ab	1445K	0510H	0.46	0.36	0.31	10YR3/4暗褐色砂に10YR4/3にぶい黄褐色細粒砂のブロックが少量混じる		土
21Ab	1475I	0510STU	-4.1	-3.5	0.16	断面図記載		土
21Ab	1485K	0510T	0.35	0.29	0.07	10YR3/3暗褐色砂に基盤層砂をわずかに含む		土
21Ab	1495K	0510SX	0.29	0.27	0.08	10YR4/4褐色シルト質砂に10YR3/3暗褐色砂の埋土。炭化物と土器を含む		土
21Ab	1525K	0509H	-0.48	0.4	0.55	10YR3/3暗褐色シルト混じり砂/10YR3/4暗褐色砂に10YR4/3にぶい黄褐色細粒砂のブロックが少量混じる		(土)
21Ab	1555K	0510J	1.5	0.44	0.55	10YR3/3暗褐色砂と10YR4/4褐色シルト質砂の埋土		山
21Ab	1565K	0510J	1.08	0.72	0.44	10YR3/4暗褐色シルト質砂。上層に山形織を含む		山
21Ab	1575K 上層	0510S	-0.5	-0.48	0.12	断面図記載		土
21Ab	1585K	0509I	0.39	-0.25	0.29	10YR3/3暗褐色砂に10YR4/4暗褐色細粒砂のブロックをわずかに混じる。炭化物(粒)を含む		土
21Ab	1595K	0509I	-0.34	0.32	0.36	10YR3/3暗褐色砂に10YR4/4暗褐色細粒砂のブロックが混じる山形織小皿を含む		山
21Ab	1605K	0509G	0.58	-0.3	0.25	10YR3/3暗褐色シルト混じり砂。炭化物(粒)を含む		土, 山
21Ab	1615K	0509G	0.35	-0.31	0.13	10YR3/3暗褐色シルト混じり砂に10YR4/4暗褐色細粒砂ブロックがわずかに混じる。埋土。炭化物(粒)を含む		土
21Ab	1625K	0509G	0.46	0.43	0.43	10YR3/3暗褐色シルト混じり砂。炭化物(粒)を含む/10YR3/3暗褐色シルト混じり砂と10YR4/4暗褐色細粒砂ブロックの埋土		(土, 山)
21Ab	1635K	0509G	-0.5	0.36	0.74	10YR3/3暗褐色シルト混じり砂。		(土)
21Ab	1645K	0509G	0.55	0.48	0.22	10YR3/3暗褐色砂。断面に10YR4/3にぶい黄褐色細粒砂。埋土不明瞭		土
21Ab	1655K	0509L	0.47	0.43	0.23	10YR3/3暗褐色砂と10YR4/3にぶい黄褐色細粒砂ブロックの埋土/埋土		土
21Ab	1675K	0509M	0.95	-0.66	0.16	10YR3/4暗褐色砂。炭化物(粒)を含む		(土)
21Ab	1705K	05100	0.29	0.26	0.09	10YR3/3暗褐色砂に10YR4/4暗褐色細粒砂ブロック(小)が混じる		土
21Ab	1715K	05100	0.28	0.23	0.1	10YR3/3暗褐色砂。断面埋土不明瞭		土
21Ab	1725K	0509H	0.4	0.34	0.69	10YR3/3暗褐色砂と10YR4/3にぶい黄褐色細粒砂ブロックの埋土		(土, 須, 灰)
21Ab	1735K	0509H	0.28	-0.24	0.27	10YR3/3褐色シルト質砂の割合が上方で大きい。10YR4/4暗褐色細粒砂が混じる埋土		土
21Ab	1745K	0509H	0.29	0.28	0.33	10YR3/3暗褐色砂に10YR4/4暗褐色細粒砂のブロックが混じる		土
21Ab	1775K	0510T	0.39	0.35	0.11	10YR3/4暗褐色砂に10YR4/3にぶい黄褐色細粒砂が混じる埋土。炭化物(粒)を含む		土
21Ab	1815K	0510X	0.51	0.41	0.15	10YR3/4暗褐色砂。10YR4/3にぶい黄褐色細粒砂のブロック(大)が混じる埋土。炭化物(粒)を含む		土
21Ab	1845K	0510S	0.48	-0.39	0.15	10YR3/3暗褐色砂に10YR2/3暗褐色砂と10YR4/3にぶい黄褐色細粒砂の埋土/ブロックが混じる。炭化物(粒)を含む		土
21Ab	1855K	0510X	0.35	0.24	0.36	10YR3/3暗褐色砂と10YR4/3にぶい黄褐色細粒砂のブロックが混じる埋土。炭化物を含む		土
21Ab	1865K	0509H	-2.14	-0.47	0.16	10YR3/4暗褐色砂に10YR4/3にぶい黄褐色細粒砂のブロックが少量混じる。下位に炭化物(粒)を含む		土, 山
21Ab	1875K	0510T	0.72	-0.64	0.24	断面図に記載		(土)
21Ab	1885K	0510STX	1.24	-0.91	0.19	10YR3/2暗褐色シルト質砂に10YR4/3にぶい黄褐色砂のブロックが少量混じる。しまりなし		(土)
21Ab	1895D	0510X	1.27	0.31	0.07	10YR3/3暗褐色シルト質砂のこまかい埋土。炭化物を含む		土

表 12 遺物一覧表 (1)

番 号	区 グランド	遺構	遺物	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	備 考	取上 No.	(X)	(Y)	(Z)	
1	20A	0500D	05SD下層	土師器	台付甕	12.8	-	(3.2)	S字状口縁台付甕(B類古段層,松)				
2	20A	0509E	05SD最下層	土師器	広口壺	-	-	(8.0)	古墳時代前期	017 026	-76054.453 -76054.746	-25999.244 -25999.641	15.185 15.130
3	20A	0499C	05SD下層	土師器	台付甕	-	10.2	(4.3)	壺間式				
4	20A	0500E	05SD最下層	土師器	台付甕	-	7.6	(7.9)	壺間式	022 025	-76050.525 -76051.340	-26000.860 -26000.178	15.391 15.492
5	20A	0500E	05SD最下層	土師器	高杯	-	-	(5.3)	松戸戸1式	011	-76050.162	-26000.458	15.631
6	20A	0509A	05SD上層	土師器	高杯脚	-	-	(4.1)	松戸戸1式				
7	20A	0500E	05SD上層	土師器	丸底壺	-	-	(4.3)	古墳時代前期				
8	20A	0509A・ 0500E	05SD最下層	土師器	壺	11.5	-	(8.2)	壺間式～松戸戸式	013 030 031 033	-76051.507 -76051.502 -76051.430 -76051.464	-25999.744 -25999.790 -25999.691 -25999.698	15.558 15.391 15.412 15.377
9	20A	0509E	05SD上層	土師器	直口壺	-	-	(4.6)	松戸戸1式				
10	20A	05000	05SD	須恵器	杯身	10.8	-	4.6	鍍銀器, B-44	037	-76054.832	-26000.935	15.499
11	20A	05000	05SD上層	須恵器	蓋	-	-	(2.1)	鍍銀器, 8C	007	-76050.143	-26002.810	15.948
12	20A	0500E	05SD	須恵器	蓋	-	-	(1.5)	内側に赤色顔料, 鍍銀器, 8C				
13	20A	0400X・ 0400T	05SD上層	須恵器	蓋	17.0	-	(2.0)	鍍銀器, 8C前半				
14	20A	0400X	05SD上層	須恵器	蓋	17.0	-	(1.5)	鍍銀器, 8C前半, C-2				
15	20A	0499C・ 0509A	05SD上層	須恵器	蓋	17.3	-	(2.9)	鍍銀器, 8C前半, C-2				
16	20A	0509E	05SD上層	須恵器	蓋	15.4	-	(0.9)	鍍銀器, 8C前半, C-2				
17	20A	0499C・ 0509A	05SD上層	須恵器	無台杯	15.0	12.6	(3.7)	鍍銀器, 8C前半, C-2				
18	20A	0400X	05SD上層	須恵器	有台杯	-	10.0	(2.6)	鍍銀器, 8C前半, C-2				
19	20A	0400T	05SD上層	須恵器	鉢	12.6	-	(2.9)	鍍銀器, 8C前半, C-2前後				
20	20A	0400T・ 0500E	05SD上層・ 下層	須恵器	壺	-	4.0	(4.2)	鍍銀器				
21	20A	0500E	05SD	須恵器	壺	-	-	(6.3)	鍍銀器, 8C前半				
22	20A	0500E	05SD	須恵器	壺小壺	24.2	-	(1.9)	鍍銀器				
23	20A	0400T	05SD下層	土師器	壺	16.4	-	(3.4)					
24	20A	0500E	05SD上層	土師器	壺	19.6	-	(3.4)	濃尾型壺, 8C				
25	20A	0509A	05SD上層	土師器	壺	16.2	-	(2.6)	濃尾型壺, 8C				
26	20A	0509E	05SD上層	土師器	壺	18.4	-	(3.7)	濃尾型壺, 8C				
27	20A	0509F	05SD・検出	須恵器	壺	-	厚 $\Delta$ 1.0	(19.5)	美濃須恵器	005	-76052.327	-25999.452	16.020
28	20A	0499C・ 0509A	05SD上層	須恵器	壺	-	厚 $\Delta$ 0.8	(9.6)	美濃須恵器				
29	20A	0500E	05SD最下層	土師器	壺	-	-	(5.9)	(加工円盤)	024	-76051.196	-26000.288	15.480
30	20A	0400X	05SD上層	土師器	壺	-	-	(4.0)	(加工円盤)				
31	20A	0499E	05SD	土師器	高杯	-	-	(2.0)	古墳時代前期, 松戸戸1式	012	-76049.666	-25984.215	15.880
32	20A	-	05SD下層	土師器	壺	-	-	(2.2)	濃尾型壺				
33	20A	05060	052SK・ 002SK下層	土師器	壺	-	-	(2.4)	濃尾型壺				
34	20A	05060, M	039SK	土師器	壺	-	-	(4.2)	濃尾型壺				
35	20A	0507A, F .6	046SK・検出	須恵器	有台杯	15.8	10.2	4.4	鍍銀器, 8C前半	002	-76052.107	-25978.790	15.937
36	20A	0507F	046SK	須恵器	有台杯	14.2	11.0	3.1	鍍銀器, 8C前半	002	-76052.107	-25978.790	15.937
37	20A	05060	047SK	山茶碗	碗	-	5.2	(2.2)	尾室型5型式				
38	20A	05060IX	004SX	須恵器	甕	-	11.0	(2.4)	鍍銀器, 8C後半				
39	20A	0507X	検出	須恵器	鉢	28.7	-	(7.5)	鍍銀器, 8C前半				
40	20A	0507L	検出	土師器	甕	19.0	-	(2.7)	伊勢型壺, 7C				
41	20A	0500J	覆乱部割	土師器	壺	-	-	(2.2)	濃尾型壺, 9C				
42	20A	0508L	覆乱部割	灰輪陶器	陶	15.0	-	(3.7)	百代寺				
43	20A	0507H	検出	灰輪陶器	陶	-	7.0	(1.8)	百代寺				
44	20A	05020	検出	山茶碗	碗	-	7.2	(1.5)	尾室型4型式				
45	20A	05020	検出	山茶碗	碗	-	7.0	(1.4)	尾室型4型式				
46	20A	05060	覆乱	山茶碗	小皿	9.8	4.4	(1.7)	尾室型5型式後半				
47	20A	-	006SX上層	磨輪陶器	灰輪鉢	30.4	-	(4.3)	江戸, 美濃				
48	20A	-	006SX	磨輪陶器	灰輪小碗	7.6	-	(3.7)	18世紀				
49	20A	-	006SX上層	磨輪陶器	志野皿	-	6.4	(1.2)	17世紀				
50	20B	0504B	148SD	土師器	台付甕	(18.0)	-	(3.0)	S字状口縁台付甕 (A類)				
51	20B	0504B	148SD	土師器	台付甕	-	-	(1.4)	S字状口縁台付甕 (B類古段層)				
52	20B	0504B	148SD, 193SD	土師器	台付甕	-	-	(2.2)	S字状口縁台付甕 (B類古段層)				
53	20B	0504K	193SP	土師器	台付甕	(12.9)	-	(3.5)	S字状口縁台付甕 (B類古段層)				
54	20B	0504K, M	148SD	土師器	台付甕	-	-	(1.9)	古墳時代前期				

表 13 遺物一覧表 (2)

番号	区	ブリアッド	遺構	遺物	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	備考	取上 No.	(X)	(Y)	(Z)
55	20B	0504B	148SD	土師器	高杯	-	-	(5.2)	古墳時代前期				
56	20B	0504B,F ,G,I,W	148SD・3R F	土師器	高杯	17.6	-	(7.9)	松戸戸式	089	-76054.650	-26047.341	14.818
57	20B	0504P	193SD	土師器	甕	-	5.5	(2.0)	(加工片)古墳時代前期	091	-76056.065	-26048.588	14.909
58	20B	0504G	193SD	土師器	甕	-	3.5	(3.1)	古墳時代前期	094	-76053.640	-26047.169	14.651
59	20B	0504B	193SD	土師器	甕	-	-	(7.5)	(穿孔片)古墳時代前期				
60	20B	0504G	148SD	須恵器	有台杯	(18.2)	-	(3.7)	埴投窯,8C				
61	20B	0504L	148SD	須恵器	無台杯	-	6.0	(2.3)	美濃須恵窯,8C前半	087	-76054.651	-26047.714	15.076
62	20B	0504B	148SD・ 090SU	須恵器	高甕	-	-	(3.1)	美濃須恵窯?,8C後半	074 090	-76051.046 -76050.977	-26048.337	15.461 14.888
63	20B	0504B,G	148SD	須恵器	甕	(29.6)	-	(6.0)	埴投窯,1-41c				
64	20B	0504K	148SD	須恵器	甕	-	-	(7.5)	埴投窯,1-41c				
65	20B	0504L	148SD	土師器	甕	(14.6)	-	(2.4)	9C				
66	20B	0504L	148SD	土師器	甕	20.6	-	(4.9)	遺尾型甕,9C				
67	20B	0504L	203SX	土師器	高杯	-	-	(3.1)	古墳時代前期				
68	20B	0505G	074SD底面	土師器	甕	-	-	(2.2)	S字状口縁台付甕 (市原古墳端)				
69	20B	0505L	074SD底面	土師器	高杯	-	10.8	(5.1)					
70	20B	0505G	074SD底面	須恵器	高杯	-	10.4	(3.9)	埴投窯				
71	20B	0505M	074SD底面	施釉陶器	鉄軸擦鉢	-	13.2	(3.4)	(加工片)江戸	040	-76054.495	-26055.644	15.735
72	20B	0505C	074SD底面	須恵器	杯	長4.0	-	短3.2	厚0.4 (加工円盤)				
73	20B	0505G	074SD底面	施釉陶器	鉄軸擦鉢	長2.8	-	短2.4	厚1.4 (加工円盤) 江戸				
74	20B	05060	074SD	施釉陶器	鉄軸鉢	長3.4	-	短2.4	厚1.2 (加工円盤)				
75	20B	0504CH	集石遺構< ルト3	須恵器	有台杯	14.0	-	(3.0)	埴投窯				
76	20B	0504A,B ,F,G	集石遺構 内・167SD	須恵器	有台杯	-	11.1	(1.1)	埴投窯,8C前半	080	-76051.979	-26049.383	15.764
77	20B	0504A	集石遺構内 下層	須恵器	有台杯	-	(10.8)	(3.1)	美濃須恵窯	084	-76051.969	-26048.687	15.510
78	20B	0504B	集石遺構内	灰釉陶器	碗	-	7.2	(1.9)	埴投窯,K-90	071	-76051.204	-26047.788	15.542
79	20B	0504B,G	集石遺構内 上層	灰釉陶器	碗	-	6.4	(3.3)	埴投窯,0-53	070	-76051.992	-26047.743	15.503
80	20B	0504A,B	集石遺構内 上層	灰釉陶器	深碗	-	6.4	(3.2)	0-53以降	076	-76051.904	-26048.293	15.796
81	20B	0504C	集石遺構内	灰釉陶器	碗	-	8.0	(3.1)		061	-76050.938	-26045.448	15.415
82	20B	0504A,F	集石遺構内 中層	須恵器	長頸瓶	-	-	(7.8)	埴投窯,8C後半	082	-76051.814	-26048.372	15.572
83	20B	0504A,B ,F	090SU集石遺 構	須恵器	平瓶	12.0	-	(12.6)	埴投窯,8C後半				
84	20B	0504B,G	集石遺構内	須恵器	平瓶	-	-	(3.2)	埴投窯,8C後半	062	-76052.337	-26046.210	15.696
85	20B	0504B	集石遺構内	灰釉陶器	長頸瓶	-	25.4	(8.9)		069	-76051.805	-26047.246	15.683
86	20B	0504B,G	092SU集石遺 構	山菜碗	碗	16.4	8.2	5.4	3型式	079	-76052.457	-26046.838	15.609
87	20B	0504B	集石遺構内 上層	山菜碗	碗	-	7.6	(2.6)	3型式	072	-76051.289	-26047.838	15.548
88	20B	0504B	集石遺構内 中層	山菜碗	碗	-	7.7	(3.8)	3型式	083	-76051.988	-26047.933	15.553
89	20B	0504B	集石遺構内 上層	山菜碗	碗	-	7.6	(2.4)	3型式	067	-76051.641	-26046.936	15.642
90	20B	0504A	集石遺構内	山菜碗	碗	-	6.8	(3.3)	3型式	077	-76051.677	-26048.971	15.793
91	20B	0504CH	集石遺構< ルト3	山菜碗	碗	-	5.6	(2.8)	東濃型3型式後半,窯跡1				
92	20B	0504BG	集石遺構< ルト2	山菜碗	碗	13.2	4.4	4.8	東濃型10型式,大須東				
93	20B	0503F	115SX(SD)	須恵器	有台杯	-	12.0	(2.0)	埴投窯,8C後半	053	-76053.554	-26038.501	15.827
94	20B	0503L	115SX(SD)	山菜碗	碗	-	7.2	(3.3)	4型式	045	-76054.289	-26036.784	15.841
95	20B	0503G	115SX(SD)	山菜碗	碗	-	3.8	(2.7)	尾車型5型式前半	048	-76053.761	-26037.292	15.887
96	20B	0503F,G 504H	115SX(SD)	山菜碗	碗	-	6.9	(3.7)	東濃型5型式前半	054	-76053.934	-26038.260	15.879
97	20B	0503F	115SX(SD)	山菜碗	小碗	-	4.6	(1.6)	4型式	054	-76053.761	-26038.990	15.863
98	20B	0503F	115SX(SD)	山菜碗	小皿	8.4	4.4	2.0	東濃型5型式前半	052	-76053.821	-26038.346	15.876
99	20B	0504G	115SX(SD)	山菜碗	小皿	8.6	5.4	2.1	尾車型5型式				
100	20B	0503FCH L	115SX(SD)	施釉陶器	灰釉片鉢	(16.0)	-	(2.6)	古瀬戸				
101	20B	0503K	115SX(SD)	須恵器	甕	-	-	(2.5)	(加工円盤)	060	-76054.181	-26038.944	15.786
102	20B	0503FCH L	115SX(SD)	山菜碗	碗	-	-	(1.8)	(加工円盤)				

表 14 遺物一覧表 (3)

番 号	区 グッド	遺構	遺物	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	備 考	取上 No.	(X)	(Y)	(Z)	
103	20B	0503PGK L	116SX(SD)	山茶碗	片口鉢	-	-	(2.6)	(加工円盤)				
104	20B	0503L	116SX(SD)	山茶碗	碗	-	(5.6)	(1.8)	(加工片) 東濃型5型式後半	044	-76054.424	-26036.701	15.803
105	20B	0504J	116SX(SD)	灰輪陶器	碗	-	7.4	(2.6)	東濃型5型式前半	059	-76053.604	-26040.336	15.807
106	20B	0504P	162SK	須志器	甕	-	-	(3.1)	兼投筥, 1-415+				
107	20B	05050	187SP	灰輪陶器	碗	(13.0)	-	(4.6)	東濃				
108	20B	05050	187SP	灰輪陶器	皿	(12.4)	(5.1)	2.2	東濃, 大抵2 (9-53併行)				
109	20B	0504P	192SK	灰輪陶器	碗	-	(7.6)	(2.2)	東濃, 灰輪終末期				
110	20B	0505CH	151SK	須志器	有台杯	-	(9.8)	(2.7)	兼投筥, 8C前半				
111	20B	0505C, H	151SK	山茶碗	碗	-	8.8	(1.5)	4型式				
112	20B	0505C, H	151SK	山茶碗	碗	-	7.6	(1.5)	4型式				
113	20B	0505C, H	151SK	山茶碗	碗	-	7.3	(1.4)	東濃型5型式				
114	20B	0505CH	151SK	須志器	瓶類	-	5.2	(2.1)	(加工片)				
115	20B	0505CH	151SK	須志器	甕	-	-	(7.1)	7C				
116	20B	0505CH	151SK	山茶碗	片口鉢	-	(13.8)	(3.8)	(加工片)				
117	20B	0505CH	151SK	灰輪陶器	鉢	-	(15.6)	(2.5)	(加工円盤) 江戸後期				
118	20B	0505I	136SX	須志器	甕	-	10.0	(5.9)					
119	20B	0505I	136SX	山茶碗	碗	-	8.0	2.1	(加工円盤) 4型式				
120	20B	0505I	136SX	山茶碗	碗	-	7.0	2.1	4型式				
121	20B	0505I	136SX	山茶碗	碗	-	7.0	(2.5)	尾根型5型式				
122	20B	0505I	136SX	山茶碗	碗	-	(6.0)	1.7	東濃型5型式, 丸石3				
123	20B	0505I	136SX	灰輪陶器	鉄輪播鉢	長3.0	厚1.0	(加工円盤)					
124	20B	0505I	136-1SD	山茶碗	山茶碗	-	(6.6)	(2.2)	(加工円盤)				
125	20B	0505D	137SK	須志器	甕	(16.0)	-	(2.7)	美濃須志窯				
126	20B	0505D	137SK	須志器	杯	-	12.0	(2.1)	(加工円盤) 兼投筥				
127	20B	0505D	137SK	山茶碗	碗	-	7.0	(2.8)	東濃型5型式				
128	20B	0505D	137SK	山茶碗	碗	-	7.0	(2.6)	東濃型5型式				
129	20B	0505D	137SK	山茶碗	碗	-	7.4	(2.5)	東濃型5型式				
130	20B	0505D	137SK	灰輪陶器	鉄輪皿	-	5.4	(1.3)	江戸				
131	20B	0505D	137SK	瓦	瓦	長4.4	厚0.8	(加工片)					
132	20B	0505D	137SK	須志器	甕	長4.5	厚0.9	(加工片) 7C					
133	20B	0505D	137SK	灰輪陶器	鉄輪播鉢	-	-	厚1.0	(加工円盤) 江戸				
134	20B	0505D	137SK	須志器	甕	-	-	厚1.8	(加工片)				
135	20B	05050	138SK	磁器	青磁碗	-	-	(2.4)	中国, 龍泉窯				
136	20B	0505JHO	138SK	山茶碗	小碗	-	(5.0)	(1.5)	(加工円盤) 4型式				
137	20B	0505HI	143SP	山茶碗	碗	-	-	(1.5)	(加工円盤)				
138	20B	0505HI	143SP	灰輪陶器	碗	長2.4	厚0.4	(加工円盤) 江戸					
139	20B	05050	205SP	山茶碗	碗	-	-	(1.3)	(加工円盤)				
140	20B	0504K	-	土師器	赤彩甕	10.0	-	(3.8)	瀬田11式	042	-76054.075	-26049.227	15.430
141	20B	05050	包含層別削	土師器	高杯	16.0	-	(3.4)	古墳時代前期				
142	20B	0506(10 nグリップ F)	包含層	土師器	高杯	-	-	(3.0)	瀬田11式				
143	20B	0504P	輸出	土師器	器台	-	-	(4.8)	古墳時代前期				
144	20B	0503(10 nグリップ F)	包含層	土師器	台付甕	14.2	-	(1.5)	S字状口縁台付甕 (B類古)				
145	20B	0504F	包含層	土師器	台付甕	13.4	-	(2.7)	S字状口縁台付甕 (A類)				
146	20B	0503(10 nグリップ F)	包含層	土師器	台付甕	-	-	(2.4)	S字状口縁台付甕 (C類)				
147	20B	0504WR	包含層	土師器	市路口縁甕	13.4	-	(3.2)	古墳時代前期, 北陸系				
148	20B	0503F	輸出	須志器	甕類	-	-	(1.4)	兼投筥				
148	20B	0504C	包含層	須志器	高杯	-	-	(1.9)	(加工円盤) 美濃須志窯				
149	20B	0503P	南壁トレン チ	須志器	甕小甕	16.0	-	(4.9)	兼投筥, 8C前半				
150	20B	0504AF	トレンチ	須志器	甕	7.6	-	(1.9)	兼投筥, 7C後半				
152	20B	0504P	輸出	須志器	甕	-	-	(9.1)	兼投筥				
153	20B	0503(10 nグリップ F)	包含層	須志器	長頸瓶	7.0	-	(9.5)	兼投筥, 0-10				
154	20B	0504F	包含層	須志器	短頸甕	13.0	-	(3.0)	兼投筥, 8C				
155	20B	0504CH	集石遺構-ベ ルト3	須志器	甕	-	15.4	(4.4)	兼投筥, 8C				
156	20B	0404(10 nグリップ F)	北壁	灰輪陶器	甕	-	17.6	(3.3)	兼投筥				
157	20B	05040	包含層	灰輪陶器	瓦塔	-	-	(1.3)	兼投筥				

表15 遺物一覧表(4)

番 号	区 画	グラッド	遺構	遺物	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	備考	出土 No.	(X)	(Y)	(Z)
158	208	0504(10 wグリップ ク)	包含層	灰釉陶器	椀	-	7.6	(2.5)	鏡投窯, 0-53				
159	208	0504KP	包含層	灰釉陶器	椀	-	7.0	(4.4)	鏡投窯, 0-53				
160	208	0403Y	北壁トレン チ	灰釉陶器	椀	-	7.6	(2.2)	鏡投窯, H-72				
161	208	0504(10 wグリップ ク)	表土層南	山菜碗	碗	-	7.4	(3.0)	百代寺				
162	208	0505I	覆瓦	灰釉陶器	皿	-	5.4	(2.25)	鏡投窯, K-90				
163	208	0504(10 wグリップ ク)	南壁断面 No. 74層	灰釉陶器	皿	12.2	6.6	2.6	鏡投窯, H-72				
164	208	0505(10 wグリップ ク)	南壁トレン チ	灰釉陶器	皿	-	4.8	(2.2)	東濃, 大形2 (0-53併行)				
165	208	0504L	包含層	土師器	鍋	12.4	-	(4.0)					
166	208	0504(10 wグリップ ク)	南壁断面 No. 77層	土師器	鍋	19.0	-	(4.3)	清部型鍋				
167	208	0504(10 wグリップ ク)	南壁トレン チ	土師器	鍋	21.6	-	(4.9)	清部型鍋				
168	208	0404(10 wグリップ ク)	北壁	土師器	鍋	24.2	-	(3.6)	清部型鍋				
169	208	0403V	検出	山菜碗	碗	-	6.0	(3.0)	4型式				
170	208	0504X	包含層	山菜碗	碗	-	5.8	(1.8)	4型式				
171	208	0505T	検出	山菜碗	碗	-	8.0	(2.2)	4型式				
172	208	0504Q	包含層	山菜碗	碗	-	7.2	(2.0)	4型式				
173	208	0502M	包含層	山菜碗	碗	-	6.4	(2.2)	尾張型5型式				
174	208	-	表採	山菜碗	碗	14.2	-	(4.0)	東濃型5型式後半				
175	208	0504(10 wグリップ ク)	南壁清掃	山菜碗	碗	-	5.2	(3.2)	東濃型6型式 (白土原I)				
176	208	0403V	検出	山菜碗	小皿	8.2	4.4	1.7	東濃型5型式				
177	208	0503(10 wグリップ ク)	包含層	山菜碗	小皿	8.0	5.8	1.6	東濃型6型式				
178	208	0504M	包含層	山菜碗	小皿	8.2	5.2	1.5	東濃型7型式				
179	208	0504X	包含層	山菜碗	小皿	7.6	5.2	1.1	東濃型 (大前東I)				
180	208	0505T	検出	山菜碗	碗	-	-	(1.35)	(加工内職)				
181	208	0505B	北壁トレン チ	山菜碗	小型碗	-	5.0	(2.4)	(加工片) 東濃型5型式後半				
182	21ab	0509V	106SK	土師器	広口壺	12.6	8.1	22.2	古墳時代前期	048	-76058, 525	-26087, 362	16, 147
183	21ab	0509V	106SK	土師器	台付壺	11.9	-	(5.7)	S字状口縁台付壺 (B類古)	048	-76058, 525	-26087, 362	16, 147
184	21ab	0509H	173SK	土師器	台付壺	14.0	-	(2.3)	S字状口縁台付壺 (A類)				
185	22	調査セン ター立合 路路下 範囲	民地西側通	土師器	広口壺				古墳時代前期				
186	21ab	0510T	147SI	土師器	高杯	18.9	-	(3.2)	古墳時代前期	095	-76056, 943	-26101, 643	16, 406
187	21ab	0510S	147SI	土師器	甕	-	-	(15.2)	濃尾型甕	112	-76057, 071	-26102, 326	16, 434
										113	-76057, 029	-26102, 352	16, 419
										142	-76056, 79	-26102, 783	16, 405
188	21ab	0510S	157SK	土師器	甕	17.0	-	(6.6)	濃尾型甕	110	-76056, 158	-26103, 004	16, 414
										117	-76056, 132	-26102, 926	16, 314
										118	-76056, 23	-26102, 89	16, 361
189	21aa	0512N	015SK	須恵器	無台杯	11.8	-	(4.3)	鏡投窯, 8C後半	001	-76054, 955	-26123, 492	16, 231
190	21aa	0511X, Y	042SK・南壁 トレンチ	須恵器	無台杯	10.0	4.2	7.6	緑丸, 鏡投窯, 8C前半	033	-76058, 047	-26112, 302	16, 31
191	21aa	0510U	036SK	須恵器	高杯	-	-	(4.3)	鏡投窯	042	-76059, 208	-26114, 539	16, 316
192	21aa	0510V	036SK	須恵器	無台杯	10.8	8.4	4.4	緑丸, 鏡投窯, 8C前半, C-2	032	-76058, 354	-26108, 215	16, 371
										041	-76059, 049	-26107, 711	16, 335
										044	-76059, 068	-26107, 723	16, 303
										045	-76059, 05	-26107, 297	16, 284
193	21aa	0511H	043SK	須恵器	高杯	11.2	-	(2.9)	美濃須恵器, 7C	029	-76058, 975	-26114, 627	16, 251
194	21aa	0511X	051SK	須恵器	無台杯	11.0	7.6	4.0	鏡投窯, 7C後半	038	-76058, 629	-26112, 54	16, 018
195	21aa	0512H	052SK	須恵器	蓋	(13.8)	-	(1.7)	鏡投窯, 1-17	022	-76058, 84	-26124, 067	16, 275
196	21aa	0512Q	083SK	須恵器	無台杯	11.0	7.6	3.0	鏡投窯, 8C前半, C-2	040	-76055, 018	-26120, 131	16, 192
197	21aa	0510U	079SK	山菜碗	碗	15.2	-	(4.8)	尾張型5型式				

表 16 遺物一覧表 (5)

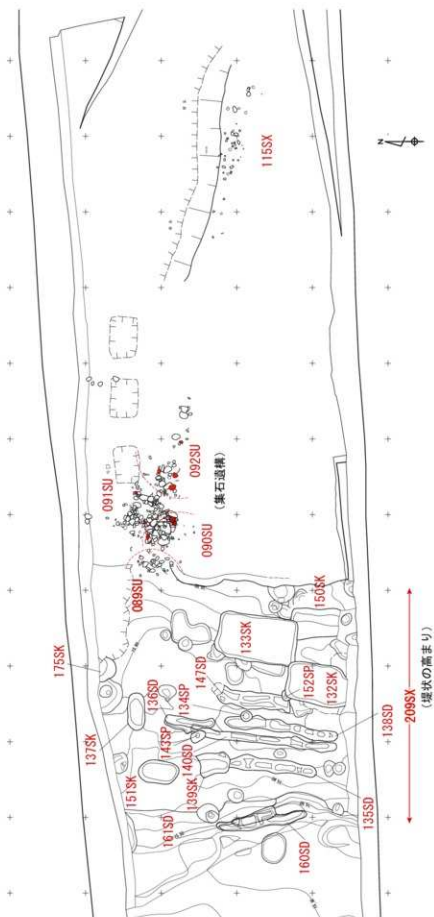
番 号	区 域	グラッド	遺構	遺物	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	備 考	取上 No.	(X)	(Y)	(Z)
198	21a	0508P	101SD	山茶碗	碗	14.8	-	3.1	尾張型7型式				
199	21a	0508P	101SD	山茶碗	碗	-	7.4	(2.1)	尾張型6型式				
200	21a	0508P	101SD	灰釉陶器	椀	-	-	(3.0)					
301	21a	0509M	0999K	陶軸陶器	灰輪盤類	-	-	(2.5)	古瀬戸				
202	21a	-	1595K	山茶碗	小皿	8.0	4.8	3.0	尾張型5型式	115	-76053.634	-20094.597	16.452
203	21a	0509L	1675K	土師器	高杯	11.1	-	(2.9)	古墳時代前期				
204	21a	-	1675K	青磁	碗	-	5.3	(3.9)	中国	127	-76055.017	-20095.738	16.514
205	21a	0511Y	南壁トレン チ	須恵器	無台杯	12.2	-	(3.7)	築設部, 7C				
206	21a	-	包含層	土師器	皿	8.4	-	1.7	(非ロクロ)				
207	21a	-	包含層	灰釉陶器	椀	-	7.7	(3.7)	築設部, 0-53				
208	21a	-	包含層	山茶碗	碗	-	6.0	(4.0)	東濃型5型式				
209	21a	-	表採	陶軸陶器	鉄輪盤類	26.8	-	(6.0)	江戸後期				
210	21a	0509R	-	土師器	壺	-	-	厚 $\phi$ 0.8		050	-76057.603	-20087.067	16.213
211	21a	-	表土層南	山茶碗	小皿	-	4.2	(1.0)					
212	21a	0512N	020SD	山茶碗	碗	13.7	5.5	5.7	東濃型5型式	011	-76055.817	-20122.278	16.34
213	21a	0512O	020SD	山茶碗	碗	-	6.0	(3.8)	東濃型5型式前半	006	-76055.351	-20130.185	16.447
214	21a	0511K	020SD	山茶碗	碗	-	6.9	(3.5)	東濃型5型式前半	031	-76055.065	-20119.719	16.337
215	21a	0512O	020SD	山茶碗	碗	-	7.2	(3.5)	尾張型6型式	009	-76055.905	-20121.664	16.323
216	21a	0512O	020SD	山茶碗	碗	-	7.4	(3.6)	尾張型6型式				
217	21a	0512O	020SD	山茶碗	碗	-	6.8	(1.6)	尾張型7型式	039	-76055.828	-20121.011	16.325
218	21a	0512O	020SD	土師器	皿	11.6	-	2.5	(非ロクロ)	007	-76055.642	-20120.665	16.45
219	21a	0512O	020SD	土師器	鍋	-	-	(3.0)	清部窯跡	010	-76055.234	-20121.733	16.327
220	21a	0512O	020SD	山茶碗	片口鉢	-	15.6	(8.7)	内面に厚く降灰	008	-76055.578	-20121.15	16.409
221	21a	0512N	020SD	山茶碗	片口鉢	24.6	11.4	11.7		014	-76055.898	-20123.384	16.182
										015	-76055.841	-20123.183	16.196
										016	-76055.662	-20122.845	16.324
										017	-76055.754	-20122.87	16.334
										018	-76055.814	-20122.938	16.296
										019	-76055.676	-20122.941	16.267
222	21a	0511L	026SD	山茶碗	碗	14.8	6.0	5.4	尾張型5型式後半	002	-76054.961	-20116.92	16.465
223	21a	0511L	026SD	山茶碗	碗	14.5	-	(4.6)	尾張型5型式前半	004	-76054.68	-20116.577	16.459
224	21a	0511L	026SD	山茶碗	小皿	8.4	5.6	2.4	尾張型5型式後半	003	-76054.614	-20116.753	16.45
225	21a	0511X	026SD	山茶碗	小皿	7.7	-	1.8	尾張型5型式前半	005	-76054.118	-20113.703	16.445
226	21a	0510P	029SD	須恵器	蓋	-	-	(1.9)	築設部, C-2以下				
227	21a	0510P	029SD	土師器	縄把手	-	-	3.3		026	-76053.369	-20109.781	16.434
228	21a	0510P	029SD	土師器	碗	16.8	3.7	5.8	東濃型5型式前半				
229	21a	0511J	029SD	山茶碗	碗	14.9	7.4	4.6	尾張型5型式前半	013	-76053.962	-20111.771	16.411
230	21a	0511J	029SD	山茶碗	小皿	7.6	4.7	1.9	尾張型6型式	025	-76053.47	-20111.291	16.38
231	21a	0509L	130SD	山茶碗	碗	16.6	8.4	5.7	4型式	103	-76055.995	-20096.226	16.427
232	21a	0509K	130SD	山茶碗	碗	16.3	-	(4.8)	4型式	079	-76054.788	-20098.411	16.431
233	21a	0509K	130SD	山茶碗	碗	14.7	-	(4.2)	4型式	076	-76054.19	-20098.902	16.406
234	21a	0509K	130SD + 1653X	山茶碗	碗	14.8	6.8	5.6	東濃型5型式後半	078	-76054.615	-20098.511	16.311
										126	-76054.964	-20097.775	16.396
235	21a	0510J	130SD + 1663X	山茶碗	碗	14.3	5.6	5.8	東濃型, 明和1	075	-76053.474	-20101.108	16.418
236	21a	0509L, M	130SD	山茶碗	碗	-	6.0	(4.2)	高台内型蓋, 東濃型5型式後半	104	-76055.444	-20096.538	16.523
237	21a	0509L	130SD	山茶碗	碗	-	7.4	(1.6)	尾張型6型式	051	-76055.389	-20097.273	16.591
238	21a	0510J	130SD	山茶碗	碗	-	7.7	(1.9)	東濃型6型式	054	-76052.788	-20101.535	16.551
239	21a	0510J	130SD	山茶碗	碗	-	5.4	(3.0)	東濃型6型式	053	-76053.602	-20101.484	16.548
240	21a	0509F	130SD	山茶碗	碗	12.0	-	(5.3)	東濃型6型式	067	-76053.842	-20099.56	16.563
241	21a	0509F	130SD	山茶碗	小皿	8.0	4.9	2.4	尾張型5型式	065	-76053.903	-20099.283	16.568
242	21a	0509K, L	130SD	山茶碗	小皿	8.4	5.5	1.9	尾張型6型式	081	-76054.432	-20098.145	16.442
243	21a	0509L	130SD	山茶碗	小皿	7.7	4.8	1.5	尾張型6型式	060	-76055.06	-20097.973	16.567
244	21a	0509L	130SD	山茶碗	小皿	8.0	5.1	1.5	尾張型6型式	055	-76055.776	-20096.183	16.54
245	21a	0509L	130SD	山茶碗	小皿	8.4	-	2.0	尾張型7型式				
246	21a	0509L	130SD	山茶碗	小皿	9.0	5.1	2.1	東濃型5型式後半	059	-76054.813	-20097.787	16.462
247	21a	0509K	130SD	山茶碗	小皿	9.2	4.9	2.6	東濃型6型式	077	-76054.45	-20098.841	16.391
248	21a	0509L	130SD	土師器	鍋	26.0	-	(3.7)	炭化物付着, 伊勢型鍋	058	-76055.323	-20097.624	16.415
249	21a	0509M	130SD	青磁	碗	-	4.9	(2.5)	中国, 龍泉窯				
250	21a	0509M	130SD	須恵器	皿	-	-	2.15	築設部, 1-41~C-2				
251	21a	0509L	130SD	山茶碗	碗	長さ2.2	幅2.2	厚 $\phi$ 0.7	(加工内蔵)				
252	21a	0510X	14745I	土師器	甕	-	-	-	付着炭化物分析試料	083	-76058.303	-20102.549	16.452



表 17 遺物一覧表 (6)

番号	区	グラッド	遺構	遺物	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	備考	取上 No.	(X)	(Y)	(Z)
N-1	20B	0504J	11SSX(SD)	瀬川河津遺跡	埴型洋	長径6.2	短径7.0	厚み3.4		043	-76059.119	-26109.513	16.443
N-2	21Ab	(A群外)		瀬川河津遺跡	埴型洋	長径7.2	短径5.9	厚み3.3					
N-3	20A	0599F	054SD下層		金属製品								
N-4	20A	0469F	054SD上層		金属製品								
N-5	20A	0075X			銭貨								
番号	区	グラッド	遺構	石材	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	備考	取上 No.	(X)	(Y)	(Z)
S-1	20B	0506L	0695K	石器	安山岩	18.0	6.8	5.5	995.0	赤色付着物			
S-2	20B	0503PG L	11SSX(SD)	石器	下呂石	5.8	7.0	4.5	391.0				
S-3	20B	0505I	136-1SD	石器	濃海段段田	8.2	7.0	4.5	413.2	被熱痕跡			
S-4	20B	0505I	136-1SD	石器	濃海段段田	12.4	11.3	9.5	1848.9	被熱痕跡			
S-5	20B	0504BF G	091SU	石器	チャート	9.8	7.6	7.5	835.2				
S-6	20B	0504CH	集石遺構トレン チ東	石器	ホルンフェルス	13.4	6.3	2.6	316.2				
S-7	20B	0505D	137SK	石器	安山岩	12.2	10.6	5.5	1137.2				
S-8	20B	0505D	137SK	石器	濃海段段田	10.3	7.8	4.3	445.2				
S-9	20B	0505D	137SK	石器	濃海段段田	8.5	6.1	4.8	348.2				
S-10	21Ab	0509K	130SD	砥石	伊賀段段田	5.2	6.2	4.8	137.9		074		

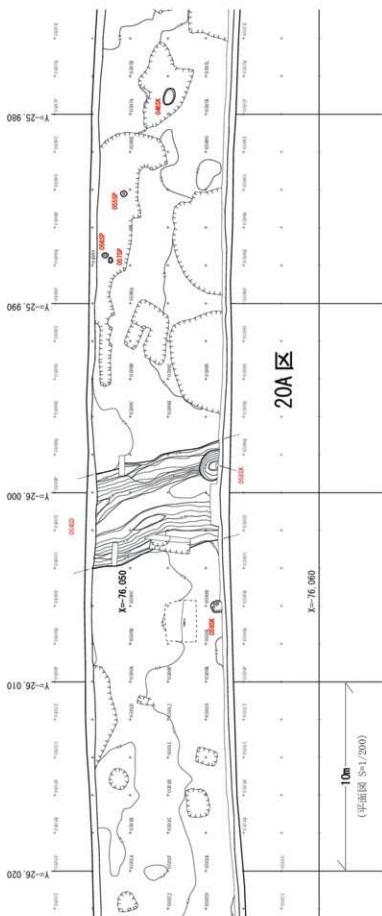
基本平面図-1 (20B区上面遺構)



基本平面図 1 2



基本平面図 1-3



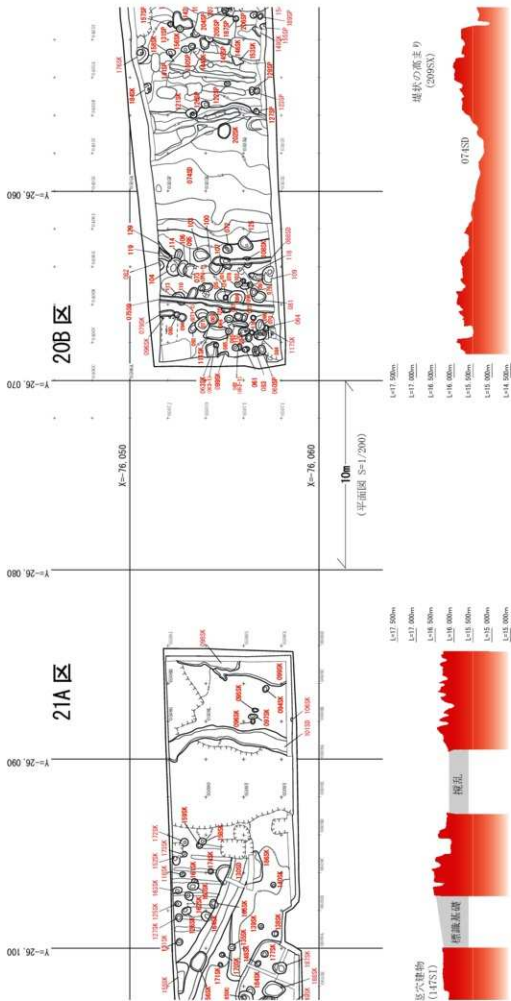
削平された自然堤防の範囲

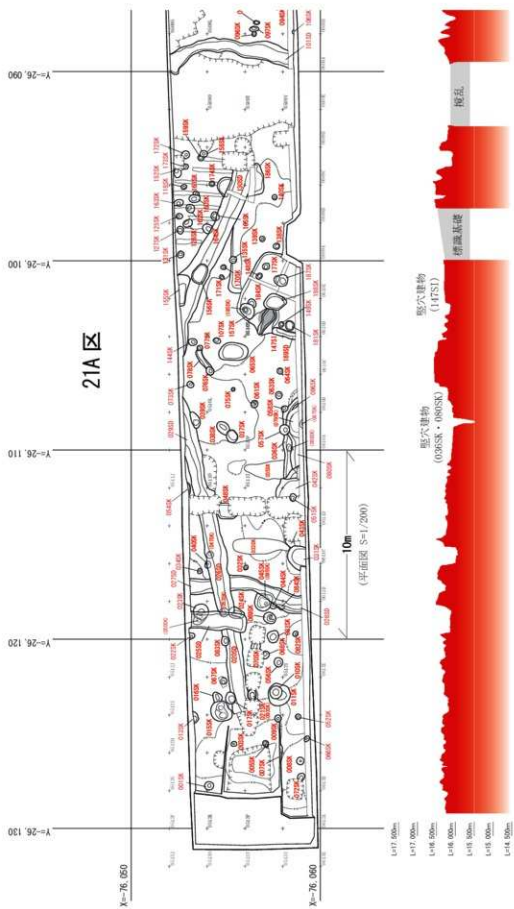
054SD

基本平面図 1-4



基本平面図 1-5





基本平面図 1-6



遺跡遠景空撮写真

- 1- 北西から小牧山方面を望む / 2- 北東から小折集落を望む / 3- 東から一宮市方面を望む  
4- 南東から布袋駅方面を望む / 5- 南西から柳街道・犬山方面を望む





20A区全景（西から撮影 調査区よりさらに前方に五条川、その対岸が白木遺跡）



20B区全景（西から撮影 写真奥が20A区）



20A区

1-20A区 054SD 完掘状況(北西から) / 2-20A区 054SD (南東から 写真奥の木々が富士塚古墳) / 3-20A区 055SP 遺物出土状況 (E-31) / 4-20A区 046SK 遺物出土状況 (E-35,36) / 5-20A区 東端付近完掘状況



20B区集石遺構

6-090 ~ 091SU (西から) / 7-093SU 検出状況とトレンチ (北から) / 8-090SU とベルト断面 (北西から)





## 208区

1- 完掘状況全景(北西から) / 2- 西端部南壁断面(北から) / 3- 西端部土坑群検出状況(北西から) / 4- 土手状高まり付近(北から) / 5- 土手状高まり付近検出状況(北から)



208 区

1- 完掘状況全景(東から) /2-194SP(南東から) /3-187SP(西から) /4-158SK(南西から) /5-136SDSP(北から) /6-148SD 付近(北から) /7- 南壁旧流路部分(北から) /8- 全景(きたから)





21Aa区全景 空撮写真(西から撮影 写真奥盛土範囲が21Ab区, その先が五条川)



21Ab区全景 空撮写真(東から撮影 写真奥盛土範囲が21Aa区)



21Ab 区竪穴建物 (147SI)

1- 完掘状況 / 2- カマド跡断面 / 3- 検出状況  
4- 床面遺物出土状況 / 5- 柱穴完掘状況 / 6-  
ペルトと 187SK 断面



21A 区全景 空撮写真合成 (写真上が北)



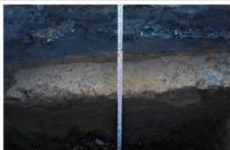
21A区

1-21Aa区検出状況(西から) / 2-21Ab区古墳時代土師器壺(E-182)検出状況 / 3-同遺構下部、遺物出土状況 / 4-21Aa区015SK断面(南から) / 5-21Aa区023SK断面(西から) / 6-21Aa区050SK断面(東から) / 7-21Aa区010SK・011SK断面(東から) / 8-21Aa区045SK・085SK断面(南東から) / 9-21Ab区152SK(中世)断面(南東から) / 10-21Aa区020SD遺物出土状況(西から) / 11-21Aa区020SD断面





1-21Aa 区 036SK・080SK 断面 (南壁) / 2- 同南北ベルト断面  
 /3-036SK 出土須恵器 (E-192) /  
 4-21Ab 区 130SD 遺物出土状況 (南東から) /5-21Ab 区北東部  
 ビット集中範囲 /6-21Ab 区 158SK・159SK 断面 (南から)



21B 区断面 (西壁)  
 砂礫層の上に黄褐色砂質土層が堆積  
 調査区としては最も五条川に近い





157



20B 区上層 集石遺構 (089 ~ 092SU) 範囲の出土遺物





218区 溝(020SD) 出土遺物

### 第3章 白木遺跡

#### 1 既往の調査

##### 圃場整備

白木遺跡は昭和47年2月、圃場整備に伴う緊急発掘調査が実施され、古墳時代から奈良時代の竪穴建物2棟、溝等が検出された。特筆される遺物として、「人」を刻書した須恵器がある。ただ、調査の写真や図面等の記録類はほとんど残されていないので、詳細は不明である。

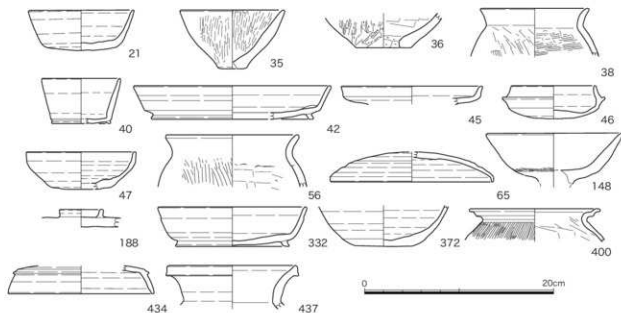
現在、白木遺跡から出土した遺物として、弥生時代中期後葉の弥生土器、古墳時代前期初頭の土師器、古墳時代後期から奈良時代の土師器と須恵器、平安時代の灰釉陶器、中世から戦国時代の陶器等が報告されているが、他遺跡の出土遺物も混在しているとのことである(同時に収蔵されている遺物を第37図、表18に示す)。

##### 一般国道

令和2年度には同事業に伴い、愛知県一宮建設事務所道路整備課より委託を受けた株式会社パスコが令和2年7月から令和3年2月に1,024㎡の発掘調査を実施した。発掘調査においては、竪穴建物、大型の柱穴列等、飛鳥時代から奈良時代を中心とする遺構・遺物、古墳時代前期初頭の遺物が確認されている。



白木遺跡昭和47年調査の状況(左)と現況(右)



第37図 白木遺跡?出土遺物(大口町歴史民俗資料館所蔵)

表 18 白木遺跡?出土遺物(大口町歴史民俗資料館所蔵)一覽表

番号	出土地	遺物	部種	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	備考	注記等
21	白木遺跡?	須恵器	無文鉢	11.0	7.4	4.3	74, S013 S46, S56	<sup>1</sup> S <sub>1</sub> の日記と調査年月から白木遺跡出土品と推定
35	白木遺跡?	土師器	小形埴	(10.8)	(3.0)	5.3	74, S013 S46, S56	<sup>1</sup> S <sub>1</sub> の日記と調査年月から白木遺跡出土品と推定
36	白木遺跡?	土師器	高脚貯藏		(5.8)	(3.7)	74, S013 S46, S56	<sup>1</sup> S <sub>1</sub> の日記と調査年月から白木遺跡出土品と推定
38	白木遺跡?	土師器	甕	(11.4)	-	(5.1)	74, S013 S46, S56	<sup>1</sup> S <sub>1</sub> の日記と調査年月から白木遺跡出土品と推定
40	白木遺跡?	須恵器	有文鉢	88.2	88.2	4.9	74, S013 S46, S56	<sup>1</sup> S <sub>2</sub> の日記と調査年月から白木遺跡出土品と推定
42	白木遺跡?	須恵器	有文鉢	(40.8)	(17.2)	3.5	74, S013 S46, S56	<sup>1</sup> S <sub>1</sub> の日記と調査年月から白木遺跡出土品と推定
45	白木遺跡?	須恵器	甕	(14.8)	-	(1.8)	74, S013 S46, S56	<sup>1</sup> S <sub>1</sub> の日記と調査年月から白木遺跡出土品と推定
46	白木遺跡?	須恵器	漆杯 杯	89.0	4.3	3.5	74, S013 S46, S56	<sup>1</sup> S <sub>1</sub> の日記と調査年月から白木遺跡出土品と推定
47	白木遺跡?	須恵器	甕	11.6	4.0	(3.8)	74, S013 S46, S56	<sup>1</sup> S <sub>1</sub> の日記と調査年月から白木遺跡出土品と推定
56	白木遺跡?	土師器	甕	(14.0)	-	(5.5)	74, S013 S46, S56	<sup>1</sup> S <sub>1</sub> の日記と調査年月から白木遺跡出土品と推定
65	白木遺跡?	須恵器	甕	(16.4)	-	(2.7)	74, S013 S46, S56	<sup>1</sup> S <sub>1</sub> の日記と調査年月から白木遺跡出土品と推定
148	白木遺跡?	土師器	高杯	14.4	-	(5.4)		複数の出土品が調査か
188	白木遺跡?	須恵器	高?	-	-	(1.8)	増田編み	<sup>1</sup> S <sub>1</sub> , ① (使用時ノ注記)
332	白木遺跡?	須恵器	有文鉢	(15.4)	(12.0)	4.2		S-遺し番号
372	白木遺跡?	須恵器	鉢	-	(8.2)	(4.3)		S-遺し番号
400	白木遺跡?	土師器	S字罐	(13.8)	-	(3.5)	C型	S-遺し番号
434	白木遺跡?	須恵器	漆杯 杯	(15.4)	-	(3.8)		同一個体 (3件)
437	白木遺跡?	須恵器	甕	(13.2)	-	(4.8)		白木遺跡 豊田17 村田氏蔵 豊田17

## 2 調査の概要

**遺跡の西端** 調査区は現五条川に向かって傾斜する地形に相当し、今回の発掘調査で遺跡の西端を確認した。調査区西半は褐色を基調とする包含層状の堆積が確認された。層中の土器は下層が古墳時代前期、上層が古墳時代後期から平安時代の土器を主体とする。

**包含層・遺構** 調査区東端は黒色を基調とする古墳時代前期の包含層が良好に残存する。包含層の上面においては、竈を敷設する奈良時代の堅穴建物等、古代の遺構が検出されている。出土遺物には土師器、須恵器、土錘、鉄製品等がある。

## 3 調査の経過

### (1) 発掘調査

**試掘調査** 今回の発掘調査は道路改良工事(一般国道155号)に伴う事前調査である。事業予定範囲は周知の包蔵地には含まれていなかったが、令和元年6月に愛知県埋蔵文化財調査センターが事業予定範囲を対象とした試掘調査を実施した結果(調査担当者:小坂延仁)、古墳時代前期の遺構・遺物が確認され、国道155号沿いに遺跡が広がる事が明らかとなった。

**本発掘調査** 試掘調査の結果を受け、その同年度には本発掘調査を実施した。発掘調査は令和2年1月に事業者による客土と表土の除去後の2月に着手し、人力による包含層の掘削、遺構検出、遺構掘削を随時進捗させた。遺構掘削の進捗に応じて、平面図、土層断面図等の作成、遺構の写真撮影、調査区的全景撮影、ドローンを使用する遺跡の遠景撮影を実施した。各種の記録完了後の3月には調査区を埋め戻し、発掘調査が完了した。

### (2) 整理作業と報告書作成

**整理作業** 出土遺物の洗浄は発掘調査と併行して実施し、乾燥後、愛知県埋蔵文化財調査センターに仮収納した。その後の遺物整理と報告書作成は愛知県埋蔵文化財センターで令和4年8月から10月にかけて実施した。土器の接合・復元後、実測図作成と写真撮影を実施し、それと併行して報告書の原稿執筆、図版作成を進めた。出土遺物は登録後、愛知県埋蔵文化財調査センターに収納し、令和6年3月に南山町遺跡と併せて報告書を印刷・刊行した。

## 4 基本層序

### 微地形

調査区は現五条川に面した自然堤防（遺跡）の西端に相当し、遺跡を形成する基盤も北東方向から南西方向に向かって傾斜する。その関係で表土直下は調査区の西端が細粒砂から中粒砂層、中央付近が黄褐色から褐色を基調とするシルト・極細粒砂層、東端が黒褐色を基調とするシルト層が堆積する。これらの堆積層は中世から近世、弥生・古墳時代から古代、弥生時代後期から古墳時代前期を主体とする遺物をそれぞれ包含する。遺物は細片化したものが多い。黒褐色シルト層は調査区北東付近から南西に向かって大きく落ち込むことが確認された。その下位は黄褐色を基調とする極細粒砂、さらにその下位は粗粒砂が堆積し、場所によっては蹠層の上面が露出する（第38図）。

### 遺物の包含

発掘調査においては、西端の砂層は表土と同時に重機によって除去し、中央付近の褐色シルト層を人力によって掘削した。古代以前の遺物を包含する同層はやや厚く（層厚40cm前後）、出土遺物については、便宜的に上位（検出1-1）と下位（検出1-2）に分けて取り上げた。掘削後、古代の遺構検出面である黄褐色シルト層を露出させ、すでに黄褐色シルト層下位の黒褐色シルト層が露出していた東端と合わせて古代の遺構面として調査した。

### 包含層

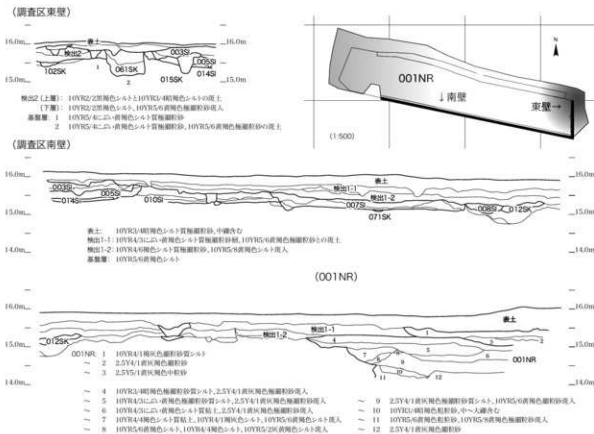
発掘調査においては、西端の砂層は表土と同時に重機によって除去し、中央付近の褐色シルト層を人力によって掘削した。古代以前の遺物を包含する同層はやや厚く（層厚40cm前後）、出土遺物については、便宜的に上位（検出1-1）と下位（検出1-2）に分けて取り上げた。掘削後、古代の遺構検出面である黄褐色シルト層を露出させ、すでに黄褐色シルト層下位の黒褐色シルト層が露出していた東端と合わせて古代の遺構面として調査した。

### 下層

古代の遺構の調査完了後、黒褐色シルトを掘削したが（検出2）、下位の黄褐色シルト層上面と大きく落ち込む状況が確認されるのみで、その下位に確実な遺構、遺物は認められなかった。

### 河川の東岸

古代の遺構検出面とした黄褐色シルト層は調査区西半から現五条川に向かって大きく落ち込み、河川堆積物で埋積される（001NR）。堆積層中には古代の遺物が散在する。



第38図 基本土層断面図

## 5 検出遺構

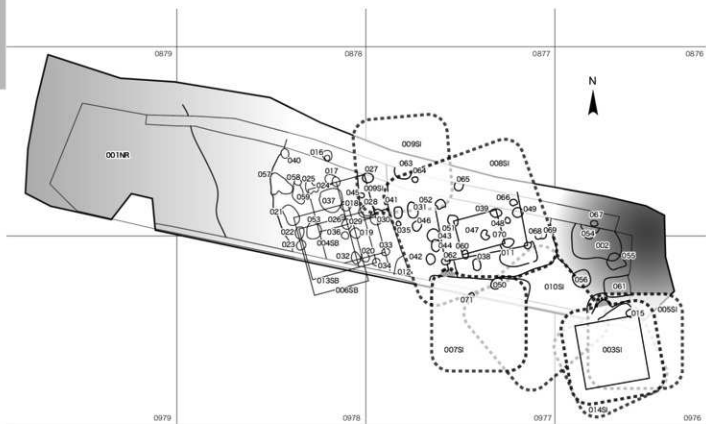
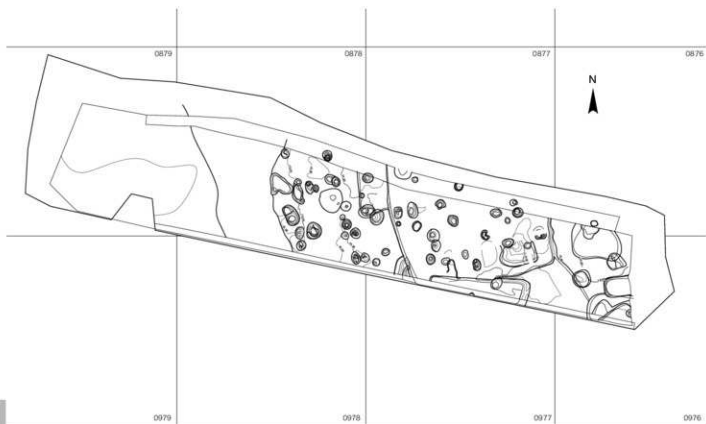
**検出遺構** 今回の発掘調査において、主に古代の竪穴建物群と掘立柱建物群を検出した。竪穴建物群は北西から南東方向の自然堤防の縁辺、掘立柱建物群は竪穴建物群と河川 001NR の中間に同様の方位を志向して分布する。竪穴建物は不確定な遺構を含めて7棟を検出した。掘立柱建物は3棟を復元した。調査区の制約から全形、規模は不明で、復元にもやや難がある。方位はい

**竪穴建物** ずれもN-15°-Wである。その他、中世の方形土坑等の遺構がある(第39図、表19)。

**掘立柱建物**

表19 検出遺構一覧表

遺構名	検出前	グリッド	長径	短径	深さ	層上	備考
001 NR	I	0979 0978	-1.62	-1.41			
002 SS	I	0976 0976	2.60	1.52	0.20	10YR3/4暗褐色シロト質無釉砂	
003 SI	I	0976	-1.31	-1.00	0.17	階	
004 SB	I	0978 0977	-1.10	-0.93	-	階	0174Z44Z5A027.029140004324033403538K
005 SI	I	0976	-2.45	-1.48	0.40	階	
006 SB	I	0978 0977	3.29	-	-	階	01801104203A14.02258K
007 SI	I	0977 0977	5.00	-1.05	0.19	階	
008 SI	I	0977 0977	7.93	-4.76	0.24	階	
009 SI	I	0977 0976	-1.03	-1.45	0.22	10YR4/4褐色シロト質無釉砂, 10YR5/6黄褐色シロト質無釉砂混入	
010 SI	I	0976	-2.72	-2.32	0.28	階	
011 SK	I	0977 0977	1.89	-1.29	0.19	階	00881土坑
012 SK	I	0977	1.25	1.23	0.46	10YR4/2c-1黄褐色無釉砂質シロト	
013 SB	I	0978 0977	3.50	-2.75	-	階	0224Z01A028A0348K
014 SI	I	0976	1.84	-1.13	0.09	10YR4/6褐色シロト質無釉砂, 10YR5/6黄褐色シロト質無釉砂の混入, 焼土を含む	
015 SK	I	0976	0.23	-0.18	0.47	10YR4/4褐色無釉砂質シロト, 10YR5/6黄褐色無釉砂混入, 焼土・炭化物含む	00581土坑
016 SK	I	0978	0.62	0.48	0.49	10YR4/4褐色無釉砂質シロト, 10YR5/6黄褐色シロト混入	
017 SK	I	0978	0.65	0.46	0.25	階	00488階上
018 SK	I	0978	0.57	0.51	0.28	階	00688階上
019 SK	I	0978 0978	0.54	0.52	0.29	階	00688階上
020 SK	I	0977 0976	0.44	0.44	0.16	階	00688階上
021 SK	I	0978	1.14	0.73	0.31	階	00688階上
022 SK	I	0978 0976	0.46	0.40	0.13	階	01388階上
023 SK	I	0978	0.48	0.42	0.19	階	00688階上
024 SK	I	0978	0.29	-0.33	0.41	階	00488階上
025 SK	I	0978	0.49	0.48	0.17	10YR4/4褐色無釉砂質シロト, 10YR5/6黄褐色無釉砂混入	00488階上
026 SK	I	0978	0.30	0.26	0.18	10YR4/4褐色無釉砂質シロト, 10YR5/6黄褐色シロトの混入	01388階上
027 SK	I	0977 0976	0.57	0.51	0.33	階	00488階上
028 SK	I	0977 0976	0.68	0.69	0.28	階	01388階上
029 SK	I	0978	0.53	0.52	0.58	10YR4/4褐色無釉砂質シロト, 10YR5/6黄褐色シロトの混入, 焼土を含む	00488階上
030 SK	I	0977	0.87	0.73	0.18	階	00488階上
031 SK	I	0977	1.00	0.59	0.27	10YR3/4暗褐色無釉砂質シロト, 10YR4/4褐色無釉砂質シロトの混入	
032 SK	I	0978	0.46	0.44	0.16	10YR4/4褐色無釉砂質シロト, 10YR5/6黄褐色シロトの混入	00488階上
033 NR	0977	0.59	0.44	0.16	10YR4/4褐色無釉砂質シロト, 10YR5/6黄褐色シロトの混入	00488階上	
034 SK	I	0977	0.40	0.40	0.13	10YR3/4暗褐色無釉砂質シロト, 10YR5/6黄褐色シロト混入	01388階上
035 SK	I	0977	0.28	0.27	0.11	10YR4/4褐色無釉砂質シロト, 10YR5/6黄褐色シロトの混入	01388階上
036 SK	I	0978 0978	0.38	0.37	0.17	10YR5/4c-1黄褐色シロト, 10YR4/6褐色無釉砂混入	
037 SK	I	0978	1.19	1.16	0.13	階	
038 SK	I	0977	0.65	0.42	0.19	10YR3/4暗褐色無釉砂質シロト, 10YR5/6黄褐色無釉砂混入	
039 SK	I	0977	0.60	0.46	0.10	階	SI881土坑
040 NR	I	0978	0.54	0.40	0.17	10YR4/4褐色シロト質無釉砂, 10YR5/6黄褐色無釉砂混入	
041 SK	I	0977	0.60	0.46	0.08	10YR4/4褐色無釉砂質シロト, 10YR5/6黄褐色シロトの混入	
042 SK	I	0977	0.55	0.43	0.31	10YR4/4褐色無釉砂質シロト, 10YR5/6黄褐色無釉砂質シロトの混入, 焼土を含む	
043 SK	I	0977 0977	0.45	0.42	0.30	10YR4/4褐色シロト質無釉砂, 10YR5/6黄褐色無釉砂の混入	
044 SK	I	977	0.43	0.33	0.30	10YR4/4褐色シロト質無釉砂, 10YR5/6黄褐色無釉砂混入	
045 SK	I	0978	0.28	0.26	0.30	10YR4/4褐色無釉砂質シロト, 10YR5/6黄褐色無釉砂の混入	
046 SK	I	0977	0.58	0.5	0.15	10YR4/4褐色無釉砂質シロト, 10YR5/6黄褐色シロトの混入	
047 SK	I	0977 0977	0.53	0.39	0.19	10YR4/4褐色無釉砂質シロト, 10YR5/6黄褐色シロトの混入	
048 SK	I	0977	0.36	0.31	0.12	10YR4/4褐色無釉砂質シロト, 10YR5/6黄褐色シロト混入	
049 SK	I	0977	0.56	0.54	0.20	10YR4/4褐色シロト質無釉砂, 10YR5/6黄褐色シロトの混入	
050 SK	I	0977	0.47	0.52	0.24	10YR4/4褐色無釉砂質シロト, 10YR5/6黄褐色シロト混入	
051 SK	I	0977	0.64	0.53	0.29	階	SI881土坑
052 SK	I	0977	0.55	0.53	0.38	10YR4/4褐色シロト質無釉砂, 10YR5/6c-1黄褐色無釉砂混入	
053 NR	I	0978 0978	1.00	0.82	0.53	階	00488階上
054 SK	I	0976	1.00	0.77	0.54	10YR3/4暗褐色無釉砂, 10YR4/6褐色無釉砂混入	
055 SK	I	0976	1.11	0.85	0.44	10YR3/4暗褐色シロト質土, 10YR5/6c-1黄褐色無釉砂混入	
056 SK	I	0976	0.85	0.71	0.54	10YR3/4暗褐色シロト質無釉砂	
057 SK	I	0978	1.30	0.79	0.19	10YR4/4褐色シロト質無釉砂, 10YR5/6黄褐色シロトの混入	
058 SK	I	0978	0.39	0.35	0.13	10YR4/4褐色シロト質無釉砂, 10YR5/6黄褐色シロトの混入	
059 SK	I	0978	1.29	0.60	0.27	10YR4/4褐色シロト質無釉砂, 10YR5/6黄褐色シロトの混入	
060 SK	I	0977	0.46	0.31	0.26	階	SI881土坑
061 SK	I	0976	-1.35	0.91	0.60	階	
062 SK	I	0977	0.46	0.36	0.24	10YR3/4暗褐色無釉砂, 10YR5/6黄褐色無釉砂混入, 焼土・炭化物含む	00881土坑
063 SK	I	0977	0.63	0.41	0.29	10YR4/4褐色無釉砂質シロト, 10YR5/6黄褐色無釉砂混入	
064 SK	I	0977	0.32	0.29	0.27	10YR3/4暗褐色シロト質土, 10YR5/6黄褐色シロト質無釉砂混入, 焼土・炭化物含む	
065 SK	I	0977	0.43	0.38	0.55	10YR4/4褐色無釉砂質シロト, 10YR5/6黄褐色無釉砂混入	
066 SK	I	0977	0.41	0.34	0.10	10YR4/4褐色シロト質無釉砂, 10YR5/6c-1黄褐色無釉砂混入	
067 SK	I	0976	0.36	0.29	0.08	10YR4/4褐色無釉砂質シロト, 10YR5/6黄褐色無釉砂混入	
068 SK	I	0977	0.32	0.30	0.30	階	
069 SK	I	0977	0.26	0.23	0.24	10YR3/4暗褐色無釉砂質シロト, 10YR4/4褐色無釉砂混入	
070 SK	I	0977	0.63	0.42	0.30	10YR4/4褐色無釉砂質シロト, 10YR5/6黄褐色無釉砂混入, 焼土	SI881土坑
071 SK	I	0977	0.08	-0.28	0.03	10YR4/4褐色シロト質無釉砂	
101 NR	2	0978 0977	-5.47	-0.84	0.50	階	
102 SK	2	0976 0976	0.41	-0.54	0.12	10YR2/2黄褐色シロト, 10YR5/6黄褐色無釉砂の混入	



第39図 基本遺構平面図・概略図

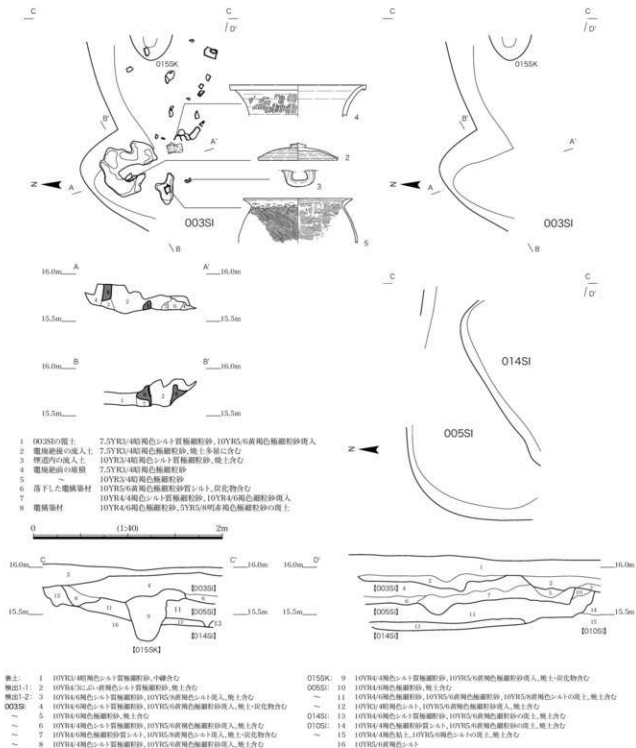


## 6 堅穴建物群

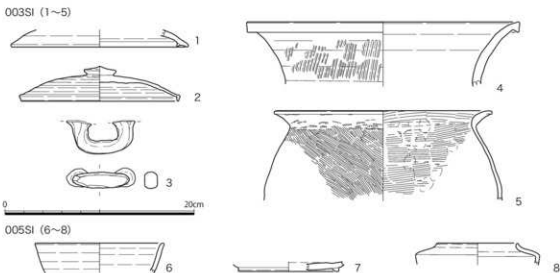
(1) 003SI・005SI・014SI (第40・41図)

**検出状況** 調査区南東端で検出した一群である。全形のごく一部を検出したのみであるが、東壁と南壁の層位と対応させながら調査した。

**003SI** 003SIは北辺に竪を敷設する。015SKが北東の支柱穴の可能性がある。

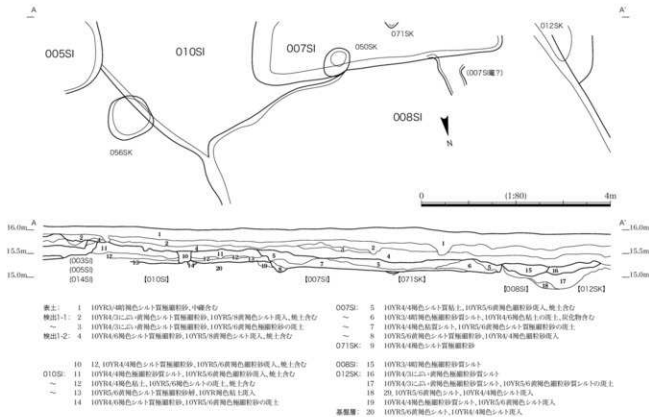


第40図 003SI・005SI・014SI 透構図(S=1/40)



第41図 003SI・005SI 出土遺物実測図

- 竈** 竈の残存状況は良好で、両壁から天井付近、煙道が遺存する。焼土塊が多く混入する部分が両壁の基底部から壁体で、竈壁の内側には須恵器蓋(2)が密着して残されていた。壁体の補強に用いられたと思われる。竈内底面には落下した天井と思われる焼土塊も確認された。
- 年代測定** 床面と竈付近の炭化材の放射性炭素年代測定を実施した結果(第4章参照)、いずれも7世紀後半から8世紀後半を中心とする年代範囲を示した。
- 出土遺物** 竈の周囲からは須恵器把手付鉢(3)、甕(4)、土師器濃尾型甕(5)、炭化材が散在して出土した。蓋(1)は岩崎41号窯式で、下位の005SIから混入した可能性が高い。蓋(2)は鳴海32号窯式に相当する。
- 005SI** 003SIの竈の外側で基盤層の黄褐色シルトを掘り込む遺構を確認した。これを竈(003SI)の構築に先行する遺構と認識して005SIとした。005SIの床面と想定される高さで検出した主軸方向が明確に異なる遺構を014SIとした。いずれも調査区の制約もあって、竈等の付属施設は確認されていない。
- 年代測定** 014SIから採取した炭化材の放射性炭素年代測定を実施した結果(第4章参照)、6世紀後半から7世紀前半を中心とする年代範囲を示した。竈穴建物の先後関係とも整合的である。
- 出土遺物** 005SIからは須恵器杯(6・7)・短頸壺(8)が出土した。短頸壺(8)は岩崎41号窯式に相当する。有台杯(7)は生焼けである。014SIから遺物は出土していない。
- 出土遺物と遺構の先後関係から014SIは岩崎41号窯式期以前、005SIは岩崎41号窯式期前後、003SIは鳴海32号窯式期に対応する。
- (2) 007SI・010SI(第42・43図)
- 検出状況** 調査区南壁付近で検出した一群である。部分を検出したのみであるが、010SIは周囲の005SI、007SI、008SIとは明らかに異なる方向で基盤層の黄褐色シルト層を掘り込むことから、それらと重複する別個の竈穴建物と認識した。010SIが007SIに先行する。調査時には010SIが005SIに先行すると判断したが、両遺構は縁辺が重複するのみで先行関係は確実ではない。出土遺物からすると、先後関係を誤認している可能性が高い(010SIが005SIに後出する)。
- 焼土** 007SIは北西付近に散在していた焼土と炭化物が竈に関係することも想定したが、構造を把握



第 42 図 007SI・010SI 遺構図 (S=1/80)



第 43 図 007SI 出土遺物実測図

することは困難であった。

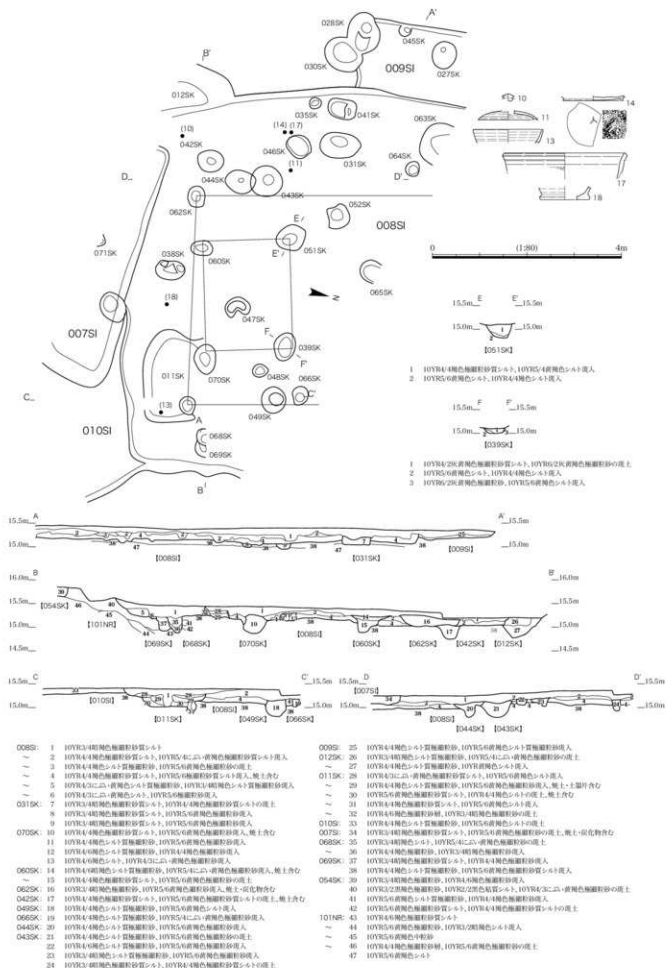
**出土遺物** 出土遺物は大部分が古墳時代前期初頭前後の遺物で、詳細な時期を検討する個体に恵まれないが、007SIからは土師器伊勢型甕(9)が出土した。010SIからは土師器濃尾型甕の体部下半が出土した。

(3) 008SI・009SI (第44・45図)

**検出状況** 調査区中央付近で検出した一群である。調査時には009SIが008SIに先行すると判断したが、前者の掘方はやや浅いこともあって、先行関係を確定することは難しい。007SIに先行する。

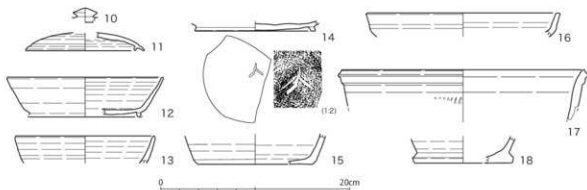
**008SI** 008SIは一辺7.93mの大型竪穴建物である。(北辺から東辺の大半が調査区外に続くこともあって、)竈の有無は明らかではない。011SK、062SKは上位が柱の抜き取り等によって大きく広がることから、主柱穴の可能性ある。039SK、051SK、060SK、070SKは配置から、(重複を見落とした)未検出の竪穴建物の主柱穴、または桁行1間・梁行1間の掘立柱建物の柱穴である可能性がある。ただ、柱穴が掘り込まれる層位、床面と堀方の認識は確実ではなく、やや混乱も生じている。

**出土遺物** 008SIからは須恵器蓋(10・11)・杯(12~15)・盤(16)・鉢(17)・陶甕(18)、凝灰岩製の砥石(63)が出土した。須恵器蓋(10・11)は同一個体の可能性がある。岩崎41号竈式に相当する。有台



第 44 図 O08SI・O09SI 遺構図

008SI (10~18)



第 45 図 008SI 出土遺物実測図

杯 (14) は底部外面に「人」の刻書がある。「人」の刻書がある杯は高蔵寺2号窯式に対応する篠岡66号窯から出土していることから、多くは岩崎41号窯式から高蔵寺2号窯式として大過ない。

## 7 掘立柱建物群

河川の縁辺で掘立柱建物3棟を復元した。調査区の制約から全形、規模は不明で、復元にもやや難がある。方位はいずれもN-15°-Wである。

004SBは桁行2間(4.25m)以上、梁行2間(3.1m)に復元した総柱建物である。柱間は桁行が2.3m、1.95m、梁行が1.55mである。柱穴053SKからは須恵器杯(19・20)、土師器甕(または鍋)の把手部分(21)が出土した。

006SBは桁行2間(3.2m)以上、梁行1間(2.95m)に復元した側柱建物である。柱間は桁行が1.6m、梁行が2.95mである。柱穴から図化が可能な遺物は出土していない。

013SBは桁行1間(2.75m)以上、梁行2間(3.5m)に復元した側柱建物である。中間の柱穴は小規模であることからすると、幾つかは削刺されたとも推定される。柱穴から図化が可能な遺物は出土していない。

## 8 その他の遺構・遺物

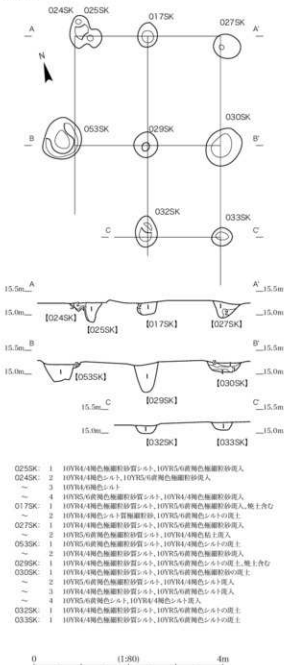
**中世の遺構** その他の遺構として、中世の方形土坑061SKがある。古代の堅穴建物005SIと重複し、それに後出する。掘方は箱形で深い。出土遺物は混入した古代以前の土師器と須恵器が多いが、わずかに灰軸陶器碗(22)、山茶碗(23・24)が出土した。山茶碗は東濃型明和窯式から大畑大洞窯式に対応する。

**自然流路** その他、調査区西端の自然流路001NR(25～29)、下位の堆積層101NR(30～32)、包含層、包含層等異なる時代の遺構から出土した遺物(33～62)がある。

**自然流路** 自然流路001NRから出土した遺物として、古墳時代中期前半の土師器(25)、奈良時代の須恵器(26～29)がある。有台杯(26・27)は高蔵寺2号窯式に対応する。

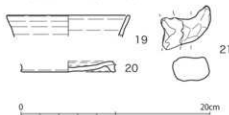
**下位堆積層** 下位の堆積層から出土した遺物として、古墳時代前期初頭前後の土師器(30～32)がある。口縁部内面を肥厚させ、多条沈線を施す西濃型の高杯(30)、底部外面にヘラミガキを施した壺(31)、受口状口縁台付甕(32)がある。

004SB

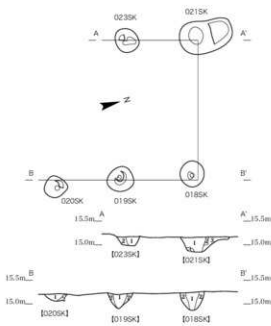


- 025SK: 1 10YR4/4褐色無磁粉砂質シロト, 10YR5/6黄褐色無磁粉砂質土  
024SK: 2 10YR4/4褐色シロト, 10YR5/6黄褐色無磁粉砂質土  
~ 3 10YR4/6褐色シロト  
~ 4 10YR5/6黄褐色無磁粉砂質シロト, 10YR4/4褐色無磁粉砂質土  
017SK: 1 10YR4/4褐色無磁粉砂質シロト, 10YR5/6黄褐色無磁粉砂質土, 焼土含む  
~ 2 10YR4/4褐色シロト質無磁粉砂, 10YR5/6黄褐色シロトの底土  
027SK: 1 10YR4/4褐色無磁粉砂質シロト, 10YR5/6黄褐色無磁粉砂質土  
~ 2 10YR5/6黄褐色無磁粉砂質シロト, 10YR4/4褐色粘土層入  
053SK: 1 10YR4/4褐色無磁粉砂質シロト, 10YR4/4褐色シロトの底土  
~ 2 10YR4/4褐色無磁粉砂質シロト, 10YR5/6黄褐色無磁粉砂質土  
029SK: 1 10YR4/4褐色無磁粉砂質シロト, 10YR5/6黄褐色シロトの底土, 焼土含む  
030SK: 1 10YR4/4褐色無磁粉砂質シロト, 10YR5/6黄褐色無磁粉砂質土  
~ 2 10YR5/6黄褐色無磁粉砂質シロト, 10YR4/4褐色シロト層入  
~ 3 10YR4/4褐色無磁粉砂質シロト, 10YR5/6黄褐色シロト層入  
~ 4 10YR5/6黄褐色シロト, 10YR4/4褐色シロト層入  
032SK: 1 10YR4/4褐色無磁粉砂質シロト, 10YR5/6黄褐色シロトの底土  
033SK: 1 10YR4/4褐色無磁粉砂質シロト, 10YR5/6黄褐色シロトの底土

004SB 柱穴 053SK (19~21)

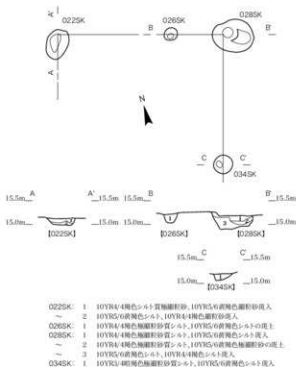


006SB



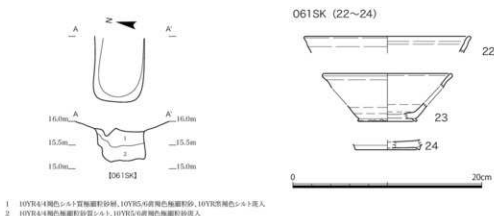
- 023SK: 1 10YR4/4褐色無磁粉砂質シロト, 10YR5/6黄褐色無磁粉砂質土  
~ 2 10YR5/6黄褐色無磁粉砂質シロト, 10YR4/4褐色無磁粉砂質土  
021SK: 1 10YR4/4褐色シロト質無磁粉砂, 10YR5/6黄褐色無磁粉砂質土  
~ 2 10YR4/4褐色シロト質無磁粉砂, 10YR5/6黄褐色無磁粉砂質土  
~ 3 10YR5/6黄褐色無磁粉砂質シロト, 10YR4/4褐色無磁粉砂質土  
020SK: 1 10YR4/4褐色シロト質無磁粉砂  
~ 2 10YR5/6黄褐色無磁粉砂  
019SK: 1 10YR4/4褐色無磁粉砂質シロト, 10YR5/6黄褐色無磁粉砂質土  
~ 2 10YR5/6黄褐色無磁粉砂質シロト, 10YR4/4褐色粘土層入  
018SK: 1 10YR4/4褐色無磁粉砂質シロト, 10YR5/6黄褐色無磁粉砂質土  
~ 2 10YR5/6黄褐色無磁粉砂質シロト, 10YR4/4褐色粘土層入

013SB



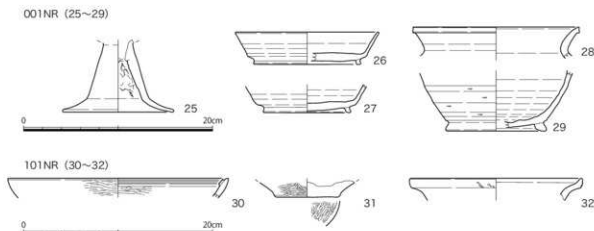
- 022SK: 1 10YR4/4褐色シロト質無磁粉砂, 10YR5/6黄褐色無磁粉砂質土  
~ 2 10YR5/6黄褐色シロト, 10YR4/4褐色無磁粉砂質土  
026SK: 1 10YR4/4褐色無磁粉砂質シロト, 10YR5/6黄褐色シロトの底土  
028SK: 1 10YR4/4褐色無磁粉砂質シロト, 10YR5/6黄褐色シロト層入  
~ 2 10YR4/4褐色無磁粉砂質シロト, 10YR5/6黄褐色無磁粉砂質土  
~ 3 10YR5/6黄褐色シロト, 10YR4/4褐色シロト層入  
034SK: 1 10YR4/4褐色無磁粉砂質シロト, 10YR5/6黄褐色シロト層入

第46図 掘立柱建物遺構図・出土物実測図



1 10YR6/4褐色シト質無釉彩砂焼, 10YR5/6褐色無釉彩砂, 10YR7/3褐色シト質入  
2 10YR6/4褐色無釉彩砂質シト, 10YR5/6褐色無釉彩砂質入

第47図 中世遺構 O61SK 実測図・出土遺物実測図



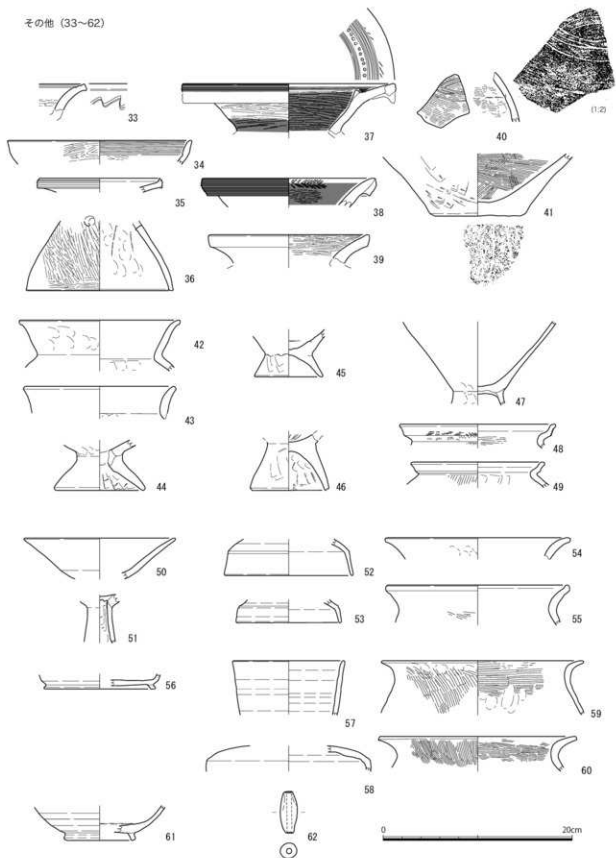
第48図 自然流路 O01NR・下位の堆積層 101NR 出土遺物実測図

**包含層等** 包含層、異なる時期の遺構から出土した遺物として、弥生時代後期の弥生土器(33・41)、古墳時代前期初頭前後の土師器(34～48)、古墳時代前期後半前後の土師器(49～51)、古墳時代後期から終末期の須恵器(52・53)と土師器(54・55)、奈良時代の須恵器(56～58)と土師器(59・60)、平安時代の灰軸陶器(61)、紡錘形の管状土錘(62)がある。古墳時代前期初頭前後の土師器がやや多い。

**古墳時代** 古墳時代前期初頭の土師器として、口縁部内面を肥圧させ、多条沈線を施す西濃型の高杯(34)、パレス・スタイル壺(37・38)、S字甕A類新段階(48)等がある。壺の体部上半(40)は外面に弧状の線刻がある。線刻はごく細い線で鋭利に刻まれる。人面文または弧帯文の一部である可能性もある。古墳時代前期後半の土師器として、S字甕D類古段階(49)、無透孔屈折脚高杯(50・51)、古墳時代後期から終末期の須恵器として、蓋杯蓋(52・53)、土師器として、伊勢型甕(54)等がある。

**古代** 奈良時代の須恵器として、有台杯(56)、平瓶(57・58)、土師器として、濃尾型甕(59・60)がある。平安時代の灰軸陶器として椀(61)がある。

その他 (33~62)



第 49 図 その他出土遺物実測図



表 20 遺物一覧表

遺物 番号	区	グラフィッド	遺跡	遺物	部類	口径		底径 (mm)	底面 (1/2)	断面 (1/2)	備考	出土地点	
						(mm)	(1/2)					(X)	(Y)
1	19	0976	0008	瓦葺部	蓋	18.0	1	-	-	1.7	1-41	-	-
2	19	0976	0008	瓦葺部	蓋	16.6	3	-	-	3.7	NN-32	-76003.915	-25767.490
3	19	0976	0008	瓦葺部	把手付鉢	-	-	-	-	1.3	把手付鉢	-76004.522	-25767.490
4	19	0976	0008	瓦葺部	蓋	28.6	3	-	-	6.8	-	-76004.393	-25767.049
5	19	0976	0008	瓦葺部	土師器	23.0	3	-	-	0.9	-	-76004.316	-25767.378
6	19	0976	0008	瓦葺部	杯	13.6	1	-	-	0.2	-	-	-
7	19	0976	0008	瓦葺部	杯	8.6	1	10.0	3	1.1	生焼け	-	-
8	19	0976	0008	瓦葺部	短脚鉢	8.6	2	-	-	0.2	1-41	-	-
9	19	0977	0078	土師器	蓋	18.8	1	-	-	0.0	-	-	-
10	19	0977	0088	瓦葺部	蓋	-	-	-	-	1.5	-	-76001.926	-25776.948
11	19	0977	0088	瓦葺部	蓋	12.0	5	-	-	1.9	-	-76008.525	-25776.770
12	19	0977	0088	瓦葺部	白台鉢	16.6	1	-	-	4.2	-	-	-
13	19	0977	0088	瓦葺部	杯	14.8	2	-	-	0.9	-	-76001.617	-25771.128
14	19	0977	0088	瓦葺部	白台鉢	-	-	12.8	1	1.2	瓦葺外周(人) 縦溝	-76008.637	-25777.520
15	19	0977	0088	瓦葺部	白台鉢	-	-	12.0	2	0.3	-	-	-
16	19	0977	0088	瓦葺部	蓋	20.6	2	-	-	0.5	-	-	-
17	19	0977	0088	瓦葺部	蓋	25.6	1	-	-	0.3	-	-76008.701	-25777.555
18	19	0977	0088	瓦葺部	陶白	-	-	5.2	5	0.8	-	-76001.425	-25773.490
19	19	0978	0538	瓦葺部	杯	12.8	1	-	-	0.3	-	-	-
20	19	0978	0538	瓦葺部	杯	-	-	9.8	1	0.2	-	-	-
21	19	0978	0538	瓦葺部	皿	-	-	-	-	4.7	-	-	-
22	19	0978	0618	瓦葺部	丸底陶器	17.6	1	-	-	0.8	-	-	-
23	19	0978	0618	瓦葺部	皿	-	-	6.8	1	0.1	明釘	-	-
24	19	0978	0618	瓦葺部	皿	17.6	1	6.4	1	0.5	大瓶入城店	-	-
25	19	0978	0618	瓦葺部	高杯	-	-	11.6	1	7.6	-	-	-
26	19	0978	0618	瓦葺部	有台鉢	15.2	1	11.2	5	3.4	C-2	-76008.209	-25780.597
27	19	0978	0618	瓦葺部	有台鉢	-	-	9.0	12	0.0	C-2	-76005.252	-25781.130
28	19	0978	0618	瓦葺部	蓋	17.4	2	-	-	0.4	-	-	-
29	19	0978	0618	瓦葺部	短脚鉢	-	-	10.4	5	6.4	-	-76005.309	-25782.026
30	19	0978	1018	土師器	高杯	32.2	1	-	-	0.6	外部内面被焼	-	-
31	19	0978	1018	土師器	蓋	-	-	6.4	3	0.8	-	-	-
32	19	0978	1018	土師器	受口鉢	18.2	1	-	-	0.3	-	-	-
33	19	0977 0977	0088	赤土土師	有縁高杯	-	-	-	-	0.8	-	-	-
34	19	0977	0088	土師器	有縁高杯	11.0	1	-	-	0.6	外部内面被焼	-	-
35	19	0977	0088	土師器	蓋	12.6	1	-	-	1.5	-	-	-
36	19	0977	0108	土師器	高杯	-	-	15.6	2	7.8	-	-	-
37	19	0976	0098	土師器	ハリス前	22.0	1	-	-	0.4	内外面被焼	-	-
38	19	0977	0098	土師器	ハリス前	18.4	2	-	-	0.0	内外面被焼	-	-
39	19	0977 0977	0078	土師器	広口鉢	17.0	3	-	-	0.0	-	-	-
40	19	0977	0088	土師器	平皿	-	-	-	-	-	赤土内面被焼	-	-
41	19	0976	0632	赤土土師	広口鉢	-	-	9.0	3	0.9	赤土内面被焼	-76001.410	-25780.406
42	19	0977	0438	土師器	蓋	15.6	2	-	-	0.4	-	-	-
43	19	0976	0632	土師器	蓋	17.0	3	-	-	0.9	-	-76001.714	-25780.284
44	19	0976	0632	土師器	台付鉢	-	-	9.2	3	0.4	縦台座	-	-
45	19	0977	トロンク	土師器	台付鉢	-	-	7.0	1	0.0	縦台座	-	-
46	19	0977 0976	0108	土師器	台付鉢	-	-	7.8	12	0.9	縦台座	-76004.178	-25786.680
47	19	0977	0108	土師器	台付鉢	-	-	-	-	0.9	-	-76001.789	-25770.926
48	19	0978	横出1-2	土師器	5字蓋	16.4	2	-	-	0.5	A割削	-	-
49	19	0978	横出1	土師器	5字蓋	14.0	2	-	-	0.7	D割古	-	-
50	19	0976	横出1	土師器	高杯	15.8	3	-	-	1.3	-	-76000.633	-25767.980
51	19	0977	横出1-2	土師器	高杯	-	-	-	-	0.2	-	-	-
52	19	0976	横出1	瓦葺部	蓋付杯	13.4	2	-	-	0.9	縦+蓋	-76000.691	-25768.024
53	19	0976	横出1-2	瓦葺部	蓋付杯	11.0	2	-	-	0.5	117	-76005.044	-25784.664
54	19	0977	0138	土師器	蓋	19.6	1	-	-	0.3	-	-	-
55	19	0977	横出1	土師器	伊勢型	19.0	2	-	-	4.3	-	-	-
56	19	0978	横出1	瓦葺部	有台鉢	-	-	11.0	4	0.6	-	-76004.612	-25786.873
57	19	0976	横出1	瓦葺部	平皿	11.8	3	-	-	0.8	C-10	-	-
58	19	0978	横出1	瓦葺部	平皿	-	-	-	-	0.7	-	-76004.488	-25784.719
59	19	0976	横出1	土師器	鹿兒型	20.4	3	-	-	0.7	-	-76008.900	-25768.256
60	19	0977	横出1-2	土師器	鹿兒型	21.0	1	-	-	0.7	-	-	-
61	19	0978	横出1-1	瓦葺部	陶	-	-	6.8	3	0.7	D割古	-	-
62	19	0976	横出1	土師器	上皿	15.4	1	6.1	5	0.5	裏112g	-76002.989	-25795.000
63	19	0977	0088	石製	底石	15.6	-	6.4	5	0.8	裏86.4g	-	-

## 【参考文献】

大町町 1982 『大町町史』

大町町教育委員会 2010 『白木道跡』 『大町町内遺跡発掘調査報告書』 大町町埋蔵文化財調査報告書第7集

愛知県一宮建設事務所・株式会社ススコ・大町町歴史民俗博物館 2022 『白木道跡』

城ヶ谷和広 2015 『福年論』 『愛知県史』 別冊 聖業1 古代 猿投系 愛知県

早野浩二 2020 『白木道跡』 『愛知県埋蔵文化財センター年報』 令和元年度 公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団愛知県埋蔵文化財センター



白木遺跡遠景

遺跡北西上空から小牧山、小牧・名古屋市街地方面

遺跡南東上空から木曾川、一宮・江南市街地方面



白木遺跡調査区全景・土層断面

調査区全景

調査区南壁土層断面

自然流路 001NR 南壁土層断面



竪穴建物 003SI

003SI 竈遺物出土状況

003SI 床面検出状況 003SI 竈検出状況

003SI 竈断ち割り 003SI 完掘状況



竪穴建物群

竪穴建物群完掘状況

061SK・003SI・005SI・014SI (調査区東壁) 土層断面

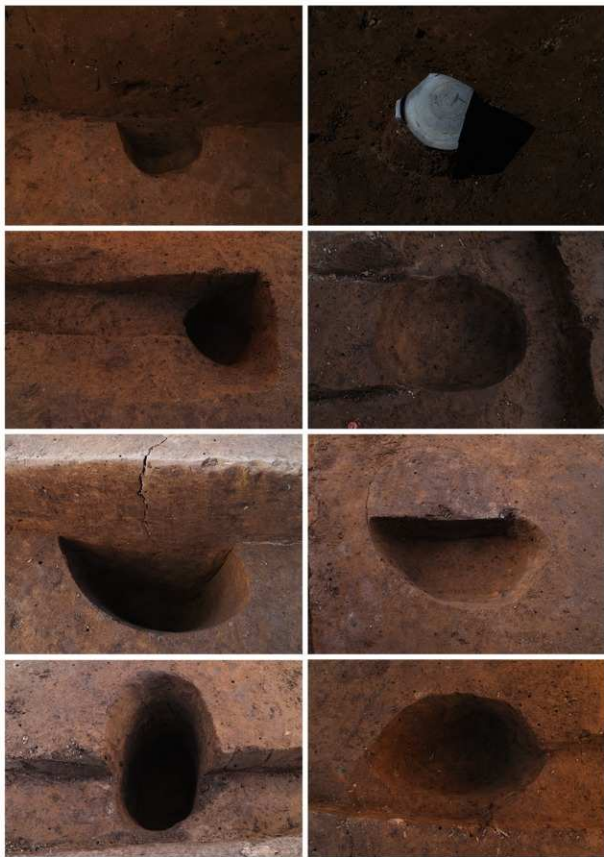
005SI 完掘状況・014SI 検出状況・014SI 完掘状況



大型竪穴建物 008SI

008SI 完備状況

008SI 土層断面



竪穴建物 003SI・大型竪穴建物 008SI

003SI 主柱穴 015SK 土層断面 008SI 遺物(「人」刻書須恵器)出土状況

008SI 主柱穴 011SK 完掘状況 008SI 主柱穴 062SK 完掘状況

柱穴 051SK 土層断面 柱穴 039SK 土層断面

柱穴 060SK 完掘状況 柱穴 070SK 完掘状況



掘立柱建物群

遺構検出状況(柱穴群と自然流路 001NR)

004SB 柱穴 024SK・025SK 完掘状況 004SB 柱穴 027SK 土層断面

004SB 柱穴 053SK 完掘状況 004SB029SK 完掘状況

004SB 柱穴 030SK 土層断面 004SB033SK 土層断面





据立柱建物群・自然流路 001NR・101NR

006SB 柱穴 023SK 土層断面    006SB 柱穴 021SK 完掘状況  
 006SB 柱穴 019SK 土層断面    006SB 柱穴 019SK 完掘状況  
 013SB 柱穴 022SK 土層断面    013SB 柱穴 028SK 完掘状況  
 自然流路 001NR 遺物出土状況    自然流路 101NR 礫層の産状



2



3



4



5



14



14



12



63



27



29



37



40



41



46



61



62

## 第4章 自然科学分析

### 1 放射性炭素年代測定 (株式会社パレオ・ラボ AMS 年代測定グループ)

#### (1) 南山町遺跡の測定結果

南山町遺跡から出土した遺物の付着炭化物および採取された炭化材試料について、加速器質量分析法 (AMS 法) による放射性炭素年代測定を行った。

**試料と方法** 付着炭化物試料は、20B 区の 137SK から出土した鉄軸皿 (報文掲載図 130) の底部外面付着炭化物 (試料 No.1: PLD-49247)、21Ab 区の 130SD から出土した土師質鍋 (報文掲載図 248) の口縁部外面付着炭化物 (試料 No.2: PLD-49248)、21Ab 区の 147SI で出土した土師質甕 (図未掲載) の胴部外面付着炭化物 (試料 No.3: PLD-49249) の、計 3 点である。測定試料の情報、調製データは表 21 のとおりである。

炭化材試料は、溝跡 020SD から採取された炭化材が 2 点 (試料 No.4、5: PLD-50620、50621)、堅穴住居跡 147SI から採取された炭化材が 2 点 (試料 No.6、7: PLD-50622、50623)、土坑 157SK から採取された炭化材が 1 点 (試料 No.8: PLD-50624)、157SK の南で採取された炭化材が 1 点 (試料 No.9: PLD-50625) の、計 6 点である。試料 No.6 は最終形成年輪が残っていたが、その他の 5 点については最終形成年輪が残っていなかった。測定試料の情報、調製データは表 22 のとおりである。

以上の試料は調製後、ともに加速器質量分析計 (パレオ・ラボ、コンパクト AMS: NEC 製 1.5SDH) を用いて測定した。得られた  $^{13}\text{C}$  濃度について同位体分別効果の補正を行った後、 $^{14}\text{C}$  年代、暦年代を算出した。

**結果** 表 23, 24 に、同位体分別効果の補正に用いる炭素同位体比 ( $\delta^{13}\text{C}$ )、同位体分別効果の補正を行って暦年較正に用いた年代値と較正によって得られた年代範囲、慣用に従って年代値と誤差を丸めて表示した  $^{14}\text{C}$  年代をそれぞれ示す。暦年較正に用いた年代値は下 1 桁を丸めていない値であり、今後暦年較正曲線が更新された際にこの年代値を用いて暦年較正を行うために記載した。 $^{14}\text{C}$  年代は AD1950 年を基点にして何年前かを示した年代である。 $^{14}\text{C}$  年代 (yrBP) の算出には、 $^{14}\text{C}$  の半減期として Libby の半減期 5568 年を使用した。また、付記した  $^{14}\text{C}$  年代誤差 ( $\pm 1\sigma$ ) は、測定の統計誤差、標準偏差等に基づいて算出され、試料の  $^{14}\text{C}$  年代がその  $^{14}\text{C}$  年代誤差内に入る確率が 68.27%であることを示す。

なお、暦年較正の詳細は以下のとおりである。

暦年較正とは、大気中の  $^{14}\text{C}$  濃度が一定で半減期が 5568 年として算出された  $^{14}\text{C}$  年代に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の  $^{14}\text{C}$  濃度の変動、および半減期の違い ( $^{14}\text{C}$  の半減期 5730  $\pm$  40 年) を較正して、より実際の年代値に近いものを算出することである。

$^{14}\text{C}$  年代の暦年較正には OxCal4.4 (較正曲線データ: IntCal20、暦年較正結果が 1950 年以降にのびる試料については Post-bomb atmospheric NH2) を使用した。なお、1  $\sigma$  暦年代範囲は、OxCal の確率法を使用して算出された  $^{14}\text{C}$  年代誤差に相当する 68.27% 信頼限界の暦年代範囲であり、同様に 2  $\sigma$  暦年代範囲は 95.45% 信頼限界の暦年代範囲である。カッコ内の百分率の値は、その範囲内に暦年代が入る確率を意味する。グラフ中の縦軸上の曲線は  $^{14}\text{C}$  年代の確率分布を

表 21 南山町遺跡 測定試料および処理(土器附着炭化物)

測定番号	遺跡データ	試料データ	前処理
PLD-49247	試料No. 1 調査区: 20B グリッド: 0505D 遺構: 137SK 遺物No. 130	種類: 土器附着炭化物 器種: 鉄軸皿 部位: 底部外面 状態: dry	超音波洗浄 有機溶剤処理: アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸: 1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム: 1.0 mol/L, 塩酸: 1.2 mol/L)
PLD-49248	試料No. 2 調査区: 21Ab グリッド: 0509L 遺構: 130SD 遺物No. 248 備考: d-058	種類: 土器附着炭化物 器種: 土師質鍋 部位: 口縁部外面 状態: dry	超音波洗浄 有機溶剤処理: アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸: 1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム: 1.0 mol/L, 塩酸: 1.2 mol/L)
PLD-49249	試料No. 3 調査区: 21Ab グリッド: 0510X 遺構: 147SI 備考: d-083	種類: 土器附着炭化物 器種: 土師質壺 部位: 胴部外面 状態: dry	超音波洗浄 有機溶剤処理: アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸: 1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム: 1.0 mol/L, 塩酸: 1.2 mol/L)

表 22 南山町遺跡 測定試料および処理(炭化材)

測定番号	遺跡データ	試料データ	前処理
PLD-50620	試料No. 1 調査区: 21Aa 遺構: 0205D 遺物No. d-202	種類: 炭化材 試料の性状: 最終形成年輪以外 部位不明 状態: wet	超音波洗浄 有機溶剤処理: アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸: 1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム: 1.0 mol/L, 塩酸: 1.2 mol/L)
PLD-50621	試料No. 2 調査区: 21Aa 遺構: 0205D 遺物No. d-021	種類: 炭化材 試料の性状: 最終形成年輪以外 部位不明 状態: wet	超音波洗浄 有機溶剤処理: アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸: 1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム: 1.0 mol/L, 塩酸: 1.2 mol/L)
PLD-50622	試料No. 3 調査区: 21Ab 遺構: 147SI 遺物No. d-088	種類: 炭化材 試料の性状: 最終形成年輪 状態: wet	超音波洗浄 有機溶剤処理: アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸: 1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム: 1.0 mol/L, 塩酸: 1.2 mol/L)
PLD-50623	試料No. 4 調査区: 21Ab 遺構: 147SI 遺物No. d-091	種類: 炭化材 試料の性状: 最終形成年輪以外 部位不明 状態: wet	超音波洗浄 有機溶剤処理: アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸: 1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム: 1.0 mol/L, 塩酸: 1.2 mol/L)
PLD-50624	試料No. 5 調査区: 21Ab 遺構: 157SK 遺物No. d-116	種類: 炭化材 試料の性状: 最終形成年輪以外 部位不明 状態: wet	超音波洗浄 有機溶剤処理: アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸: 1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム: 1.0 mol/L, 塩酸: 1.2 mol/L)
PLD-50625	試料No. 6 調査区: 21Ab 遺構: 157SKの南 遺物No. d-119	種類: 炭化材 試料の性状: 最終形成年輪以外 部位不明 状態: wet	超音波洗浄 有機溶剤処理: アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸: 1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム: 1.0 mol/L, 塩酸: 1.2 mol/L)

示し、二重曲線は暦年較正曲線を示す。

以下、2σ暦年代範囲(確率95.45%)に着目して結果を整理する。

20B 区の137SK から出土した鉄軸皿(報文掲載図130)の底部外面付着炭化物(試料No.1: PLD-49247)は、1528-1540 cal AD (5.54%)、1545-1550 cal AD (1.17%)、1634-1666 cal AD (78.29%)、1784-1795 cal AD (10.45%)で、16世紀前半～中頃、17世紀前半～後半、18世紀後半～末の暦年代を示した。これは、室町時代、江戸時代前期および後期に相当する。

21Ab 区の130SD から出土した土師質鍋(報文掲載図248)の口縁部外面付着炭化物(試料No.2: PLD-49248)は、1216-1269 cal AD (95.45%)で、13世紀前半～後半の暦年代を示した。これは、鎌倉時代に相当する。

21Ab 区の147SI から出土した土師質甕(図未掲載)の胴部外面付着炭化物(試料No.3: PLD-49249)は、667-709 cal AD (40.88%)および712-774 cal AD (54.57%)で、7世紀後半～8世紀後半の暦年代を示した。これは、飛鳥時代～奈良時代に相当する。

なお、木材の場合、最終形成年輪部分を測定すると枯死もしくは伐採年代が得られるが、内側の年輪を測定すると、最終形成年輪から内側であるほど古い年代が得られる(古木効果)。試料No.6は最終形成年輪が残っていたが、それ以外の5点、試料No.4、5、7～9は最終形成年輪が残っていなかったため、測定結果は古木効果の影響を受けていると考えられ、試料の木が実際に枯死もしくは伐採された年代は、測定結果よりややも新しい年代であると考えられる。

020SDの試料No.4(PLD-50620)は1048-1083 cal AD (32.32%)、1096-1101 cal AD (1.17%)、1126-1140 cal AD (3.15%)、1149-1217 cal AD (58.80%)、試料No.2(PLD-50621)は1048-1083 cal AD (32.32%)、1096-1101 cal AD (1.17%)、1126-1140 cal AD (3.15%)、1149-1217 cal AD (58.80%)で、共に11世紀中頃～13世紀前半の暦年代を示した。これは、平安時代中期～鎌倉時代に相当する。

147SIの試料No.6(PLD-50622)は647-681 cal AD (89.28%)、749-758 cal AD (5.18%)、768-771 cal AD (0.99%)、試料No.7(PLD-50623)は657-691 cal AD (49.80%)、696-703 cal AD (3.52%)、741-773 cal AD (42.13%)で、共に7世紀中頃～8世紀後半の暦年代を示した。これは、飛鳥時代～奈良時代に相当する。

157SKの試料No.8(PLD-50624)は、660-704 cal AD (48.16%)および740-773 cal AD (47.29%)で、7世紀中頃～8世紀後半の暦年代を示した。これは、飛鳥時代～奈良時代に相当する。

157SKの南の試料No.9(PLD-50625)は、659-705 cal AD (49.01%)および739-773 cal AD (46.44%)で、7世紀中頃～8世紀後半の暦年代を示した。これは、飛鳥時代～奈良時代に相当する。

表 23 放射性炭素年代測定および暦年較正の結果 (土器付着炭化物)

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	暦年較正用年代 (yrBP $\pm 1\sigma$ )	$^{14}\text{C}$ 年代 (yrBP $\pm 1\sigma$ )	$^{14}\text{C}$ 年代を暦年時代に較正した年代範囲	
				1 $\sigma$ 暦年年代範囲	2 $\sigma$ 暦年年代範囲
PLD-49247 試料No. 1 鉄血皿底部外面	-25.85 $\pm$ 0.29	258 $\pm$ 18	260 $\pm$ 20	Post-bomb NRI curve (Hua et al., 2013, Reimer et al 2020): 1640-1660 cal AD (68, 27%)	Post-bomb NRI curve (Hua et al., 2013, Reimer et al 2020): 1529-1540 cal AD ( 5.54%) 1545-1550 cal AD ( 1.17%) 1634-1666 cal AD (78, 29%) 1784-1795 cal AD (10, 43%)
PLD-49248 試料No. 2 土師貫頭口縁部外面	-21.35 $\pm$ 0.28	815 $\pm$ 18	815 $\pm$ 20	1221-1232 cal AD (25, 0%) 1240-1260 cal AD (43, 22%)	1216-1269 cal AD (95, 45%)
PLD-49249 試料No. 3 土師貫頭部外面	-22.85 $\pm$ 0.33	1290 $\pm$ 22	1290 $\pm$ 20	675-704 cal AD (32, 67%) 739-753 cal AD (15, 97%) 756-773 cal AD (19, 64%)	667-709 cal AD (40, 88%) 712-774 cal AD (54, 57%)

表 24 放射性炭素年代測定および暦年較正の結果 (炭化材)

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	暦年較正用年代 (yrBP $\pm 1\sigma$ )	$^{14}\text{C}$ 年代 (yrBP $\pm 1\sigma$ )	$^{14}\text{C}$ 年代を暦年時代に較正した年代範囲	
				1 $\sigma$ 暦年年代範囲	2 $\sigma$ 暦年年代範囲
PLD-50620 試料No. 1 020SD	-27.13 $\pm$ 0.15	900 $\pm$ 18	900 $\pm$ 20	1052-1078 cal AD (27, 93%) 1155-1178 cal AD (29, 78%) 1192-1202 cal AD (10, 53%)	1048-1083 cal AD (32, 32%) 1096-1101 cal AD ( 1.17%) 1126-1140 cal AD ( 3.15%) 1149-1217 cal AD (58, 80%)
PLD-50621 試料No. 2 020SD	-26.95 $\pm$ 0.15	900 $\pm$ 18	900 $\pm$ 20	1052-1078 cal AD (27, 93%) 1155-1178 cal AD (29, 78%) 1192-1202 cal AD (10, 53%)	1048-1083 cal AD (32, 32%) 1096-1101 cal AD ( 1.17%) 1126-1140 cal AD ( 3.15%) 1149-1217 cal AD (58, 80%)
PLD-50622 試料No. 3 147S1	-25.69 $\pm$ 0.18	1351 $\pm$ 18	1350 $\pm$ 20	654-668 cal AD (68, 27%)	647-681 cal AD (89, 28%) 749-758 cal AD ( 5.18%) 768-771 cal AD ( 0.99%)
PLD-50623 試料No. 4 147S1	-26.14 $\pm$ 0.16	1321 $\pm$ 18	1320 $\pm$ 20	662-680 cal AD (37, 82%) 746-759 cal AD (23, 85%) 767-771 cal AD ( 6.60%)	657-691 cal AD (49, 80%) 696-703 cal AD ( 3.52%) 741-773 cal AD (42, 13%)
PLD-50624 試料No. 5 157SK	-26.27 $\pm$ 0.15	1312 $\pm$ 18	1310 $\pm$ 20	665-683 cal AD (29, 79%) 744-760 cal AD (28, 56%) 766-772 cal AD ( 9.92%)	660-704 cal AD (48, 16%) 740-773 cal AD (47, 29%)
PLD-50625 試料No. 6 157SKの南	-25.88 $\pm$ 0.20	1313 $\pm$ 19	1315 $\pm$ 20	664-683 cal AD (30, 79%) 744-760 cal AD (27, 80%) 766-772 cal AD ( 9.68%)	659-705 cal AD (49, 01%) 739-773 cal AD (46, 44%)

## 【参考文献】

- Bronk Ramsey, C. (2009) Bayesian Analysis of Radiocarbon dates. *Radiocarbon*, 51(1), 337-360.
- Hua, Q., Barbetti, M., Rakowski, A.Z. (2013) Atmospheric Radiocarbon for the Period 1950-2010. *Radiocarbon*, 55(4), 1-14.
- 中村俊夫 (2006) 放射性炭素年代測定法の基礎. 日本先史時代の $^{14}\text{C}$ 年代編集委員会編「日本先史時代の $^{14}\text{C}$ 年代」: 3-20, 日本第四紀学会.
- Reimer, P.J., Austin, W.E.N., Bard, E., Bayliss, A., Blackwell, P.G., Bronk Ramsey, C., Butzin, M., Cheng, H., Edwards, R.L., Friedrich, M., Grootes, P.M., Guilderson, T.P., Hajdas, L., Heaton, T.J., Hogg, A.G., Hughes, K.A., Kromer, B., Manning, S.W., Muscheler, R., Palmer, J.G., Pearson, C., van der Plicht, J., Reimer, R.W., Richards, D.A., Scott, E.M., Southon, J.R., Turney, C.S.M., Wacker, L., Adolphi, F., Büntgen, U., Copano, M., Fahrni, S.M., Fogtmann-Schulz, A., Friedrich, R., Köhler, P., Kudsk, S., Miyake, F., Olsen, J., Reinig, F., Sakamoto, M., Sookdeo, A. and Talamo, S. (2020) The IntCal20 Northern Hemisphere radiocarbon age calibration curve (0-55 cal kBP). *Radiocarbon*, 62(4), 725-757, doi:10.1017/RDC.2020.41. <https://doi.org/10.1017/RDC.2020.41> (cited 12 August 2020)

## (2) 白木遺跡の測定結果

愛知県丹羽郡大口町の白木遺跡より検出された試料について、加速器質量分析法 (AMS 法) による放射性炭素年代測定を行った。

**試料と方法** 測定試料の情報、調整データは表25のとおりである。試料は調整後、加速器質量分析計(パレオラボ、コンパクト AMS: NEC 製 1.5SDH) を用いて測定した。得られた  $^{14}\text{C}$  濃度について同位体分別効果の補正を行った後、 $^{14}\text{C}$  年代、暦年代を算出した。

**結果** 表26に、同位体分別効果の補正に用いる炭素同位体比( $\delta^{13}\text{C}$ )、同位体分別効果の補正を行った暦年較正に用いた年代値と較正によって得られた年代範囲、慣用に従って年代値と誤差を丸めて表示した  $^{14}\text{C}$  年代、暦年較正結果を示す。暦年較正に用いた年代値は下1桁を丸めていない値であり、今後暦年較正曲線が更新された際にこの年代値を用いて暦年較正を行うために記載した。

$^{14}\text{C}$  年代は AD1950 年を基点にして何年前かを示した年代である。 $^{14}\text{C}$  年代 (yrBP) の算出には、 $^{14}\text{C}$  の半減期として Libby の半減期 5568 年を使用した。また、付記した  $^{14}\text{C}$  年代誤差 ( $\pm 1\sigma$ ) は、測定の統計誤差、標準偏差等に基づいて算出され、試料の  $^{14}\text{C}$  年代がその  $^{14}\text{C}$  年代誤差内に入る確率が 68.2% であることを示す。

なお、暦年較正の詳細は以下のとおりである。

暦年較正とは、大気中の  $^{14}\text{C}$  濃度が一定で半減期が 5568 年として算出された  $^{14}\text{C}$  年代に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の  $^{14}\text{C}$  濃度の変動、および半減期の違い ( $^{14}\text{C}$  の半減期 5730  $\pm$  40 年) を較正して、より実際の年代値に近いものを算出することである。

$^{14}\text{C}$  年代の暦年較正には OxCal4.3 (較正曲線データ: IntCal13) を使用した。なお、 $1\sigma$  暦年代範囲は、OxCal の確率法を使用して算出された  $^{14}\text{C}$  年代誤差に相当する 68.2% 信頼限界の暦年代範囲であり、同様に  $2\sigma$  暦年代範囲は 95.4% 信頼限界の暦年代範囲である。カッコ内の百分率の値は、その範囲内に暦年代が入る確率を意味する。グラフ中の縦軸上の曲線は  $^{14}\text{C}$  年代の確率分布を示し、二重曲線は暦年較正曲線を示す。

**考察** 試料について、同位体分別効果の補正および暦年較正を行った。

### 【参考文献】

- Bronk Ramsey, C. (2009) Bayesian Analysis of Radiocarbon dates, Radiocarbon, 51(1), 337-360.  
中村俊夫 (2000) 放射性炭素年代測定法の基礎, 日本先史時代の  $^{14}\text{C}$  年代編集委員会編「日本先史時代の  $^{14}\text{C}$  年代」日本第四紀学会, 3-20.  
Reimer, P.J., Bard, E., Bayliss, A., Beck, J.W., Blackwell, P.G., Bronk Ramsey, C., Buck, C.E., Cheng, H., Edwards, R.L., Friedrich, M., Grootes, P.M., Guilderson, T.P., Haffidason, H., Hajdas, I., Hatte, C., Heaton, T.J., Hoffmann, D.L., Hogg, A.G., Hughen, K.A., Kaiser, K.F., Kromer, B., Manning, S.W., Niu, M., Reimer, E.W., Richards, D.A., Scott, E.M., Southon, J.R., Staff, R.A., Turney, C.S.M., and van der Plicht, J. (2013) IntCal13 and Marine13 Radiocarbon Age Calibration Curves 0-50,000 Years cal BP. Radiocarbon, 55(4), 1869-1887.



表 25 白木遺跡 測定試料および処理

測定番号	遺跡ゾーン	原料ゾーン	原料ゾーン	前処理
PLD-41164 RIFNo. 1	RIFNo. 1 遺構 (9033) グリッド: 4976	種類: 炭化材 RIFの性状: 最終形成年輪以外 測定不明 状態: wet		超音波洗浄 有機溶剤処理: アセトン 洗・アルコール・難洗浄 (洗剤: 1.2 mol/L, 全酸化トリメチル 1.0 mol/L, 洗剤: 1.2 mol/L)
PLD-41165 RIFNo. 2	RIFNo. 2 遺構 (9025) グリッド: 4976	種類: 炭化材 RIFの性状: 最終形成年輪以外 測定不明 状態: wet		超音波洗浄 有機溶剤処理: アセトン 洗・アルコール・難洗浄 (洗剤: 1.2 mol/L, 全酸化トリメチル 1.0 mol/L, 洗剤: 1.2 mol/L)
PLD-41166 RIFNo. 3	RIFNo. 3 遺構 (9143) グリッド: 4976	種類: 炭化材 RIFの性状: 最終形成年輪以外 測定不明 状態: wet		超音波洗浄 有機溶剤処理: アセトン 洗・アルコール・難洗浄 (洗剤: 1.2 mol/L, 全酸化トリメチル 1.0 mol/L, 洗剤: 1.2 mol/L)
PLD-41167 RIFNo. 4	RIFNo. 4 遺構 (9043) グリッド: 4976	種類: 炭化材 RIFの性状: 最終形成年輪以外 測定不明 状態: wet		超音波洗浄 有機溶剤処理: アセトン 洗・アルコール・難洗浄 (洗剤: 1.2 mol/L, 全酸化トリメチル 1.0 mol/L, 洗剤: 1.2 mol/L)
PLD-41168 RIFNo. 5	RIFNo. 5 位置: 西側 深層 竈壁を覆う粘土質砂層の粘土部分	種類: 土壌 (ヒューミン) 状態: wet		超音波洗浄 有機溶剤処理: アセトン 洗・アルコール・難洗浄 (洗剤: 1.2 mol/L, 全酸化トリメチル 1.0 mol/L, 洗剤: 1.2 mol/L)

表 26 白木遺跡 放射性炭素年代測定および暦年較正の結果

測定番号	$\delta^{13}C$ (‰)	暦年較正暦年 (yrBP $\pm 1\sigma$ )	$^{14}C$ 年代 (yrBP $\pm 1\sigma$ )	$^{14}C$ の未暦年比に較正した年代範囲		$^{14}C$ の未暦年比に較正した年代範囲	
				1 $\sigma$ 暦年代範囲	2 $\sigma$ 暦年代範囲	1 $\sigma$ 暦年代範囲	2 $\sigma$ 暦年代範囲
				PLD-41164 RIFNo. 1	-28.83 $\pm$ 0.15	1318 $\pm$ 19	1320 $\pm$ 20
PLD-41165 RIFNo. 2	-28.48 $\pm$ 0.16	1259 $\pm$ 19	1260 $\pm$ 20	694-747 cal AD (62.49) 763-768 cal AD ( 5.49)	690-774 cal AD (95.6)	1256-1204 cal BP (62.49) 1187-1183 cal BP ( 5.49)	1271-1178 cal BP (95.6)
PLD-41166 RIFNo. 3	-27.95 $\pm$ 0.11	1401 $\pm$ 19	1400 $\pm$ 20	399-438 cal AD (68.25)	375-465 cal AD (95.6)	1332-1313 cal BP (68.25)	1379-1305 cal BP (95.6)
PLD-41167 RIFNo. 4	-28.28 $\pm$ 0.23	1232 $\pm$ 20	1230 $\pm$ 20	713-744 cal AD (29.93) 765-778 cal AD (12.36) 791-805 cal AD ( 8.49) 812-826 cal AD ( 6.93) 849-863 cal AD (11.99)	691-749 cal AD (38.65) 761-781 cal AD (14.70) 787-876 cal AD (82.39)	1237-1206 cal BP (29.93) 1185-1172 cal BP (12.36) 1129-1145 cal BP ( 8.49) 1129-1114 cal BP ( 6.93) 1119-1098 cal BP (11.99)	1260-1202 cal BP (38.65) 1189-1161 cal BP (14.70) 1164-1073 cal BP (12.36)
PLD-41168 RIFNo. 5	-27.44 $\pm$ 0.16	1420 $\pm$ 19	1420 $\pm$ 20	617-649 cal AD (68.25)	601-655 cal AD (95.6)	1332-1301 cal BP (68.25)	1349-1295 cal BP (95.6)

パレオ・ラボAMS年代測定グループ, 2022, 「(愛知県江南市南山町遺跡) 放射性炭素年代測定」

パレオ・ラボAMS年代測定グループ, 2023, 「(愛知県江南市南山町遺跡) 放射性炭素年代測定」

パレオ・ラボAMS年代測定グループ, 2019, 「(愛知県丹羽郡大口町白木遺跡) 放射性炭素年代測定」

## 2 南山町遺跡・白木遺跡における層序と堆積年代

鬼頭 剛・古澤 明・株式会社パレオラボ AMS 年代測定グループ

はじめに 南山町遺跡・白木遺跡にて地下層序を観察する機会を得た。その層序解析、火山灰分析および放射性炭素年代測定の結果を報告する。

試料および分析方法 各調査区で地表から、あるいは遺構検出面からバックホウにより掘削し層序断面を露出させ、層序断面図の作成と試料採取を行なった。層序断面図の作成にあたり、層相・粒度・色調・堆積構造・化石の有無などの特徴を詳細に記載した。また、調査地点の地下層序を解析するため試錐ボーリング掘削調査を実施した。試錐調査は株式会社アーキジオに依頼した。油圧式ロータリー型試錐機を使用し、コアボックススリーブ内蔵型サンプラー（φ 66mm）によりオールコアで実施した。また、コア資料および各調査区の層序断面からは火山灰分析、放射性炭素年代測定のための試料を採取した。分析方法の詳細を以下に記す。

火山灰分析の試料は古澤（2003）の方法を基本に前処理を行なった。はじめにナイロン製# 255 メッシュシート（糸径 43 μm、オープニングワイド 57 μm）を用い、流水中で洗浄した。残渣を# 125 メッシュシート（糸径 70 μm、オープニングワイド 133 μm）を用い水中で篩い分けした。これにより極細粒砂サイズ（1/8～1/16）に粒度調整した試料について超音波洗浄器を用いて洗浄し、表面に付着した粘土分などを洗い流した。薄片作成は、鉱物観察用スライドガラスの上に硬化後屈折率が 1.545 程度となる光硬化樹脂をのせ、この樹脂に洗浄・篩い分けを行なった試料を攪拌・封入させ、カバーガラスで覆い粒子組成観察用薄片を作成した。樹脂の屈折率を 1.545 とする目的は石英や長石類の識別にある。前処理・プレバート封入した粒子に対して偏光顕微鏡（100 倍）を用いて観察し、火山灰純層の場合 300 粒子（1000 粒子の平均値）を古澤（2003）の区別手法にしたがって区分した。火山灰固有で含有率の低い粒子の産出層準を特定するため 3000 粒子（10000 粒子の平均値）の粒子組成分析も行なった。屈折率の測定には、浸液の温度を直接測定しつつ屈折率を測定する温度変化型測定装置”MAIOT”を使用した。測定精度は火



第 50 図 南山町遺跡・白木遺跡における分析試料採取地点

山ガラスで±0.0001、斜方輝石および角閃石で±0.0002程度である(古澤, 1995)。火山ガラスの主成分分析についてSEMはHITACHI製SU1510を使用し、エネルギー分散型X線マイクロアナライザー(EDX)はHORIBA製EMAX ENERGY EX-270を用いた。火山灰分析は古澤が行なった。

放射性炭素年代測定は加速器質量分析(AMS)法により測定を行なった。加速器質量分析法は125 $\mu\text{m}$ の篩により湿式篩別を行ない、篩を通過したものを酸洗浄し不純物を除去した。石炭グラファイト)に調整後、加速器質量分析計(パレオ・ラボ、コンパクトAMS: NE製 1.5SDH)にて測定した。測定された $^{14}\text{C}$ 濃度について同位体分別効果の補正を行なった後、補正した $^{14}\text{C}$ 濃度を用いて $^{14}\text{C}$ 年代を算出した。 $^{14}\text{C}$ 年代値の算出には、 $^{14}\text{C}$ の半減期としてLibbyの半減期5,568年を使用した。 $^{14}\text{C}$ 年代の暦年代への較正にはOxCal14.4(較正曲線データ:INTCAL20)を使用した。なお、2 $\sigma$ 暦年代範囲は、OxCalの確率法を使用して算出された放射性炭素年代誤差に相当する95.45%信頼限界の暦年代範囲であり、カッコ内の百分率の値は、その範囲内に暦年代が入る確率を意味する。放射性炭素年代測定は株式会社パレオラボAMS年代測定グループが行なった。

#### 分析結果

南山町遺跡では調査区全体の西から、21A区の西端で地点1、20B区の中央部で地点2、20A区の南壁セクションで検出された考古遺構054SDの横断面西側で地点3、および同調査区の東端で地点4の2地点、21B区の西端で地点5の計5地点でバックホウによる深掘を行なった(第50図)。白木遺跡では20区の調査区西端で地点6、同調査区の中央部で地点7の計2地点でバックホウにより深掘を実施した(第50図)。各地点では層序の観察・記載と分析試料を採取した。詳細を地点番号順に記す。

#### 南山町遺跡

南山町遺跡について地点1は21A区の西端、北壁寄りでバックホウにより遺構検出面より約2.5m掘削した(第51図)。下位層より、14.47m～14.98mは大礫～巨礫層からなる。基質は褐色を呈する中粒砂～極粗粒砂よりなる基質支持礫層である。礫は円礫が優占する。礫種は濃飛流紋岩が大部分を占める。基質の砂の淘汰は良好である。本層の礫と礫との間を埋める基質である砂層の火山灰分析より御岳湯町火山灰を含む御岳奈川火山灰を起源とする火山ガラスが混在していることがわかった(表27)。標高14.98m～15.80mは明褐色の中粒砂～粗粒砂層である。基質にシルト成分を含む。地層内には白色を呈する中粒砂が斑状に認められる部分もある。砂粒子の淘汰は良好であるが堆積構造はみられない。下位層との層理面は明瞭である。標高15.80m～16.20mは赤褐色～明褐色を呈する中粒砂である。基質にシルト成分を含み、下位層に比べて含まれるシルトの量が多くなる。砂粒子の淘汰は良好であるが、堆積構造はみられない。下位層および上位層との層理面は不明瞭である。標高16.20m～16.67mは黒褐色の部分と褐色の部分とが斑状に混じる砂質シルト層である。堆積構造は認められない。下位層との層理面は不明瞭である。本層中部、標高16.37mが遺構検出面となる。標高16.67m～16.74mも黒褐色の部分と褐色の部分とが斑状に混じる砂質シルト層である。下位層に比べて若干黒褐色を呈する部分が優占する。堆積構造はみられない。下位層との層理面は不明瞭である。標高16.74m～16.92mは褐色のシルト層からなる。塊状で堆積構造は認められない。下位層との層理面は不明瞭である。標高16.92m～17.04mは現代の盛り土であり、本層の頂部(標高17.04m)が地表面である。

地点2は20B区の調査区中央部分においてバックホウにて約0.6m掘削した(第54図)。深度が0.6mと浅いのは湧水がみられたためである。地層断面中央にみられる径25cm四方の黒褐色を呈する粘土ブロックを挟んで、粘土ブロックの西側(第54図では左側)では標高14.16m～

14.36mには大礫～巨礫層がみられる。基質は灰色を呈する中粒砂～極粗粒砂が充填する。礫は円礫を主体とし、濃飛流紋岩からなる礫が多い。基質である砂の火山灰分析を行ない屈折率が1.498-1.507を示す低発泡の火山ガラスを検出した(表28)。また、斜方輝石と緑色の普通角閃石がやや多く含まれ、斜方輝石の屈折率( $\gamma$ )は1.702-1.716とブロードな特徴をもつ。火山ガラスを検出したものの該当する対候補はなく、給源を決定するには至っていない(表28)。標高14.36m～14.69mには灰色を呈する中粒砂～粗粒砂層がみられる。基質に若干のシルト成分を含む。地層全体に塊状で堆積構造はみられない。砂粒子の淘汰は良好である。黒褐色の粘土ブロックを挟んだ東側(第54図では右側)には標高14.16m～14.69mまで粘土ブロックの西側でみられる中粒砂～粗粒砂層が覆う。地層断面中央でみられる黒褐色粘土ブロックの放射性炭素年代測定では3085-2995 cal yr BP (1136-1046 BC : PLD-43722)の数値年代が得られた(表29)。

地点3は20A区の調査区の南壁で考古遺構054SDの横断面が確認される地点において、遺構の西端が認められる地点で試料を採取した(第52図)。標高15.13m～15.63mは黄褐色～褐色を呈する細粒砂である。塊状で堆積構造はみられない。基質にシルトを含む。砂粒子とシルト成分との量比は地層の下部では砂粒子が卓越し、上部にいくに従って砂粒子の含有量が減少しシルト成分の量が増えていく。標高15.63m～16.05mは黄褐色～褐色を呈する細粒砂層の中に、層厚数mm～1cm程度の黒褐色シルト層が側方へのびる脈状の堆積構造がみられる。黒褐色シルト層の側方への連続性は悪い。これは本層が水で飽和していた地層が地震動などのくり返し応力を受けた際に形成されたじょう乱(血状)構造をみているものである。標高15.60m～16.00mの考古遺構054SDを埋めるのは黒褐色を呈するシルト層である。本層内にも地層全体にじょう乱構造が認められる。本層の標高15.76mの層準より土壌を採取し放射性炭素年代測定を行なったところ1882-1741cal yr BP (68-209 AD : PLD-50652)の数値年代が得られた(表30)。

地点4は20A区の調査区南壁の東端でバックホウにより約1.5m掘削した(第55図)。標高14.76m～15.18mは大礫～巨礫層からなる。灰色～褐色を呈する基質は中粒砂～極粗粒砂よりなる基質支持礫層である。礫は円礫を主体とし、濃飛流紋岩から礫が大半を占める。基質の砂の淘汰は良好である。基質の砂の火山灰分析を行なったが火山ガラス等は検出されなかった(表27)。標高15.18m～15.76mは明褐色の中粒砂～粗粒砂層である。基質にシルト成分を含む。地層は塊状で堆積構造はみられない。砂粒子の淘汰は良い。本砂層の上部、標高15.60m～15.76mの層準には層厚数mm～1cm程度の黒褐色シルト層が側方への連続性悪く脈状のじょう乱構造が特徴的にみられる。この構造は水で飽和した地層が地震動などのくり返し応力を受けてきた血状構造である。標高15.76m～15.98mは黒褐色を呈する粘土質シルト層ないしシルト質粘土層からなる。標高15.76m～15.98mには3層が確認でき、これらの地層が考古遺物包含層となる。3層の最下部、標高15.78mから採取した黒褐色粘土からなる土壌の放射性炭素年代測定により1671-1619 cal yr BP (279-331 AD : PLD-50653)の数値年代が得られた(表30)。標高15.98m～16.14mは黒褐色を呈する粘土質シルト層ないしシルト質粘土層からなる。塊状で堆積構造はみられない。本層の上を現代の盛り土が覆う。

地点5は21B区の西端で遺構検出面よりバックホウで約1.5m掘り下げた(第53図)。下位層より、標高13.57m～14.27mは大礫～巨礫層からなる。基質は灰色を呈する中粒砂～極粗粒砂よ

りなる基質支持礫層である。基質の砂の淘汰は良好である。礫は円礫が卓越する。礫種は濃飛流紋岩が大部分を占める。基質である砂層を用いて火山灰分析を行なったが火山灰は検出されなかった(表27)。標高14.27m～15.08mは明灰色ないし灰色を呈する。砂質シルト層よりなる。塊状で堆積構造は認められない。下位層との層理面は明瞭である。本層の頂部、標高15.08mが遺構検出面となる。本層の火山灰分析を行なったが火山灰は検出されなかった(表27)。

#### 白木遺跡

白木遺跡では19区の2地点でバックホウによる掘削を行っている。地点6は19区の西端でバックホウにより地表面から約2.0m掘削した(第56図)。下位層より、標高13.01m～13.25mは大礫～巨礫層である。灰色の中粒砂～極粗粒砂を基質とする基質支持礫層である。礫は円礫を主体とし、礫種として濃飛流紋岩が大部分を占める。基質の淘汰は良い。基質である砂の火山灰分析を行ったが噴出年代のわかる火山灰は検出されなかった(表31)。標高13.25m～13.36mは青灰色を呈する粘土層である。塊状で堆積構造はみられない。本層と下位層との層理面は明瞭である。本層の最下部、標高13.20m付近で採取した粘土層の土壌試料の放射性炭素年代測定では1347-1297 cal yr BP(603-653 AD; PLD-41168)の数値年代が得られた(表32)。標高13.36m～14.70mは灰色～灰褐色のシルト質砂層からなる。塊状で堆積構造はみられない。本層と下位層との層理面はその色調の差から明瞭である。標高14.70m～15.04mは灰色の砂質シルト層である。本層は現代の盛り土であり、本層の頂部、標高15.04mが地表面である。

地点7は19区の中央部でバックホウにより遺構検出面より約1.5m掘り下げた(第57図)。下位層より標高13.59m～14.33mは大礫～巨礫層からなる。礫と礫との間を充填する基質は褐色を呈する中粒砂～極粗粒砂からなる基質支持礫層である。礫は円礫を主体とし、礫種は濃飛流紋岩が大部分を占める。基質の淘汰は良い。基質である砂の火山灰分析を行なったが火山ガラス等の給源を特定できる火山灰は検出されなかった(表31)。標高14.33m～14.96mは赤褐色～褐色を呈するシルト質粘土層である。地層は全体に塊状で堆積構造はみられない。下位層との層理面は明瞭である。本層および下位層の礫層との層理面は数度の傾斜で西へ傾いており、本層と礫層との間にはくさび状に細粒砂層が挟まれるのを観察した。挟まれる砂層の淘汰は良好である。

#### 謝辞

本論を作成するにあたり、放射性炭素年代測定では株式会社バレー・ラボAMS年代測定グループの伊藤茂氏・佐藤正教氏・廣田正史氏・山形秀樹氏・小林紘一氏・Zaur Lomtadidze氏・小林克也氏にお世話になった。図表の作成では国際文化財株式会社にお手伝いいただいた。分析試料の整理・保管と原因の作成では整理補助員の前田弘子氏・鈴木好美氏にお手伝いいただいた。記して厚くお礼申し上げます。

古澤 明, 1995, 火山ガラスの屈折率測定・形態分類とその統計的な解析, 地質学雑誌, 101, 123-133.

古澤 明, 2003, 洞窟火山灰降下以降の岩手火山のテフラの識別, 地質雑報, 109, 1-19.

町田 洋・新井朋夫, 2003, 新編 火山灰アトラス [日本列島とその周辺], 東京大学出版会, 336.

表 27 地点1 (21A区)、地点4 (20A区)、地点5 (21B区) の火山灰分析結果

地点	調査区	標高(m)	堆積物	火山ガラスの形態別含有量(/3000)			重鉱物の含有量(/3000)			β石英 (/3000)	テフラ名
				Bw	Pm	O	Ope	Gho	Cum		
4	20A	14.76	大礫～巨礫層	0	0	0.1	12	16	0	0	
1	21A	14.47	大礫～巨礫層	0.3	0.1	0.1	10	11	0	0	御岳/濁川テフラ群
5	21B	14.28	灰色砂質シルト層	0	0	0	13	29	0	0	
5	21B	13.57	大礫～巨礫層	0	0.1	0.1	7	28	0	0	

Bw:バブルウォールタイプ  
Pm:バズタイプ  
O:低発泡タイプ

Ope:斜方輝石  
Gho:緑色普通角閃石  
Cum:カニングトン閃石

表 28 地点2 (20B区) の火山灰分析結果

地点	調査区	標高(m)	堆積物	火山ガラスの形態別含有量(/3000)			重鉱物の含有量(/3000)			β石英 (/3000)	火山ガラスの屈折率	テフラ名
				Bw	Pm	O	Ope	Gho	Cum			
2	20B	14.16	大礫～巨礫層	0.1	0.2	0	31	34	0	0	1.499-1.507	

Bw:バブルウォールタイプ  
Pm:バズタイプ  
O:低発泡タイプ

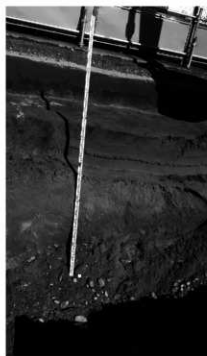
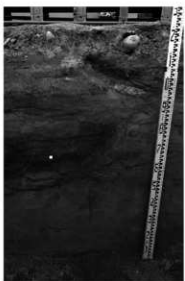
Ope:斜方輝石  
Gho:緑色普通角閃石  
Cum:カニングトン閃石

表 29 地点2 (20B区) における放射性炭素年代測定結果

地点	調査区	標高	堆積物	試料の種類	<sup>14</sup> C年代 ( <i>cal</i> BP)	δ <sup>13</sup> C PDB (‰)	2σ 暦年代範囲 (AD, 95% probability)	2σ 暦年代範囲 ( <i>cal</i> <i>cal</i> BP, probability)	Lab code No(method)
2	20B	14.19	黒褐色粘土層	土壌	2820 ± 20	-23.20 ± 0.12	1136 - 1046 BC (58.40 %) 1219 - 1138 BC (34.37 %)	3085 - 2995 (58.40 %) 3159 - 3087 (34.37 %)	PLD - 43722 (AMS)

表 30 地点3 (20A区)、地点4 (20A区) の放射性炭素年代測定結果

地点	調査区	標高	堆積物	試料の種類	<sup>14</sup> C年代 ( <i>cal</i> BP)	δ <sup>13</sup> C PDB (‰)	2σ 暦年代範囲 (AD, 95% probability)	2σ 暦年代範囲 ( <i>cal</i> <i>cal</i> BP, probability)	Lab code No(method)
3	20A	15.76	黒褐色シルト層	土壌	1910 ± 20	-22.42 ± 0.15	88 - 209 AD (95.45 %)	1892 - 1741 (95.45 %)	PLD - 50652 (AMS)
4	20A	15.79	黒褐色シルト質粘土層	土壌	1790 ± 20	-22.01 ± 0.17	279 - 331 AD (95.68 %)	1671 - 1619 (95.68 %)	PLD - 50653 (AMS)

第51図 地点1 (南山町遺跡21A区) における深掘の地層断面  
白点は科学分析試料の採取層準を示す。スタッフの長さは3m。南から撮影第52図 地点3 (南山町遺跡20A区)南壁中央部の地層断面  
白点は科学分析試料の採取層準を示す。北から撮影第53図 地点5 (南山町遺跡21B区)西壁における深掘の地層断面  
東から撮影



第54図 地点2 (南山町遺跡20B区) における深掘の地層断面

白点は科学分析試料の採取層準を示す。南から撮影



第55図 地点4 (南山町遺跡20A区)南壁北端における深掘の地層断面

白点は科学分析試料の採取層準を示す。北から撮影

表 31 地点6 (19区)、地点7 (19区) の火山灰分析結果

地点	調査区	標高(m)	堆積物	火山ガラスの形態別含有量(/3000)			重鉱物の含有量(/3000)			β石英 (/3000)	テフロン名
				Bw	Pm	O	Opx	Qzo	Cum		
7	19区	14.33	大礫～巨礫層(上部)	0	0	0	13	17	0	0	
7	19区	13.59	大礫～巨礫層(最下部)	0.1	0	0	25	24	0	0	
6	19区	13.01	大礫～巨礫層	0	0	0	20	19	0	0	

Bw: バブルウォールタイプ

Pm: パリスタイプ

O: 板状タイプ

Opx: 斜方輝石

Qzo: 緑色普通角閃石

Cum: カンシントン閃石

表 32 地点6 (19区) における放射性炭素年代測定結果

地点	調査区	標高 (m)	堆積物	試料の種類	<sup>14</sup> C年代 ( <i>cal BP</i> )	$\delta^{13}C_{org}$ (‰)	2σの暦年代範囲 (AD/BC, probability)	2σの暦年代範囲 ( <i>cal BP</i> , probability)	Lab code
6	19区	13.20	黄灰色粘土層	土壌	1420 ± 20	-27.44 ± 0.16	603 - 863 AD (35.45 %)	1247 - 1297 (35.45 %)	PLR-41168 (AMS)



第56図 地点6 (白木遺跡19区)西端における深掘の地層断面

白点は科学分析試料の採取層準を示す。北東から撮影



第57図 地点7 (白木遺跡19区)調査区中央部における深掘断面

白点は科学分析試料の採取層準を示す。北から撮影

## 第5章 総括

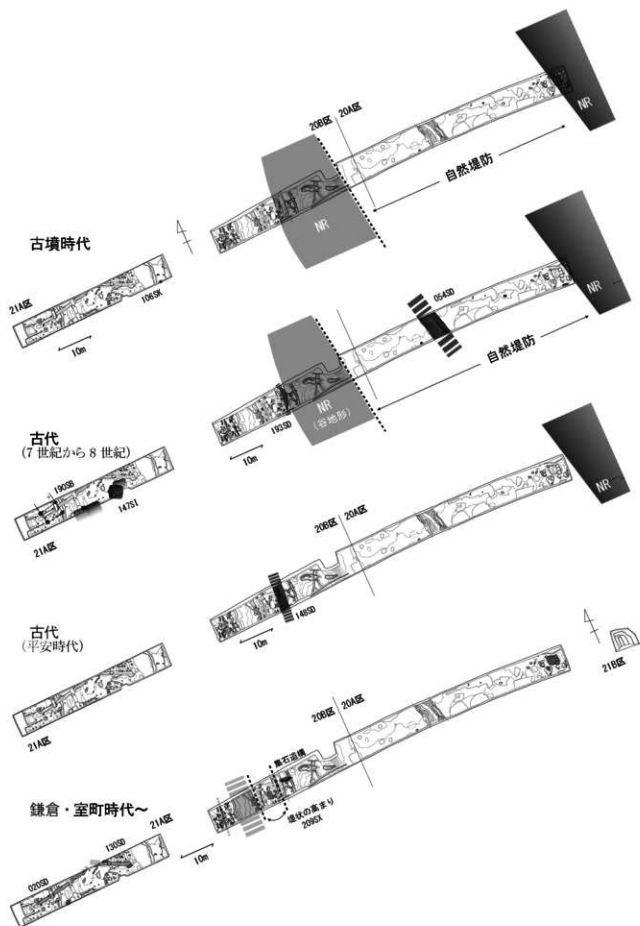
### 1 南山町遺跡の調査成果

江南市域では遺跡の発掘調査事例が少ないこともあり、周辺の開発が進行するなかでの南山町遺跡の調査は、地域の財産としても貴重な埋蔵文化財資料を新たに加えることになった。

調査範囲は大口町との境界となる五条川の右岸から東西方向約190mとなる細長い区画であり、起伏の大きい扇状地地形に展開した複合遺跡を確認した。調査地点周辺は、昭和50年代に行われた国道155号の建設にともなう大規模な改変の影響を受けている。現況はほぼ平坦であるが、現在の五条川堤防より距離にして約120mまでの範囲では上部が削平された自然堤防の痕跡が、さらにその西側では大きく窪む旧流路の痕跡などの地形が確認された。断片的とはなるが、調査成果をもとに土地利用の変遷をまとめておきたい。

- 古墳時代** 古墳時代は、4世紀初頭を中心とした時期の土師器の小片が溝(20A区054SD, 20B区148SD)を中心に出土している。明確な遺構はほとんど検出されておらず、21A区東端付近で壺(182)が出土した106SKのみである。この時期に周辺では居住が始まっていたとみられる。北側に位置する富士塚古墳の築造時期に関わる資料は得られなかった。
- 古代** 遺構に伴う出土遺物では、7世紀から8世紀が今回の調査地点で最も活発な活動がみられた時期である。五条川に近い東側では、古墳時代前期の土師器から8世紀前半の須恵器までが含まれる大型の溝(054SD)のみが削平を免れて遺存していた。流路に沿う自然堤防上が活発に利用されていたとみられる。流路からやや離れた西側で居住域が確認できた。竪穴建物21A区147SIは、出土遺物小片と炭化材の年代測定結果から7世紀後半から8世紀後半の時期と比定され、不明瞭ながらも周囲に複数の竪穴建物が推定できる。出土遺物は7世紀後半から8世紀前半の須恵器があり、このうち2点には刻書が認められる。これらは調査区外南側にかけても集落域が広がる可能性を示している。さらに、中世の溝に先行する掘立柱建物跡(21A区190SB)も推定でき、建替えにより重複する柱穴の一つからは8世紀後半の須恵器が出土している。
- 平安時代** 平安時代は遺構に伴うものが少ないが、20B区を中心に灰釉陶器と清瀬型鍋が出土している。調査範囲中央付近で確認された谷地形(旧流路跡)の埋積が進むとともに溝148SDが機能していたと考えられる。建物などの遺構が明確に確認できないが、表土直下の集石遺構(089～092SU)をはじめ包含層には灰釉陶器が多数含まれており、注目される資料として小片ながら瓦塔(157)が出土している。10世紀頃には周辺での活動は活発化していたと想像される。
- 瓦塔**
- 中世** 鎌倉・室町時代の遺構または遺物は、調査区のほぼ全体で確認されたが、五条川に近い東側(20A区)では遺構が極端に疎らとなる。削平された自然堤防上が利用されていたかもしれない。一方、西側は近世には整備されていたという街道(岩倉街道)が想定されており、査地点の南西600mほどの内に織田・豊臣・徳川家に仕えた生駒氏の屋敷跡(小折城・生駒屋敷)、菩提寺の久昌寺、生駒氏墓地などが分布している。調査範囲の西寄りにかけての遺構・遺物が濃密に分布することは、街道整備以前の交通路との関連や集落の中心域がさらに西側に展開する様相として捉えることができよう。調査では12世紀後半から13世紀代を中心とした区画溝(020, 130SD)や柱穴などが検出された。軸線方向が異なり複数時期の変更があるためと考えられる。





第58図 南山町遺跡 主要遺構変遷図

## 2 白木遺跡の調査成果

### (1) 遺構・遺物と遺跡の変遷

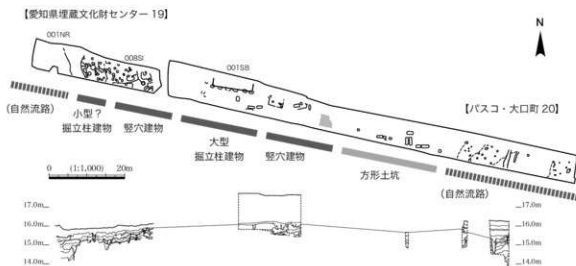
**遺跡の内容** 白木遺跡は過去の発掘調査、同事業に伴う大口町、そして今回の発掘調査により、遺跡の内容が一定程度に明らかになった。遺跡は東西約100m、南北約300mの南北に細長い自然堤防上に展開する複合遺跡で、遺構・遺物が示す時期は古代の7世紀後葉から8世紀前葉が主体である。

**弥生時代** 弥生時代後期から古墳時代中期は遺物が断続的に出土する。遺物は古墳時代前期初頭が相対として多い。同時期については、遺物が明確に伴う遺構を認識することは困難で、不安定な環境下にあったと推測される。大口町調査の下面では弥生時代終末期(古墳時代初頭)とされる竪穴建物、柱穴等の遺構が確認されているが、「明確な遺構の判別は困難を極めた」と述べられているように、実際には上層で検出が困難であった遺構を結果として下層で検出した可能性もある。

昭和47年の緊急調査で出土したとされる遺物には弥生時代中期の遺物が多く含まれるが、令和2年度の大口町調査においても同時期の遺構・遺物はほとんど認められないことから、ごく限られた範囲に展開していたのであろう(あるいは、緊急調査出土とされる遺物中に他の遺跡の遺物が含まれている可能性もある)。

**古代** 古代は7世紀から8世紀にかけて竪穴建物、掘立柱建物から構成される遺構群が展開する。遺構は高燥な自然堤防の頂部付近に大口町調査の大型掘立柱建物(以下、大型柱穴列を大型掘立柱建物として扱う)001SB、その東西の緩斜面上に竪穴建物が分布する。さらにその東西は後背地、自然流路に連続する(第59図)。001SBは調査区の制約から、桁行が判明するのみであるが、桁行11.4mで、後述する下田南遺跡でも最大、桁行11.0mのSB0008とほぼ同規模である(柱間は前者が5間、後者が6間)。時期は明確ではないが、遺跡の盛期である7世紀後葉から8世紀前葉が想定される。

9世紀以降の遺構、遺物は極端に減少し、中世には方形土坑が散在する程度になる。その後は、耕作地としての土地利用に移り、集落は五条川右岸に集約されたと考えられる。



第59図 白木遺跡の遺構分布

## (2) 古代の遺構と時期変遷

- 時期区分** センター調査区の古代の遺構については、遺構の先行関係と出土遺物から、3期に区分して理解する(第60図)。
- 1期** 2期に先行する堅穴建物009SI・014SIが構築される時期を1期とした。堅穴建物に伴う遺物は明確ではないが、遺跡から出土する遺物から7世紀前葉から中葉(東山44号窯式から岩崎101号窯式)が想定される(出土遺物からは6世紀が含まれる可能性もある)。遺構の重複による影響が大きく、詳細は明らかではない。
- 2期** 堅穴建物008SI・005SIが構築される時期を2期とした。大型堅穴建物008SI、出土遺物の内容から、遺跡の中核的な時期と理解され、7世紀後葉から8世紀前葉(岩崎17号窯式から高蔵寺2号窯式)が想定される。010SIは明確ではないが、2期から3期に対応すると考えられる。「人」刻書須恵器が出土した昭和47年の緊急調査の遺構、大口町調査001SIも同時期に対応する。この時期には西端の自然流路の埋没が進行し、遺跡周辺は平坦化する。
- 3期** 堅穴建物003SI・007SIが構築される時期を3期とした。8世紀中葉から後葉(岩崎25号窯式から折戸10号窯式)が想定される。掘立柱建物の時期は明確ではないが、3期を前後して、堅穴建物は010SIを含めて調査区東端付近に構築されることから、位置関係を考慮して仮に006SBを2期、004SBと013SBを3期と想定した。8世紀後葉には建物群が廃絶に向かい、遺物も減少する。

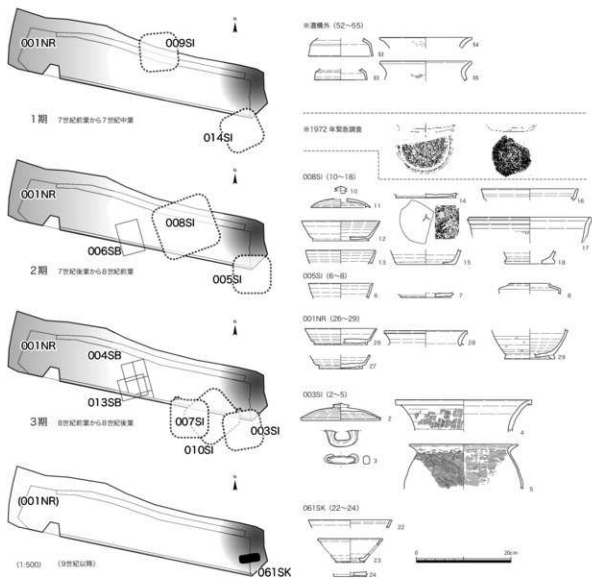
## (3) 古代の遺構と遺跡の評価

**遺構と遺物** 遺構の面からは、大口町調査で検出された大型掘立柱建物001SBと今回の発掘調査で検出された大型堅穴式建物008SI、遺物の面からは緊急調査で2点、今回の発掘調査でも1点が出土した「人」刻書須恵器が目される。前者は下流側の下田南遺跡で検出された総柱構造を含めた掘立柱建物(倉庫群)と大型堅穴建物、後者は尾北窯に含まれる篠岡66号窯との関連が想起される。

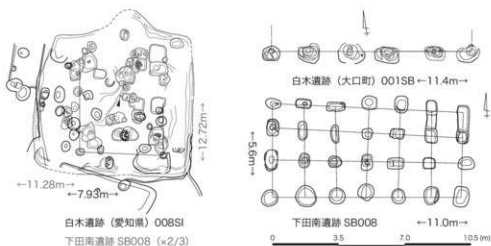
**下田南遺跡** 7世紀後半から8世紀前葉(下田南IV期)の下田南遺跡の遺構群は、周辺を含めて郡庁を想定することは難しいとされるが、掘立柱建物は丹羽郡家(評家)の出先機関の正倉と推定されている。丹羽郡家(評家)そのものは「小折」の地名、天王山遺跡の古墳、曾本二子山古墳、いわき塚古墳等の有力な古墳で構成される小折古墳群(早野2023)から、江南市の小折地区に存在したことが有力とされる(赤塚2001)。

白木遺跡と下田南遺跡の大型掘立柱建物の規模の類似は先述の通りで、高燥な自然堤防状微高地に立地する点も共通する。大型堅穴建物については、白木遺跡の大型堅穴建物008SIは、長辺12.72m、短辺11.28mの下田南遺跡最大の1d区S1609には大きく及ばないが(2:3の比率で対応する)、それを除く大型堅穴建物の一群の規模に匹敵する。つまり、同地区に接し、下田南遺跡とも類似する白木遺跡の遺構は郡家(評家)との関連が推測される。同時に、下田南遺跡の至近にある粟師堂廃寺、白木遺跡と下田南遺跡の中間に所在する長福寺廃寺は郡家(評家)周辺寺院として捉えられることになる。

**篠岡66号窯** 篠岡66号窯は、「五十長」、「多楽里(尾)張戸連」(「尾」が脱落)、「多楽里尾口」、「鹿田里積口」、「雀(ア)足」、「口(ア)足」、「山田安」、「多楽里」、「多楽」、「長」を記した豊富な文字瓦が出土している高蔵寺2号窯式期の瓦陶兼業窯である。同窯が含まれる尾北窯には顕著な中央志向が指摘されることから(城ヶ谷1996)、同窯から製品が供給された可能性が示唆される白木遺跡の性格の一端が看取される。

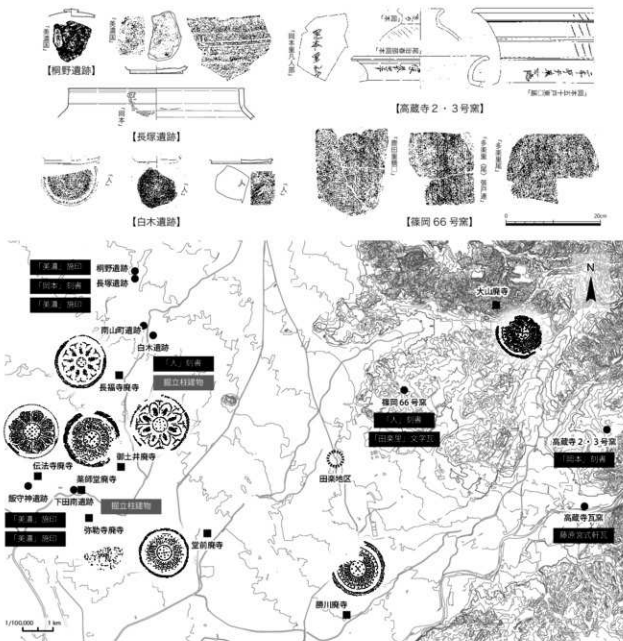


第60図 古代の遺構と時期変遷



第61図 白木遺跡と下田南遺跡の大型建物の比較

**長塚遺跡** 同じく小折地区に接する長塚遺跡には「岡本」刻書須恵器が知られている(岩野 1998)。「岡本」刻書須恵器は高蔵寺2・3号窯の製品に認められることから、同窯を含めた尾北窯から供給されたことは確実である。さらに、長塚遺跡とその至近の桐野遺跡の「美濃」施印須恵器は美濃須衛窯からも製品が供給されていたことを示す。つまり、小折地区周辺は、尾北窯・美濃須衛窯を管掌していた中央と(その出先機関である)尾張・美濃の官衙機構と密接な関係にあったことが推測される。それは尾北窯の「岡本」刻書須恵器と美濃須衛窯の「三野國加々木(牟)評口」「秦人マ佐口 三野國加口」刻書須恵器が出土している石神遺跡からも類推される。「岡本」刻書須恵器は他に可見・御嵩地域の雨田遺跡においても出土している(渡辺 1998)。同地域の宮之脇遺跡A地点から1点、柿田遺跡から6点の「美濃」施印須恵器が出土していることも、尾北窯と美濃須衛窯の関係の深さを示す。



第 62 図 古代の白木遺跡とその周辺

**藤原宮式軒瓦** 一方、下田南遺跡に隣接する薬師堂廃寺には高藏寺瓦窯から供給された(勝川廃寺とも同范の)藤原宮式軒瓦が出土している。大山廃寺、堂前廃寺の文様がやや退化した同文瓦を含めた分布が尾北窯の東部に限られることも、この地域の特性を反映している(梶原 2010)。近隣の伝法寺地区の飯守神遺跡から出土した「美濃」施印須恵器2点もその一端である。

**丹羽郡家** 五条川左岸の上流側と下流側に分布する白木遺跡と下田南遺跡の周辺における遺構・遺物の存在形態は、7世紀から8世紀における地方の官衙機構を解明するための重要な手掛かりとして評価される(第62図)。ひいては、これまで不明であった丹羽郡家(評家)にかめいる議論に一石を投じることになるであろう。小折古墳群と遺跡、丹羽郡家(評家)の接続を考究する端緒が得られたことも意義深い。

#### 【参考文献】

- 赤塚次郎 2001「原始」『江南市史』本文編 江南市  
岩野見司 1998「岡本」造書き須恵器の新例『楢崎彰一先生古稀記念論文集』真陽社  
梶原義実 2010「軒瓦」『愛知県史』資料編4 考古4 飛鳥～平安  
城ヶ谷和広 1996「律令体制の形成と須恵器-7世紀における瓦陶兼業窯の展開-」『日本考古学』第3号 日本考古学協会  
早野浩二 2023「小折古墳群の研究-江南市天王山遺跡の家形埴輪-」『研究紀要』第24号 公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団愛知県埋蔵文化財センター  
渡辺博人 1998「岐阜県御嵩町雨田遺跡出土の「岡本」銘須恵器とその背景」『岐阜史学』第94号 岐阜史学会  
愛知県 2007『愛知県史』別編別業2 中世・近世 瀬戸系
- 【遺跡文献】  
愛知県 2010『愛知県史』資料編4 考古4 飛鳥～平安  
愛知県 2015『愛知県史』別編 別業1 古代 埴投系  
愛知県一宮建設事務所・株式会社バスコ・大口町歴史民俗博物館 2022『白木遺跡』  
岩倉市教育委員会・株式会社アークジオ 2023『下田南遺跡発掘調査報告書』  
大口町 1982『大口町史』  
大口町教育委員会 2010『大口町内遺跡発掘調査報告書』大口町埋蔵文化財調査報告書第7集  
江南市 1983『江南市史』資料四 文化編  
小牧市教育委員会 1976『桃花台ニュータウン遺跡調査報告』  
奈良国立文化財研究所 1993『奈良国立文化財研究所年報』1993

## 報告書抄録

ふりがな	みなみやまちよういせき・しらきいせき							
書名	南山町遺跡・白木遺跡							
副書名								
巻次								
シリーズ名	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書							
シリーズ番号	第224集							
編著者名	武部真木(編集) 早野浩二 鬼頭 剛 (株)パレオ・ラボAMS年代測定グループ							
編集機関	財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団 愛知県埋蔵文化財センター							
所在地	〒498-0017 愛知県弥富市前ヶ須町野方802-24 TEL0567(67)4161							
発行年月日	西暦 2024年 3月 31日							
ふりがな 所取遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
みなみやまちよういせき 南山町遺跡	あいちけん こうなんし 愛知県江南市 みなみやまちよう 南山町	23217	060063	35度 18分 51秒	136度 52分 50秒	2020.07.06～ 10.16 2022.01.06～ 03.07	1,040  700	道路改良 工事
しらきいせき 白木遺跡	あいちけん にわかひ 愛知県丹羽郡 おおでちちようよだ 大口町豊田	23361	230024	35度 18分 50秒	136度 52分 59秒	2020.02.07～ 03.17	370	
所取遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
南山町遺跡	集落	古墳時代 ～ 江戸時代	竪穴建物、溝、 集石遺構、土坑等	古墳時代土師器、 瀬戸美濃窯産陶器、 石製品、金属製品等		瓦塔(小片)		
白木遺跡	集落	古墳時代 ～ 奈良時代	竪穴建物、土坑、 掘立柱建物等	土師器・須恵器等		大型竪穴建物 刻書須恵器		
文書番号	南山町遺跡 発掘届出(2埋七第30号 2020.6.9) 通知(2文芸第783号 2020.6.9) 終了届・保管証・発見届(2埋七第112号 2020.10.21) 鑑定結果通知(2文芸第2512号 2020.11.18)			発掘届出(3埋七第83号 2021.8.20) 通知(3文芸第1433号 2021.9.6) 終了届・保管証・発見届(3埋七第149号 2022.3.14) 鑑定結果通知(3文芸第2636号 2022.3.24)				
	白木遺跡 発掘届出(31埋七第101号 2019.12.24) 通知(31教生第3141号 2020.1.14) 終了届・保管証・発見届(31埋七第154号 2020.3.19) 鑑定結果通知(2文芸第55号 2020.4.7)							
要約	<p>大山扇状地扇央部に立地する遺跡であり、五条川の自然堤防上に両遺跡は立地する。南山町遺跡(江南市)では古墳時代、奈良・平安時代、鎌倉・室町時代まで断続的に遺物が認められた。主な遺構の分布から、調査地点は7世紀後葉から8世紀には竪穴建物からなる集落が展開し、12,13世紀には集落の縁辺部となっていたと考えられる。</p> <p>白木遺跡(大口町)では竪穴建物、大型の柱穴をもつ掘立柱建物で構成される遺構群が検出され、刻書された須恵器が出土するなど、7世紀後葉から8世紀前葉を盛期とする集落が確認された。この周辺ではこれまで空白期であった時期の資料である。</p>							

愛知県埋蔵文化財センター調査報告書 第224集

## 南山町遺跡 白木遺跡

2024年3月31日

発行 公益財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団  
愛知県埋蔵文化財センター

印刷 西濃印刷株式会社